

第
二
部

戦時經濟講話

小 序

今年八月文部省が實業教員講習會を開催するに當つて余は「戦時經濟」の講義を受持つことになつた。此書は即ち當時講義に用ひた所の覺書を知人の勧めに従て文章に書綴たものである。

余が「戦時經濟」といふ如き題目の講義を依頼された理由は恐らく一昨年來英國に滞在して居て大亂突發の當時彼國の有様を目の當り見たといふことにあるのだらう。けれども余は外交にも、軍事にも、商業にも、直接關係のない一介の讀書生であるから別段實地の經驗に依て得た知識の有る筈もなく、又特に珍しい材料を得るの便宜を有したといふ次第でもない。唯普通の新聞雜誌の記事を讀で多少考へて見たといふ丈けのことであつて、余の戦時經濟觀はつまり書齋の戰爭觀の一部である。苟も英國の經濟雜誌を見て居る人ならば誰でも知て居る所の材料を基礎としたのである。此外に佛、露、獨、澳乃至は諸中立國の材料を蒐集することは遺憾ながら微力の及ばざる所であつた。聞く所に依れば昨今世間には諸々の團體の事業として多數の専門家が手分けをして戦時經濟の調査を進めて居らるゝといふことであるから、遠からず完全なる調査報告が發表せらるゝであらうと思ふ。唯今回の大亂は實に世界未曾有の大事件であつて近世の世界經濟組織を根底から震蕩せしめ其長所短所を赤地に曝露したものであるから、余の如きも思は

ず學問上の興味に釣られて本務の餘暇に筆を執ることゝなつたものである。

本書は結論なしに世に公にすることゝなつたが其理由は極めて簡單である。即ち戦争其自身がまだ終結に至らない爲めである。開戦以來一ヶ年を経過して開戦當時の恐慌は一先づ鎮靜に歸したけれども、戦時經濟に特殊なる現象は時々刻々に發展しつゝある。本書の記事の如きも外國郵便の到着する毎に多少の改削を加へなければならぬ様な有様である。故に今日爲し得る所の「戦時經濟講話」は完結した歴史の物語りでなくして、いはゞ物語の前半部である。今迄の事實に基て結論を引出せば夫は結論でなくして豫言になるだらう。而かも豫言者たることは本書に於て余の全く期せざる所なのである。

以上の理由に依て本書は本年八月前に入手した材料即ち六七月迄に生じた出來事を以て締切ることにしたが、若し幸にして江湖の愛讀を得ることが出來たらば更に其後の問題に就て筆を執るやうにしたいと思ふ。

大正四年九月相州小八幡の寓に於て

著 者 誌

目次

第一章	開戦前後の事情	三六
第二章	英國金融界の打撃	三〇
第三章	獨逸金融界の動員	三〇
第四章	外國貿易の動搖(英國)	三六
第五章	英國の食料及原料供給問題	三六
第六章	獨逸の食料自給策	三六〇
第七章	戦時の労働問題	三七三
第八章	軍國の財政	三八五
第九章	日本に於ける反響	三九八

第一章 開戦前後の事情

二 一九一四年八月一日は近世の歴史上に記念すべき最暗黒の土曜日である。此日の午後七時に露都駐劄の獨逸大使は露國外務大臣を訪ふて宣戦の通告を爲した。而して其事實の報導は翌二日の新聞を通じて青天の霹靂の如くに歐米各國人の頭上に下つたのである。

願れば一九〇〇年の南阿戰爭以來、歐洲列強の關係に一大變化を生じて居た。獨逸は帝國建設以後に勃然として發達した其國力を傾けて老大なる海軍擴張の計劃を立て、而かも着々之を實行し始めた。今まで「名譽の孤立」を守つて居た所の英國は十年前の好敵手たる佛國と手を握て所謂「アンタント・コルヂアル」を結び、次で其關係を露國に及ぼした。かくして歐洲の勢力平均は獨逸同盟と英佛露協約との間に保たるゝこととなり、英獨逸間に海軍擴張の競争を行へば獨逸と佛露との間に陸軍擴張の競争を行ふて互に相凌がんとするの結果、最近歐洲の軍事費は年額五十億圓の多きに達して居た。而して一九〇五年にはモロッコ問題の爲めに獨逸の葛藤を生じ、一九〇八年にはボスニア及ヘルツェゴヴィナの併合に依て奥露關係の切迫を傳へられ、一九一一年には再びモロッコ問題の危機に瀕するあり、一九一二年にはバルカン諸國の間に兵火を交ふるあり、其度毎に獨逸と英佛露との勢力相對峙して歐洲全土の風雲を捲き起さんとする状態を示したのである。

是に於て歐洲大戦争は果して爆發すべきや否やの問題は世界の識者の腦裡を去ることなく、或は客室に於ける會話の中心問題となり、或は公開の新聞雜誌又は演説の論題となつて居た。書物として一方に英國の新聞記者ノルマン・エンゼルの平和論あり、他の一方には獨逸の將軍ベルンハルディの主戦論が出た。(Norman Angell, Great Illusion.

—— Bernhardt, Germany and Next War.）主戰論者が列強角逐の歴史に據て義勇愛國の熱情を高調すれば、平和論者は人類同胞の理想に訴へて戦争と經濟の背馳せる事實を指摘するといふ勢で、兩主義の運動の旺盛なること前古に比類なき有様であつた。併しながら歐洲の大戦争が一九一四年八月に爆發することは恐らく何れの論者も豫期しなかつたろうと思はれる。戦争は實に青天の霹靂であつたのである。

試みに余自身の經驗を述べて見れば、昨年六月余は巴里に滞在して居たが、其二十九日の朝の新聞を見ると立派な高貴の人と其夫人の肖像が出て居た。夫が前日セラジュヴォに於て暗殺された奥國皇太子及妃の悲しき最後を傳ふる報導であつたのである。余は一九〇八年の秋ボスニア併合の當時同じく巴里に遊んで居てバルカンの変事を聞たことを想出したけれども、決して之が爲めに國際政治の危機を生じようとは思はなかつた。巴里の取引所も之が爲めに動搖はしなかつたのである。

やがて英國へ歸て見ると婦人選舉權運動や勞働者のストライキは相變らず日々の新聞紙を賑はして居る。特に愛蘭自治案に關する朝野兩黨の衝突は益々激烈になつてアルスターの内亂は危機一髪に懸て居る。七月二十七日（月曜）の新聞には奥塞交渉の結果、奥國公使はセルヴィア政府の回答を不満足なりとして前土曜日（日曜）に旗を卷て本國へ引揚げたといふことゝ、愛蘭國民黨の義勇兵が武器の密輸入を企てた爲めに前日午後ダブリンに於て守備兵と衝突したといふことゝが並記されて居た。一方奥塞關係の斷絶は直ちに奥露關係の紛糾を意味するから一大事であるに相違ないけれども、愛蘭の問題も亦數月來政界黒雲の懸る所であるから如何なる事件の口火となるか分らない。愛蘭か、セルヴィアか、何れが大事件に發展すべきかを斷ずることが出来なかつた。

併し後に知る所に依れば余が右の新聞を讀だときにはバルカンの時局は既に餘程切迫して居たのである。其日（二十七日）に英國外相は奥塞間の問題を歐洲列國の會議に付して平和に解決せしめようといふ提案を爲したが獨逸の拒

絶に依て中止された。其翌日(二十八日)には愈塊國がセルヴィアに對して宣戰した。次で獨逸は萬一大亂の場合に英國の中立せんことを求めたけれども英國は應じなかつた。夫から三十日には露獨が戰爭の準備を爲し、英國の議會は愛蘭問題を延期して對外政策に當るべきことを各政黨の一致を以て議決した。此朝の『タイムス』は堂々として英國開戦の已むべからざるを論じ、自由黨や労働黨の新聞は非戰論を掲げた。三十一日は倫敦金融市場の所謂「ブラック・フライデー」で株式市場が閉鎖された。夫から八月一日(土曜)は愈大亂の形勢が出来上りて獨逸は露國に對して宣戰すると同時に軍隊をルキサンブルグに進めた。二日には英國が其海軍を以て佛國の北海岸を保護すべきことを通告した。三日には獨逸に對してベルギーの中立を犯すなからんことを求めたが獨逸は之に答へずして翌日ベルギーに進軍し、そこで英國も對獨宣戰の布告を爲すに至た。

七月二十五日から八月四日まで僅かに十一日間に天下の形勢は急轉直下して局面一變、洋々たる平和の世界が戰爭の風雨に閉されて、歐洲六強の内の五強が戰を交へ、世界の陸海軍の十分七が敵味方に分れて攻め合ひ、殺し合ふことと成た。英國では朝野の大爭論の種子であつた愛蘭問題が十年前の歴史の如くに忘れられ、非戰運動の爲めに會合した社會主義者及労働者の諸團體は轉じて戰時下窮民の救濟法を議することになり、婦人選舉權論者は自分の運動の代りに政府の募兵運動を助け、ストライキやロックアウトも雇主と雇人の互譲に依りて片端から解決されて行く、議會は多數の重大なる議案を何時も満場一致でサッサと通過させる。ベルギーや佛國の社會主義者は平素極端な非戰論を唱へて戰爭が起れば自分等は生産業運送業の全部に互る總同盟罷工を起して軍隊の行動を不能にする杯と豪語して居たが、今は自ら身を提して國難に趣き、彼等の領袖は反對黨の政府に入て軍國の施政に參與して居る。其僅か十日間の前後に於ける變化の絶大なるは恰かも幽明境を異にしたるが如く、又眞に夢の如くに感じられたのである。

此の如き急激にして且絶大なる變化が世界の經濟界に及ぼした所の震動は又頗る恐るべきものであらねばならぬ。

運輸交通の發達に依て蜘蛛の巢の如くに張り延された東西兩洋、南北兩半球の貿易及金融の關係は一部の斷絶より全部の運輸中止を惹起し、外部の打撃は内部の麻痺を發生せしめ、交戦國も共に其渦中に巻き込まれて一時は爲す所を知らなかつた。ウィエナやブタペストの株式恐慌がベルリン、アムステルダム、パリに傳はり、更にロンドンに行き、ニューヨークに行て世界の重なる取引所は實戰開始前に悉く閉鎖されてしまつた。ロンドン爲替市場の瓦解は南北兩米、印度、濠洲、支那、日本の貿易を立往生の状態に陥れた。歐洲の大都會には銀行の取付が起り、食料品市價の暴騰が起り、工場の休業、職工の失業、避難民の困窮が起り、鐵道、汽船、船渠の混雜が起た。實に前古に比なき大恐慌である。そこで之に對する各國政府の救濟策も亦頗る異様なるもので、或はモラトリアム、或は不換紙幣、或は大規模の低利貸付、或は食料品の最高價格公定、或は海上保險の官營、或は鐵道及工場の徵發といふが如く、平時ならば其一を出しても朝野の議論を沸騰せしむべき性質のものであるが、夫が舉國一致の名の下にすら相次で實行せられたのである。

そこで昨今の状態を見るに歐洲各國共戰爭破裂の最初の打撃に依て生じた恐慌は一先づ鎮靜に歸したけれども戰時に特別なる種々の事情は絶えず經濟界に新しき問題を提供しつゝある。例へば莫大なる軍事公債の募集に依て生ずる金融上の壓迫、食料品及日用品の缺乏に應ずべき政府の施設、輸出入の不均より來る爲替の波瀾、軍需品製造に従事する職工と雇主との利益の調節等、一難僅かに去れば又更に一難を加ふる有様で殆んど應接に遑なからしむるものがある。而かも其問題の關係する所廣汎にして現今の經濟組織の根底に觸れたるもの多きは吾人の最も注意を要する所である。單純なる研究者として觀れば興味津津たるものあるが一度此等の事實が歐洲諸國將來の經濟生活に及すべき影響を考ふるときは慄然として怖るべきものが頗る多い。

然るに籲て大陸の戦況を見れば最初六週間に於て巴里を屠るべしと揚言した所の獨逸も其目的を達しないが、され

ばといふて獨逸を經濟的に昏倒せしめんと豫期して居た所の聯合諸國も其目的を達するに至らない。獨逸が西にベルギーを取り、東にポーランドを収めたのは確かに世界を驚倒せしめたけれども、此上何程の耐久力あるかは疑問とせねばならぬ。従て戦局の前途は頗る遼遠で何時終局となるべき見込も付かない。さすれば戦時經濟の問題も亦今後益益續出するであらう。本書に收むる所は唯本年五、六、七月までに現はれて來た所の重要問題に限るのである。

第二章 英國金融界の打撃

近世の經濟組織を人體に譬へて見れば金融は神經系統の如く、商品の流通は血液の循環の如くである。外部に急激な變動が起たときに先づ第一に打撃を受けて恐慌を惹起すものは神經即ち金融界である。戦時經濟の波瀾重疊した物語も金融界の恐慌を以て初めねばならぬ。

昨年七八月に余がロンドンに於て見聞した處は次の通りであつた。七月二十七日(月曜)の朝、或銀行へ所用があつて行て居たら株式仲買が銀行の支配人室へ來て *Market is terrible* と報告したのを聞た。是は如何にも其筈で歐洲各國の株式市場は奥國のセルヴィアに對する最後通牒が拒絶されてから非常の混亂に陥り、ヴィエナ、ブタペスト、ブラッセルズの取引所は賣物の投出しと相場の暴落の爲めに此日から閉鎖されたのである。而して其影響は直ちに他國へ波及して二十九日にペトログラード、ベルリン、アムステルダムが門戸を鎖し、三十日にはローマ、ミランが之に倣つた。ロンドンは二十七日以來恐慌の状態に陥り、コンソル公債は毎日一ポイントづゝ下落するといふ異觀を呈し、三十日には獨逸市場と關係のある二三の仲買が支拂停止をやつたが、終に三十一日の金曜日に閉鎖された。ニューヨークも直ちに其例を追ふた。パリは八月中開て居たけれども名のみである。かくして世界の重なる株式市場

は歐洲大亂の第一の砲聲を聞かぬ内に早くも皆將棊倒しに倒れてしまつた譯である。夫から八月三十一日の夕刊に繪の出て居るのを見ると英蘭銀行へ金貨兌換に出掛けた大勢の群集が門前に列を爲して居る。夫を又大勢の群集がローヤルエキスチエンジの石段に立て眺めて居る。公衆が金貨取付の爲めに英蘭銀行へ押掛けるといふのは數十年來になんぞ珍らしい光景である。其意味は後に説明するつもりだが、兎に角銀行界に一大困難の起たのは事實である。英蘭銀行の割引歩合は三分であつたのが三十日に四分、三十一日に八分、八月一日には一割に飛だ。此上り方の急激なことは如何に大亂突發の意外に出でたかを語るものである。而かも是皆大亂の前に起たことである。大亂の影響といふよりも寧ろ大亂の將に來らんとするのを見越した影響なのである。

獨逸の開戦は八月一日の夜で二日は、日曜日、三日は例年のバンクホリデーである。ロンドンの各停車場は例年の如く愉快な日光を浴びて遊山に出掛ける所の群集に充ちて居た。其内には數月前からの計劃を實行してベルギーやパリへ出掛けたものもある。併し彼等の愉快らしくあつたのは決して時局の前途を樂觀したのではない。事の餘り唐突に起た爲めに其恐るべき真相を見ることが出来なかつたのである。市中の景況を外面から見れば平穩であるけれども裏面には大恐慌が起つて居つた。抑々ロンドンの取引所が閉鎖されるといふのはナポレオン戦争中にも曾てなかつたことである。大陸の金融市場の恐慌は金の貸主なるロンドンの市場に影響してロンドンの有力な銀行や商人も今支拂停止に瀕して居る。之を其儘に放任して置けば破産の續出は目前に迫つて居る。此激烈な金融恐慌が事實に殺到し來れば内外の商業は閉息して幾百萬の勞働者も忽ち業を失ふであらう。故に群集は遊山に出掛けても、政府の當局や金融界の指導者は苦心慘膽、連日連夜鳩首して救済策を議しつゝあつた。

果然政府は八月二日夜手形債務に關するモラトリアム Moratorium 即ち支拂猶豫の布告を發した。三日には議會に於て銀行休日を更に三日間延長して木曜日までにすることを議決した。而して此三日間に戰時海上保險の官營を行

ひ、小額の政府紙幣を發行し、又モラトリアムを手形債務のみならず一般債務に及すこととして六日に發表した。そこで休日明けの状態如何と見れば至極平靜で中央銀行の割引歩合も五分に下て居る。夫から六日目の十二日には政府の爲替救済の計劃が發表されたので金融界の暗雲は一先づ一掃された姿になつた。

二 兎も角英國の財界が遭遇した空前の事變は此の如くにして多くの破綻を見ずに経過したのであるが、抑々以上述べた所の異様な現象や異様な救済策は何を意味するのであるか。

昔から非常の出来事が突發したときに金融界に起た普通現象は銀行の取付であつた。英國人は平素非常に多くの小切手を使用して居るが大事變が起れば其小切手の受授が困難になる。何となれば小切手を振出した人が何かの理由で充分の預金を維持し得なくなるかも知れない。のみならず振出人の預金は有ても銀行が何かの理由で其預金を拂出し得なくなるかも知れない。従て小切手は成べく受取らないで現金を請求するのが安心の法となる。各人が現金を受授することを好み一齋に銀行へ預金の取付を爲せば銀行の手許は益々困難になつて預金者の不安を増す。是に於て取付は取付を促し銀行の困難は益々困難を呼出すといふことになる。

今度の大亂突發に就ても此様なことは少しく起た。然るに銀行へ現金を取りに行つたものゝ内には休日の遊山の小遣を金貨で受取らうといふものが多かつた（英國では五磅以下の銀行券がないから一磅、半磅の貨幣は金貨より外にない）。夫に銀行の或者が事變の前途を悲觀して金の拂出を惜んだから公衆は小遣錢を得んが爲めに英蘭銀行へ金の取付に出掛けた。そこで一磅、半磅の金を要しないものも杞憂を抱て兌換の請求に加はつたのもあつたのであらう。是が金曜日夕刊に出た繪の意味である。

此に吾等傍觀者の目から見て要領を得ないのは市中銀行が金貨の拂出しを惜んだといふことである。市中銀行は銀行券の兌換に就て義務を負ふものでないから其準備金には金を持って居ても銀行券を持って居ても同じことであるべき筈

だのに何を苦んで金貨の拂出を制限したか。是が爲めに公衆が英蘭銀行へ駈付けければ徒らに人心を動搖せしめて徒らに一國の正貨準備を涸らすことになりはしないか。是は後に至て市中銀行が識者の攻撃を受けた所であるが、併し翻て英國の現状を見ると市中銀行の事務が非常に發達してしまつた爲めに英蘭銀行の金準備のみでは有事の日に不安心だといふ杞憂を生ずるのは全く無理ともいへないかも知れない。兎に角金の取付が甚だしきに至らずして止たのは金本位維持の上から見て頗る善きことであつた。之に就ては大藏大臣ロイド・デーヂの議會に於ける演説が大に效を奏したと傳へられて居る。大臣の言は「此際一身一家の安全の爲めに金を貯ふるは手に劍を執て敵を助くると同じく非愛國の行爲である」といふ意味であつた。

金の取付は金本位維持の上から見て大切の事であるが當時市中銀行の地位は金の取付よりも寧ろ預金の取付其他の事情の爲めに困難にされて居るといはねばならぬ。預金の取付に對しては金でも紙幣でも金がありさへすれば宜しいのだが夫が乏しい。何故かといふに銀行は取引所又は貿易商の手形を割引して持て居るが、平生ならば夫が何時でも現金になるべき筈なのに、今は外國からの送金が絶えて居るから固定してしまつた。銀行の持て居る有價證券は非常に下落して居るのみならず之を賣るべき取引場が閉鎖されて居る。故に市中銀行に取ては通貨の供給が最重大の問題である。

此の如き場合に處すべき救濟策は中央銀行の金利を或程度まで上げると共に發行制限を撤去して市中銀行に貸出を行ひ、通貨の供給を爲すことである。併し今回は兎に角人心を緩和するのが第一の急務であるといふので、取敢えず休日の延長を行つて置いて、夫から着々と救濟策の實行に取掛た。其一は前述の通り英蘭銀行の發行制限を何時でも撤廢して差支ないといふ法案である。但し此際五磅券を増發するのみでは時局の急を救ふのに不充分であるから政府は別に一磅及半磅の兌換紙幣を發行することにした。此小額紙幣の發行は通貨の供給を豊かにするのみならず、金貨に

代て一般に流通するから自然銀行の正貨準備を強むるの效を奏すべきものである。即ち此政府紙幣の發行は一舉兩得の策であるから實際には是のみが行はれて銀行券發行制限の撤廢は實行の必要なしに終たのである。

部 我輩をして言はしむれば英國が戰爭に遭遇して始めて此等の法を行つたのは餘り迂遠である。一磅、半磅の兌換券を發行して金の流通に代らしむるのは平生でも行て差支なく、又當然行ふべきことであつたと思ふ。平時でも戰時でも金貨を流通して徒らに磨損せしめる必要はない。若し流通して居る所の金をして第二の正貨準備たる役目を勤めしめるといふならば夫は初めから正貨準備に加へて置くが宜しいのである。此の如き議論は以前から英國の識者の唱導する處であつたに拘らず行はれずに居たのはロンドン銀行家の過度の保守主義の爲めである。又英蘭銀行の兌換券増發に就ても若し平素の制度が所謂伸縮準備法を取て居たならば今回の如き場合にもつと圓滑な働を爲さしめることが出来たらうと思ふ。即ち英國が平素から右等の新制度を採用して居たならば其平生の機關の運用のみに依て非常の際に臨むことが出来たらうと思ふのである。従て一磅及半磅の紙幣の如きは戰爭終結の後にも永久の制度として残さるだらうと考へる。

此の如くにして通貨供給の準備は出来たが今度の大事件に就ては是丈で救済の目的を達することが出来ない。夫には事變の打撃があまりに廣く且深いのである。依て政府は更に二種の非常手段を取ることに成つた。其一是モラトリウムである。其二是爲替資金救済である。

モラトリウム(Moratorium)は從來の教科書に出て居ない珍しい語であつて英國の如きは曾て之を實行したことがない。併し辭書に就て見ればモラトリウムは昔ローマにもあつた。十七八世紀には獨逸で屢々實行された。普佛戰爭の時には佛國でも手形債務に關するモラトリウムが布かれた。最近には一八九一年ポルトガルで行れたとある(Conrad, Handwörterbuch)。更に聞く所に依れば一九一二年バルカン戰爭の時にギリシアが行たさうである。唯今回の如く世

界中多數の國が之を行つたのは前古に例のないことである。

英國のモラトリアムの内容は次の通りである。

八月四日以前に満期となりたる總ての支拂及八月四日以前に振出されたる手形又は八月四日以前に爲されたる他の契約の結果として九月四日以前に満期となるべき總ての支拂は其個々の支拂の満期日より一月後に満期となりたるものと看做すべし。但し左の場合には此法を適用せず。

俸給及賃銀 五磅以下の支拂 國稅及地方稅

運 賃 株式及社債の利子配當 兌換券銀行の債務

政府の債務 國立保險法に依る債務 勞働者補償法に依る債務

貯蓄銀行の債務

即ちモラトリアムは或一定の日を定めて夫より前の約束に依て生じた債務の支拂を猶豫することである。普通の法律の原則に依れば満期日に至て債務の支拂を爲さぬものは其財産を差押へられても致方ない筈であるのに、モラトリアムは公然其支拂延期を許すのであるから、いはゞ法律違反を法律で認める様なことになる。實に非常手段の内の特別非常手段であつて、若し此の如き法律が屢々行はれるとすれば其國に於ける契約は不信用極まるものとならざるを得ない。而かも此の如き手段を實行しなければならぬといふのは恐慌の重大なることを示すものである。

蓋し一通りの恐慌に對しては兌換券増發を以て應ずれば充分である。中央銀行が門戸を開て貸出をする時に、相當の擔保品を有せざるが爲めに貸出を受けることが出來ずして破産する様なものは、破産させても惜しむに足りないものである。けれども今回の事變は特別の事變だから此丈の方法を以て向たら玉石混合で善きものも悪しきものも一齋に倒れてしまわねばならぬ。是即ちモラトリアムを要する所以である。

モラトリウムは金融疎通でなくして金融閉塞である。一時總ての金融の運転を中止せしめて難關を切抜けた後に漸次に疎通を計らんとするものである。中央銀行から貸出を爲すに當て何等の斟酌もなく盛に貸せば金融閉塞を避け得るだらうけれども、夫では後に至て弊害を生ずるの恐があるから、通貨の供給とモラトリウムとの兩端から進で時局の救済を計たものであらうと思はれる。

第二部

英國のモラトリウムは初は九月四日までの延期を許したのだが、後には之を不充分なりとして十月四日に延ばし、更に其後になつて手形は十月十八日、一般の債務は十一月四日までに延ばした。而して此時までには金融困難であつたものも大抵練合せを付け得るに至たから、そこで愈々モラトリウムを解て平時の状態に歸したのである。即ち十一月四日までには英國の金融機關は半ば活動を中止して居たものと思て宜しいのである。

開戦當時に起た金融恐慌を救ふ爲めに英國政府の取た政策は第一に政府紙幣の發行、第二にモラトリウム、夫から第三に爲替救済である。金融界の事は正貨準備の充實とか、通貨の供給とか、金融の疎通とか、中止とか、色々題目を分けて見ても、相互の關係密接且複雑なるが故に、之を一つ一つに引離して其各個に對する救済法が是々と話をする譯には行かない。何から話を始めても後には前に戻て話を行直さなければならなくなる。余は今爲替の救済を最後に持出したけれども實際爲替の問題は今回の事變の根底を爲す所の難問なのである。

今回の恐慌を人體の病氣に譬へて見れば之は經濟界の内部から起た病氣でなくして外部から來たものである。經濟界は健康であるが外部に起た或事件の爲めに驚愕狼狽して氣絶せんとしたのである。併し専門の醫師が見れば其外部の事件の爲めに實質的に障害を受ける道筋はちやんと分て居る。投薬の方法として鎮靜劑や興奮劑を用ひたけれども、其他に大きな外科的療法を講じなければならぬ。夫が爲替救済である。

外部からの打撃といふのは外國關係の障害である。商工業の方では外國輸出入の停止であり、金融の方では送金機

關の破壊である。抑々戰亂の始る前に株式市場の閉鎖された理由如何といふには是は内科的の神經發作ばかりでない、事實に於て營養が絶えたのである。ロンドンの市場が平生からの外國の市場へ貸して居た其貸金が回收されないから従て内國の借金を濟すことが出来なくなつて營業を中止したのである。又銀行は何故に窮したかといふに預金者のパニックばかりでない、實際持て居た所の外國手形が送金不能の爲めに固定してしまつたからである。ロンドン是世界金融の中心だといはれて居るが如何にも其通りで、東西兩洋如何なる邊僻の地でもロンドンと爲替關係のない國はない。其尨大なる、且複雑なる機關に依て富裕な資本國は新開の諸國に投資を爲し、又は投資に對する利子利潤を收め、又は一旦投じたものを回收するのである。又世界の貿易に依て生ずる貸借の關係も此機關を通じて決済せられ、相殺されるのである。然るに大陸の戰爭は突然其爲替機關の一部を破壊したから従て全部が動かなくなつた。而してロンドンが動かなくなれば米國も、南米も、濠洲も、印度も、支那日本も動かなくなる。戰爭には何等の關係のない國との間でも爲替が通じなければ商賣は出来なくなる。日本の如きは幸にして其飛沫を受ける程度が少なかつたけれども、南米のアルゼンチナ、ブラデルの如きは貿易高の收縮が英國以上になり、モラトリアムも英國以上の大規模のものを布ひて居る。夫から又之を英國自身の側から見ても是丈の大きな機關を動かすからには内國の資本を投じてかゝらねばならぬ。従て此對外機關の運転中止が内國金融の杜絶を惹起すことにもなるのである。

そこで此爲替機關なるものが如何に組立てられて居るかといふとロンドンには爲替引受商 (Accepting Houses) と銀行とが分業になつて居る。爲替引受商はロスチャイルドとかベーリングとかの如き大富豪であつて此等の人々は各國政府の公債發行を保證する程の大資力を有て居るから一般の信用は絶大である。彼等は自ら貸金をするのみでなく、他人の借金の保證をすることに依て平素金融疎通の任務を盡して居る。例へば日本から商品を輸出したものが逆爲替を切て之を銀行へ賣る時にロンドンの引受商を名宛人にして置けば何處の銀行でも安心して之を買取る。夫から

其爲替がロンドンへ廻て行くに引受商は呈示を受けて引受をする。満期日になれば實際の荷受主から送金を受けて前
の手形を支拂ふ。其荷主は必ずしも英國に居ることを要しないので歐洲大陸に居るか、米國に居るか分らない。兎に
角送金が來れば宜しいが萬一來ないときには引受商自ら支拂を立替へなければならぬ。而して此手形は誰の手にある
かといへば通常はロンドンの市中銀行が割引をして持て居る。即ち市中銀行は普通の預金として受けた金を之に放資
して居るのである。故に外國からの送金が絶えれば市中銀行も困り、内國金融も差支へることになるのである。

然らば此障害の根本を治療する爲めに政府は如何なる方法を講じたかといふと其第一は手形債務に關するモラトリ
アムであつて是は八月二日に最先に布告したものである。併しモラトリアムは前にもいふ通り金融閉塞で唯現狀を維
持する丈の效しかないから、更に之を疎通せしめる手段として十二日の晩に爲替救濟を發表した。其案は八月四日以
前に引受けられた手形を英蘭銀行に命じて割引せしめ、萬一夫が爲めに英蘭銀行が損失を受けた場合には政府が填補
するといふのである。而して其割引歩合は普通の公定歩合たるべく、又若し満期日に至て支拂が出来ないときは公定
歩合に二歩を加へた利率を付けて延期を許すことにした。是に依て市中銀行は今迄固定して居た爲替手形を英蘭銀行
へ賣て自己の資金を浮かせることが出來、從て他の方面に融通を與ふべき餘力を得るわけである。是は其當時非常に
大膽なる案として、大藏大臣ロイド・デューデ氏の非凡な事業として一般經濟界の賞讃を博したものである。蓋しモ
ラトリアムや政府紙幣の發行は非常手段に相違ないけれども政府に金錢上の責任を負はしめるものではないが此爲替
救濟に至ては絶大の責任を生ずるのである。當時ロンドン市場にあつた手形の金高は凡そ三億磅即ち三十億圓に達し
て居たと稱せられる。即ち英國政府の歳入の一倍半に當て居る。夫が悉く不渡になる譯ではないけれども兎に角其全
部を保證すると申出したのである。實に主義の上からいふても金額の大なる點から見ても前例のない大計劃であるに
相違ない。而して此策の實行が金融界に安心を與へ、且其一部に運轉開始の曙光を與へたことは一般に認めらるゝ所

である。

以上は八月十二日の案であるが、其後に至て尙爲替救済の爲めに實行した方法は色々あつた。

九月四日モラトリアムの延期と共に發表した案に依れば英蘭銀行は曩に政府の保證した手形を支拂ふべき資金を引受人に貸付ける。而して引受人の財産に對して第二次の擔保權を以て満足する。其貸付利子は公定歩合よりも二歩高とすること前の如く、期限は戰爭終結後一年間としてある。是は十二日の救済を擴張して引受人の現在の責任を政府に引取り彼等をして新たな取引に従事せしめんとするのである。夫故政府は此取極を爲すと同時に市中銀行と交渉して新たな手形に對し一層自由に融通を與ふべきこととなした。即ち此案は金融の打撃を救ふといふよりも外國貿易を進行せしめることを主眼としたものである。元來爲替救済の目的は一方には内國金融の疎通であり、他の一方には開戦と共に立すくみの状態に陥た所の外國貿易を助けて間接には内國工業を振はしめ、且食料の輸入を圓滑ならしめることである。爲替救済は金融策であると同時に貿易策である。其關係は後に外國貿易の保護、特に戰時保險の官營を説くに至て更に明かになるだらうと思ふ。

尙此に序でに外國貿易に關する金融上からの救済策を擧げて見ると十月中に發表したものが二つある。

一は一般の輸出貿易に關するもので案の骨子は若し輸出品に對する代金の支拂が戰爭の影響で不能になつた場合には其代金の五割を補償する。而して其五割の四分三は政府が負擔し、四分一は之に關係した銀行が負擔するのである。而して此補償を爲すべき場合に審査を行ふ機關として大藏省、英蘭銀行、普通銀行、商業會議所の代表者より成る委員會を設ける。

他の一は特に綿花貿易に關するもので、綿花の暴落に苦で居る所の商人に對しリバプールの銀行をして低利資金を融通せしめ、若し其爲めに損失を生じた場合には大藏省が損失の半分を負擔し、綿花商人の團體が四分一を負擔し、

リパブル銀行の團體が四分一を負擔することに成て居る。貸金の期限は戰爭終結後一ヶ年としてある。

夫から又株式商人に對しても救済が行はれた。是は戰爭開始の當時此等商人の銀行から借入れた金の辨濟期を戰爭後一ヶ年に延長し、且銀行は此等貸金の擔保になつて居る所の證券の市價が下落して居ても追敷を要求しないといふのである。是には直接政府が關係して居らぬけれども政府が其相談に預て居ることは明かである。

第三章 獨逸金融界の動員

獨逸では七月二十五日以來株式が暴落し、金利が暴騰し、公衆は金貨を私藏せんとして帝國銀行へ兌換券の引換を要求し、普通銀行は支拂準備金の涸渴を憂へて預金の引出を二割以下に限るといふ有様で、一週間許りは人心恟々の裡に過ぎた。當時獨逸に居て後に英國へ避難した人々の説を聞けば獨逸の恐慌は英國以上であつたらしい。是は獨逸の政治上及經濟上の關係が一層戰爭の起源地に近い所から見ても當然の事と思はれる。

三十日に至て動員が行はれ、戒嚴令が布かれたが、此時に至て人心は大に引締り恐慌を抑へられた。戒嚴令に依て打立てられた軍人の政府は金紙同價を嚴命し、若し紙幣に對して打歩を付けたるものあらば二千五百圓の罰金と一ヶ年の懲役に處すべきことを布達した。

八月五日に帝國議會は十七個の重要な議案を全會一致で通過させたが其内で金融に關するものが四あつた。

第一は帝國銀行兌換券の金貨引替を停止し、且之を法貨となす事。即ち兌換券を不換紙幣にしたのである。

第二は銀行券の發行制限を撤去し且割引貸付の條件を寛大にする事。獨逸の銀行券發行法は日本と同じく伸縮準備法であつて、一定の保證準備を置き、其以上には原則として正貨準備を要するけれども、政府へ五分の發行税を納め

る時は所謂制限外發行を爲し得るのであるから、制限の撤去は即ち此五分の税を取らずに自由に發行せしめるといふのである。即ち全く無制限になされたのである。此の如く一方に無制限の發行を許し、他方に貸付割引の條件を寛大にしたのは、つまり戰爭突發に依て閉塞した所の金融界に貸付を盛にして元氣を付けようといふ積極策である。

第三は補助貨幣の金貨引替を停止する事。獨逸では補助貨幣の流通額を調節する爲めに國庫が要求次第之を無料で金貨と引換へることに成て居る（之は日本も同じことである）。つまり補助貨幣の平生の性質は金屬で作た一種の兌換券と見ることが出来るのであるが、今は不換紙幣と同じものにしたのである。而かも是は勿論此際大に補助貨幣を増發して不換紙幣の働きを助ける所の準備である。

第四は全然新しい制度として貸付金庫 (Darlehenskassen) といふものを急設する事。貸付金庫は帝國銀行の別働隊となつて大に民間へ金融を與ふべき機關である。金庫は商品、有價證券其他の擔保品に對して時價の二分一乃至三分二を貸付ける。其期限は三ヶ月乃至六ヶ月であつて利子は僅かに六分五厘、即ち帝國銀行の割引歩合よりも五厘高の差あるのみ。夫から其資金は何れより得るかといふと自ら貸付金庫證券 (Darlehenskassenscheine) を發行することに成て居る。此は即ち一種の不換紙幣で券面は最初五「マーク」乃至五十「マーク」であつたが數日の後に一「マーク」及二「マーク」のものも出すことに成た。券面の小さい所からいへば、日本で明治初年に行はれた太政官札の如く、補助貨の代用となるべきものだが、又其貸付の大膽なる所から見れば帝國銀行の關係し得ない不確實な擔保をも引受けるといふ意味だらうと思はれる。此貸付金庫證券の發行高は最初七億五千萬圓を最高限と定められたが間もなく十五億圓に増額した。

此四箇條は互に關連して居るが其精神は要するに大膽な不換紙幣發行策を以て戰時金融の唯一の救濟法とするものである。モラトリアムの様な鎮靜劑を用ひずに飽くまで興奮劑を以て押切らうとするのである。而かも此等の政策は

獨逸政府の當局が平素から深く考へて仕組んであつたものと覺しく、開戦と共に何等の猶豫も澁滞もなく着々として實行された。獨逸帝國銀行の總裁ハーフェンスタイン氏は九月の初に頗る樂觀的な演説をして居るが、其内にこんな言葉がある。曰く細目に至るまで精密に考へ且準備された所の金融上の動員は違算なく大成效を以て行はれた。法案通過より二十四時間内に貸付金庫は百五十ヶ所の都會に設立せられ、間もなく二百七十ヶ所に増加された。獨逸は今や交戦國中何れの國よりも金融上に於て善き組織を有して居る。獨逸はモラトリアムを行はなかつた所の唯一の國である。如何にも獨逸の戦時金融策は軍隊の動員の如く機敏に秩序よく行はれた。「金融上の動員」の一語は頗る要を得て居ると思はれる。而して英も、佛も、露も、スカンデナヴィアも、南米も、爲さざるを得なかつた所のモラトリアムを行はずして開戦當時の難關を切抜けた事は確かに時局の進行を圓滑ならしめたに違ない。獨逸人の組織的才能は軍事にも經濟にも遺憾なく現はれて居るのである。

併しながら獨逸の金融救済策があらゆる點に於て英國のに勝て居るかといへば余は必ずしも然りといふことが出来ない。前にもいふた通りモラトリアムと大規模の資金貸出とは或意味に於て代用的の方法である。一大恐慌が起て將さに總ての機關が瓦解せんとするに當ては一先つ鎮靜させて現狀維持を計るか、進んで運轉を繼續し得るだけの資力を與てやるか、二に一を撰ばなければならぬ。そこで英國はモラトリアムと共に紙幣發行、爲替救済等を行て兩端から調節を計たが獨逸は積極一點張に出たのである。而かも此一點張を強行するには非常に多くの紙幣を發行しなければならぬ。其丈の發行を爲す爲めには金本位を棄て、不換紙幣を流通させなければならぬのみならず不確實な貸出をも敢てしなければならぬ。もし非常の時に應ずるの策は唯其時間に合ひさへすれば宜しとするならば論はないが、尙事後の障害を成るべく少くすべきものだとするれば此の如き策を取るのには頗る考へ物ではあるまいか。

そこで此獨逸の政策の結果を見ると不換紙幣の濫發は明白な事實となつて現はれて居る。昨年八月初から九月末ま

で二ヶ月の間に銀行券の増額十三億圓、補助貨の増額一億五千萬圓、帝國金庫證券五千萬圓、貸付金庫證券二億四千萬圓、外に帝國銀行の當座預金増額七億圓、合計二十億圓になつて居る。尙其後の材料に依て現今（一九一五年八月）の状態を推測すれば此金額は戰前に比して三十億以上の増加に達するだろうと信ずるのである。現に帝國銀行券は戰前九億許りのものが近時二十五億圓を示し、貸付金庫及帝國金庫證券は合せて七億餘萬圓に上て居る（帝國金庫證券 Reichskassenscheine は平時にても發行することあれども其額は至て少し）。此文の紙幣を發行した以上は如何にしても戰後まで不換紙幣の害毒を遺さなければなるまい。

獨逸から來る所の報告に依れば紙幣を膨脹しても戰後に金貨本位を恢復することが出來るとしてある。何故かといふに獨逸は豫て戰時準備金として一億圓程の正金を貯へて居たが之を帝國銀行の正貨準備に加へた。加之開戰以來人民の愛國心に訴へて金貨の私藏又は流通を制限して之を帝國銀行に集めた結果が頗る顯著である。夫が爲めに帝國銀行の金準備は戰前八億五千萬圓であつたのが昨年十二月中旬に十億圓に上た。而してフランクフルト新聞に依れば其時まだ民間に匿れて居る金の高が五億圓あるといふことであつた。此五億圓は全部でなくとも半分以上は銀行の庫中に收めることが出來ると稱せられた。さすれば現に帝國銀行は其紙幣に對して充分の正貨準備を有すといへる。併しながら我輩は思ふ。僧侶や教員が演説をして國民の愛國心に訴へて金貨を集めるといふのは、恰かも日露戰爭の際に或銀行家が婦人の髪飾りや指環杯を集めて我國の正貨準備を守らんと呼號したのと同じく、愛國心の鼓吹にはなるが貨幣政策としての實效が何程あるだろうか疑はしい。加之苟も通貨の流通高が急激に膨脹すれば物價の騰貴は早晚免れないことである。戰後に獨逸の物價が世界の物價以上に飛抜けて高くなつて居れば輸入超過が忽ち起て五億や十億の正貨は頼むに足らぬことになるであろう。金貨本位は現在の正貨と紙幣流通高との比例のみで保て行けるものではないのである。果して然らば獨逸側の報告は何とあらうとも獨逸が戰後に不換紙幣の國になることは公平な立場から

見て豫期せざるを得ない。而して理論上からいへば不換紙幣は必ずしも調節の出来ぬものではない筈だけれども、少くとも歴史上の事實は其弊害の恐るべきことのみを傳へて居る。是に於てかモラトリアムを行はなかつたことが得策であつたとは容易に斷言出来ないことになるのである。

第二部

戰時の正貨準備に關聯して此に是非一言論及しなければならぬことは戰時準備金の始末である。獨逸でフレデリック大王以來の遺法として戰爭の用意に正金を貯へて居たことは誰も知ることである。其準備金は普佛戰爭の償金の内から貯へたものが六千萬圓、是はベルリンの郊外にあるスペンダウの塔の内に積であつた。夫から一九一三年即ち一昨年の法律で更に同額の積金を爲すことにして之を帝國銀行に預けて置た。兩方で一億二千萬圓の金を何の働もさせずに死藏してあつた譯である。此金を以て公債を償却したらば年利四分としても毎年四百八十萬圓の經費を節約することが出来た筈であるのに獨逸人は之を爲さなかつた。戰時準備金の無用なることは百三十年前にアダム・ミスが道破して居る位であるから、獨逸人の内にも其廢止説を唱へた人も勿論少くなかつたのであるが、政府としては兎も角其必要を認めて從來の準備金を廢止せずして却て之を増額したのである。そこで問題は其金が今度の戰爭に何の用を爲したかといふことである。

單純に財政上から見て準備金の無價值なることは多言を要しない。近代の戰爭は非常に多くの經費を要するから一億や二億の金を積であつても、なくては、大差はない。戰爭が起れば取敢えず中央銀行から借入金爲し、次で大きな公債を募るのが最も適當の方法である。獨逸でも昨年九月一舉にして二十五億圓の公債を募入して居る。近代の戰爭に對しては一國の金融市場が取りも直さず準備金の置場になるのである。

然らば正貨準備補充の爲めとしたならば何ふか。夫ならば財政上の財源といふよりは餘程意味を有つことになる。獨逸の今回爲した所も大體之を目的にしたものらしい。現に準備金は帝國銀行へ交付して正貨準備の豊富になつたこ

とを誇て居るのである。唯不可解とすべきは獨逸政府が此處置を取ると同時に銀行券の正貨引換を停止したことである。吾等の頭で考へて見れば正貨準備は兌換の準備であるから兌換を止めた後に正貨を増した所が何の役に立たない筈である。萬一の準備として正貨蓄積額を増加するのは至當のことであらうけれども他の一方に於て兌換を止めた意味が分らない。

尙一つ戰時準備金の用途としては外國への支拂に供することが出来る。アダム・スミスは此の如き場合には正貨を以て拂はないでも商品をして拂ふことが出来るといふて居るが、實際戰時に自國の輸出を平生の如く續けるといふのは必ず出来ることでないのだから夫のみを宛てにする譯には行かない。併し此目的に應ずる手段としては外債を募て支拂に當るといふ方法もある。是は日露戰爭の時に我國の行たことであり、又今回も佛露兩國の行て居る事柄である。獨逸では帝國銀行の正貨準備の内から外國へ送金をして居る様であるが、夫も頗る制限して居るらしい。其證據には獨逸の對米爲替が頗る不利なのである。

之を要するに戰時準備金の用途ありとすれば夫は財政上ではなく、正貨準備補充の爲めか、又は外國への支拂に用ふる爲めでなければならぬが、實際には何れの役にも立たされてない。然らば獨逸の當局者自身は之を何と觀て居るかといふに余の推測では蓋し正貨準備として役立て居るとの意見だらう。現に極力正貨蓄積に勉めて居る所を見れば正貨準備は兌換に用ひないでも效能があると信じて居るに相違ない。金を積であれば夫が現に用を爲さぬでも何となく心丈夫であるといふのであらう。是は我等から見れば迷信であるが現今歐洲人の多數はかく考へて居るらしい。

余は此に歐洲人の多數といふたが、其意味は金に對する迷信を抱て居るのは獨逸人ばかりでないといふことである。戦前から無用の正金を蓄積したのは獨逸ばかりでなく佛國も露國も同様である。此兩國は特に戰時準備金と名づけるものを置かなかつたけれども中央銀行の正貨準備を非常に多くして居た。數年來溜め込んだ結果が昨年七月には

佛露各十六億圓に達して居た。而して此大金が戰時に於て何の用を爲したかといふに何にもならない。兩國共開戰後間もなく兌換停止を行つて居る。而して最近の電報に依れば佛蘭西では獨逸同様に盛に民間の金を引揚げつゝある。英國の大藏大臣は獨佛露の正金蓄積を笑つて金の小牛を祭る様なものだ (the worship of golden calf) といつたが、如何にも此點に於ては英國が獨り迷信を脱して居る様に見える。英國に於ては中央銀行の準備が平素から必要の程度に限られてある。戰前の準備額は二億六千萬圓 (七月二十九日) であつたが一週間にして九千九百萬圓 (八月五日) に減じた。併し同時に外國に對する債權の回收される爲めに爲替相場が順になつて米國方面から正金が輸入せられたから間もなく正貨準備は平時以上に増加した。而して昨年の秋は其送金の一部をカナダに置たまゝ正貨準備の内に計算したから在外正貨の様な形になつたけれども其外には何等の差支もなく兌換制度を維持して居る。本年に入つてからは商品の輸入超過の爲めに爲替が逆になつて正貨流出の必要を生じて來たが是に對しては外債募集に依つて内國の正貨を潤渴せしめない丈けのことは出来るであらう。何れにしても正貨を多額に蓄へて居た所の大諸國が一樣に兌換停止を行つた其時に、貯へ高の最も少かつた英國のみ獨り平然として金本位を維持し得たのは戰時經濟界の奇觀である。

第四章 外國貿易の動搖 (英國)

現代の經濟組織を譬へて見れば金融は神經系統の如く、商品の集散は血液の循環の如きものだといつたが、余は前二章に於て其神經が大戦突發の打撃を被た所の状態を説いたからして、次には當然血液循環の障害に説き及ばなければならぬ。神經系統の打撃は最も早く而かも急激に來るものだから之を最初の論題としたのであるが、重要な程度に於ては血液の循環こそ却て勝れりといふべきである。人間は金がなくても生活出来るが衣食住の資料が絶えれば死

んでしまふ。つまり金は手段で衣食住が目的なのである。今度の戦争の初めに或人は獨逸の不換紙幣策の餘りに大膽なを見て、彼の様な政策が何時まで續き得るものかといふ質問を起したが、余は之に答へていふたのである。不換紙幣は戦の續く間續き得るだろう、日本の如きも明治の初年から十四年頃までは其政策でやつて来たのである。獨逸が經濟上の缺乏の爲めに倒れることがあるとすれば夫は金の缺乏ではなくして食料品及軍需品の缺乏に倒れるのである。若し不換紙幣濫發は後に禍根を遺すにしても戦時に其供給の涸れるといふことはない。パンと彈丸に至っては外國貿易の破壊の爲めに全く得られなくなるかも知れない。今から見れば獨逸は金にも困らず、パンにも困らず、彈丸は聯合軍以上の豊富な供給を受けて東西兩方面に勝鬪を揚げて居るが、其仔細は後に述べるとして此には唯商品の供給が金以上に重要なことを明かにして置きたいのである。

さてそこで此商品集散の組織は戦争に依て如何なる障害を受けるかといふには是は無論外國貿易の破壊から來るのである。戦争は國交の斷絶と共に國際の交通を危險にし其經濟上の關係を絶つものだから、金融方面からいへば外國爲替の閉塞となり、商工業の方面からいへば外國貿易の破壊となる。何れにしても對外關係が打撃を受けるのである。併し此對外關係の打撃といふことは決して一國經濟界の一部の打撃ではなくしてやがて全體の打撃になる。金融に就ていへば外國爲替の閉塞はロンドンの市中銀行の位置を危ふくしたが、商工業に於ても外國貿易の破壊は内國の商品市場一般に影響し、各種産業に影響し、各家庭の臺所向きに影響して來る。蓋し外國貿易の背景は國際分業であつて、外國貿易が發達すればする程一國の經濟界は或種の産業を専門にする様になり、又外國品の供給を宛てにして生活する様になる。言を換へていへば自産自給の國民經濟組織を變じて世界經濟一局部となし、其大きな組織の内に編み込ませるのである。然るに今回の交戦國たる英佛獨の三國は何れも外國貿易の非常に進んだ工業國であるから此等の國が戦争に依て受くる所の打撃は非常なるものである。日本人は今迄の戦争に何時も開戦の劈頭に當て海軍の勝利

を獲て居た爲めに外國貿易を絶たれた経験がないけれども何時も其通りに行くと極らない。又今までの所では假りに外國貿易を絶たれたとしても餘り困らなかつたであらうけれども是は國際分業の進歩して居なかつた爲めである。英國の如きは平素多量の原料を輸入して其工業を營み、且其製品を輸出して居る國柄だから外國との交通が止まれば其産業組織の根本を破壊される怖れがある。加之食料品の供給までも外國に仰で居るから外國貿易の杜絶は場合に依ては國民の餓死を意味するのである。昔から言ふ通り腹が減ては戦が出来ないではないか。今回の大戦には何れの國も此の如き窮狀に陥らなかつたが、是ぞ即ち戦争の永續する所以である。併し國民的餓死には至らぬでも英も獨も商工業不振の爲めに労働者の失業は即ち是あり、又食料品や其他の日用品の缺乏、從て市價の暴騰には困て居る。又其困り方の程度を少くする爲めに種々の破天荒なる大々の救済策を實行して居る。

そこで次に起る所の問題は國際分業組織の破壊から來る所の困難は如何にして救済すべきかといふことである。此問題に對しては理論上二の答案が出て來る。一は制海權の獲得に依り、且其他の政策に依て平素の外國貿易の通路を出來るだけ安全に保護することである。他の一は平時の世界經濟組織を變更して自産自給の仕組を立てることである。此第二の策を取る場合には今迄外國輸出の爲めに働て居た工業を内國の需要の爲めに働かせる様にして人民に職業を與へ、又内國のあらゆる機關を働かして外國輸入品に代用し得る様なものを作り出さなければならぬ。今回の戦争に於て英國は主として第一の方策を取り、獨逸は主として第二の方策を取た。何れも完全なことは出來ないけれども戦時の間に合ふ丈けに行り遂げたのである。

先づ英國の方から説き起さうと思ふ。

英國は世界の最大海軍國であるから戦時の政策は最初から制海權を自分のものにする積りで立て、居る。即ち自産自給は已むを得ない場合の方針にして置て原則としては平時の貿易を維持すべく考へた。即ち *business as usual* で

ある。然らば如何にして貿易を維持するか。是は貿易の機關を整へるに如くはない。依て一方には海軍をして商船の往來を保護せしむるが、尙其上に戰時保險を官營にして保險料の騰貴を抑へる。他の一方には外國爲替の缺陷を補て代金の授受を可能ならしめる。即ち保險と爲替の救済が貿易維持策である。外國爲替の救済は貿易上と金融上と兩方に關係するものであるから前章に於て詳しく述べたが、其貿易上に重大の問題たる所からいへば此章に於て再び繰返してもいゝ丈の價值がある。蓋し商賣は代金の爲めに行はれるのだから送金が不能になれば中止するより外はない。海上の危険が去て、商船が自由に往來し得る様になつて、運賃保險料が安くなつて、而して輸入先に需要あり、輸出元に商品ある場合に於ても、送金の機關が動かなければ商賣は止まつてしまふ。昨年の夏、南米や濠州や東洋の貿易が一時殆ど中止の姿になつたのはロンドン爲替市場の瓦解した結果である。八月下旬から九月十日の英國貿易高が激減したのも主として其爲めである。又余が昨年十二月露國を旅行して居た時に彼の地の商人が從來獨逸から輸入して居た所の品物で、而かも日本に於て廉價に製造出来るものがあるから夫を輸入したいといふ様な話を頻りにして居たが是も爲替の一段になつて餘程困た様子であつた。故に爲替救済の方法は此に再び述べないけれども其頗る重要なことに就ては特に讀者の注意を惹て置きたいと思ふ。

其次は保險である。

戰時貿易の保護の爲めに保險官營の必要なことは英國に於て古くから考へられたのであつて、ジョン・スチュアート・ミルの如きも其自由貿易論の補綴として此問題を提起したことがあると聞及で居る。最近には議會に戰時の食料供給に關する調査會が出来て、其調査研究の結果亦此事の必要を認めて既に實行案を編成して發表するばかりに成て居た。開戦早々事實に行はれたものは即ち此案である。然らば何故に官營を要するかといふに、元來戰時敵艦の襲撃又は水雷の爆發の爲めに生ずる危険は勿論特別のものとして保險業者の間に取扱はれて居るので、普通の保險證券に

は皆 F. C. S. Clause 即ち free from capture and seizure の條件が付けてある。そこで戦時危険 war risk の引受を普通の保険業者に任せて置けば自分等が損をしてはならぬといふ心配からして實際の必要以上に保険料を競り上げの傾がある。其場合に政府が海軍の情報に基て公平な判断を爲して實際の危険に相當する丈の料金を定めて自ら保険を引受けるといふことになれば普通の保険業者も競争上不當の引上を爲すことは出来ないし、且又安心して低率の保険を提供し得るのである。

英國が實行した保険官營の内容を述べれば是は船體の保険と荷物の保険とに分れて居る。

船體保險の方は近年商船の噸數が非常に大きく成て來た爲めに普通の保険業者の資力では其戦時危険を引受けることが出来ない。夫故戦時危険の爲めに特に船主の相互保險組合を設けて船舶價格の一部を保險することにしてあつた。そこで政府は此種の保險組合の爲した保險契約を再保險することに取極めた。從來有力な組合が二三あつたので大抵の船主は組合員になつて居るが、開戦の時に未だ加入しなかつたものは至急加入したのである。而して此場合に損害が起たならば保險金融の八割を政府が引受け、二割を組合に負擔せしめることにした。例へばルシタニア撃沈の場合には其代價凡そ千二百萬圓の内で組合が二百四十萬圓、政府が九百六十萬圓を填補すべき筈である。

荷物に關しては前述の如き相互保險組合は出來て居らぬから政府自ら荷主と契約をしなければならぬ。之が爲めに特にロンドン市中に事務所を開て營業を始めた。但し政府は戦時危険のみを引受けのだから荷主は普通の保險業者に依頼して普通の海上保險を付け、更に政府の保險局に行て戦時保險を付けなければならぬ。政府の保險料は一%乃至五%の間に於て時々之を定め、何れの航路でも同率を課するものとしてある。所謂 flat rate である。而して政府は戦時保險を獨占するのでないから普通の保險業者が政府の歩合以下で引受けるといへば荷主は政府に頼む必要はないのである。夫だから事實に於ては危険の少い航路に就ては普通の營業者が引受け、危険の多いものゝみ政府へ

持込まれることになるので所謂民業壓迫といふことは更にない。唯政府の保險率が、市場の最高歩合となつて其暴騰を抑へるのである。

保險官營の仕組は以上の通りであるが其實際の運用は如何。

開戦當時の海運は勿論激烈なパニックを惹起した。何故ならば獨逸の海軍は英國のに比して優ては居らぬけれども兎に角世界中第二の大海軍であつて、其艦隊が何處から何う出て來るか分らない。其本艦隊が退守の方針を取るといふことも八月末にならなければ分らなかつた。加之獨逸の軍艦の或ものは大西洋にも太平洋にも游戈して居る。印度洋には有名なエムデンが暴れ巡て居る。夫で東洋航路の保險率が平生百磅に付五志位であるのが、開戦前に八十志まで上つた。開戦の時には一躍して十ギニーに上た。二日後には二十ギニーに飛だ。百磅に付て二十ギニーの保險料が掛ては商賣は到底出來ないのである。實際に於て貿易業者は總ての新取引を止めたのである。然るに政府は八月六日午後に至て保險を開業した。議會で案が決められてから三日目に開業したのは頗る機敏と稱して宜しい。此時政府の率は最高の五%であつたが、八月十七日に三%、九月一日に二%とした。夫から三ヶ月を経て東洋方面の獨艦全滅したから十二月十一日に一%半に下げ、年末更に一%に下げた。本年二月下旬から獨逸が英國の海上を戰爭區域と宣告し、得意の潜航艇を用ひて海運の妨害を試みて居るけれども是は行り方の花々しい割合に實質的損害を與へることが少いと見えて公定の保險率は上て來ない。民間の率は無論高くなつて居るけれども一%の公定率以上には上り得ないのである。蓋し毎週何千艘の商船が出入するのに對して一二隻の撃沈されるものがあつても其危険の割合は極めて低いのであらう。現に政府は保險の爲めに損をしなないで却て利益を擧げて居るといふことである。

要するに官營保險は開戦後至急に開業して而かも市場率以下の大膽な低率を行た其見込が着々當て來たのであつて、是は外國爲替救済と共に政府の大成效と看ることが出来るのである。

英國の戦時に於ける對貿易策は出来るだけ貿易の通路を保護するを主眼と爲し、其手段として外國爲替の救済及戦時海上保険の官營を行ひ、何れも夫々の方面に於て相當の成績を收めたことは以上述べた通りであるが、さて其外國貿易の實際は如何であつたか。空前の大戦争の影響は勿論如何なる救済策を以てしても之を補ふ譯に行くものでないが、其打撃の程度は如何、内容は如何。

第二 先づ統計上から見ると一九一四年の輸出入を一九一三年のに比べれば

	輸 入	輸 出	再輸出
一九一三年	七六八・七 <small>百萬磅</small>	五二五・二 <small>百萬磅</small>	一〇九・五 <small>百萬磅</small>
一九一四年	六九七・四	四三〇・二	九五・四
一九一四年			
八月	二四・三%減	四五・一%減	四五・〇%減
九月	二六・五同	三七・一同	二三・〇同
十月	二八・一同	三八・六同	二四・八同
十一月	一八・二同	四五・〇同	二九・五同
十二月	五・一同	三九・三同	三九・六同

であつて、輸入は九分三厘減、輸出は一割八分減に當る。併し是は戦争前の分を合算してあるから戦争の打撃を充分に示すものでない。依て更に昨年八月以後の毎月の輸出入を前年の同月分に比較して増減の割合を見ると次の如くなる。

一九一五年			
一月	〇・八同	四〇・九同	二八・一同
二月	五・二%増	三六・五同	三四・二同
三月	一一・九同	三二・二同	一五・四同
四月	一九・六同	一九・四同	七・七同

即ち昨年八、九、十の三ヶ月は輸出入共に非常なる減少を示して居るが其減少の程度は輸出に於て特に甚だしく八月は約半減になつて居る。十二月以後輸入は著しく恢復して本年に入てからは前年以上に増して來たが輸出は相變らず少くなつて居て唯徐々に改善するのみである。そこで尙輸出入の内容を研究して見なければならぬ。

輸出の方は如何。

一九一三年の統計に依ると英國の輸出總額五億二千萬磅の内獨、澳、土の三交戰國及ベルギーへの輸出は一割二分以上に達して居るが此等の好得意は全く失はれてしまつた。是は一の大打撃である。其他の國々に對しては最大の競争者たる獨逸の輸出が殆んど閉塞して居るから其虛に乗じて大に販路を擴張することが出来るだらうといふ豫想をした人もあつた。英國の商務省は開戰早々獨逸商業の奪取計劃 Campaign for capturing German tradeなるものを立て、盛に獨逸の輸出貿易を調査し、其品物の見本を蒐集して實業家の奮發を促したものである。其頃の新聞には獨逸が從來南北兩米へ輸出する製造品の價額七千五百萬磅、亞細亞諸國へ出すもの三千萬磅あれば其内の一大部分は英國に歸すべしと論じてあつた。併し實際の結果を見れば昨年輸出貿易は北米合衆國に對するものが増した丈で其他は南米も、東洋も、濠洲も、歐洲諸國も、悉く著しき減少を示して居る。本年の分も恐らく同様であらうと思ふ。即ち獨逸の輸出の止まつた機會に乗じて其販路を奪ふといふ計劃は一部成效したであらうけれども、戰爭の爲めに受けた打撃の大なるに比すれば極めて微々たるものであると判斷しなければならぬ。蓋し外國貿易は國際分業であ

つて世界中の各國が互に相倚り相助けて行かなければ出来ない様な仕組になつて居るから、獨逸の貿易が止れば夫は決して獨逸だけの損害には止まらないで、獨逸へ商品を賣て居た國の需要を妨げ、其等の國への輸入貿易を縮少せしめなければならぬ。然るときは其輸入貿易の輸出元たる諸國が又不景氣になるといふ連鎖關係を生ずる。例へば獨逸は從來合衆國、印度及南米諸國から莫大な輸入をして居たが夫が止まれば米國や印度や南米が不景氣になる。然る時は此米國、印度、南米へ輸出を爲して居た所の日本、英國、佛國等も不景氣になることを免れない。又南米、印度の如きは英國から資本の輸入を得て始めて商品の輸入を爲し得たのであるから英國の資本が戰爭に消費せられて外國への投資に用ゐられない間は商品に對する需要も止まらなければならぬ。開戦後數ヶ月に於ける各國の貿易統計を前年同期に比較すれば次の如くである。

	各年八月數		月よりの	
	一九一三年輸入	一九一四年輸入	一九一三年輸出	一九一四年輸出
米 國	九	一四三三 <small>千弗</small>	一二三〇 <small>千弗</small>	二〇五〇 <small>千弗</small>
英 國	八	二三五〇	二二五一	一九二七
カ ナ ダ	八	三九四	二八五	三一三
佛 國	六	八二七	三三六	六五六
伊 國	六	三四三	一八五	二五二
ス ペ イン	六	一二六	七七	一〇四
ス ウ イ ス	六	一八三	一〇四	一三八
アルゼンチナ	六	二〇六	九八	一八五

日 本	六	一六三	一〇三	一七一	一二九
印 度	六	三二九	二二〇	三八三	二一八
埃 及	六	七五	三一	一〇二	五〇
南アフリカ	六	一〇九	七一	六四	二一
ブラヂル	五	一二七	五三	一六四	九三
露 國	五	二七九	八〇	三七六	四三
濠 洲	五	一七八	一二八	一八七	一〇一

此の如く各國の貿易が減退して居るから假令諸國の輸入貿易中英國の分前が割合上増して居ても其金額に於ては却て減少することになるのが當然である。戦争に依て敵國の販路を蠶食することは全然出来ぬともいへないが、併しながら従來或一部の國權萬能論者が信ずる如く戦争に依て敵國の貿易を害し、之に依て自國の貿易を振はしめるなどいふことは商業の本質に關する誤解から來た結論であつて取るに足らないと思ふ。否、余が左様に思ふのみならず事實が明白に之を證明して居るのである。

次に輸入の側は如何。

輸出貿易は開戦當時の恐慌に依て破壊された上に外國の需要の減退に依て沈滞せしめられたが、輸入は左程でない。人心の動搖が治まり、海上の危険が去り、送金機關が整理せられると共に恢復して來た。英國の需要は左程に減退しないのである。蓋し英國の輸入貿易の内容を分拆して見ると食料品が三割八分、原料品が三割六分、製造品が二割五分許に當て居る。此内で原料品や製造品の需要は減退するが食料品は何事があつても容易に減退しない性質を具へたものである。特に戦争の爲めに穀物肉類の騰貴並に運賃保険料の騰貴は輸入品の價格を非常に高めて居るから、

輸入の數量に比して金高の嵩ばることは著しきものである。又勞働階級の所得は戰爭の初めに於て大に減じたけれども後になつては却て平時以上に多くなつたからして自ら其贅澤を奨勵して嗜好品の輸入を増すことになつて來た。夫から尙一つ輸入の増加する原因は軍需品の關係である。英國は平時に於て年々十億圓乃至十五億圓の資本を外國及殖民地へ放資して居るが此放資は戰爭と共にパツタリと止まつて其金が政府の公債となつて軍需品の購入に用ひられて居る。是も貿易上から見れば商品の輸出を減らして輸入を増加せしむる所の大勢力である。夫だから輸入の方は獨逸との貿易が全滅しても、其他の歐洲諸國との貿易が半減しても全體の高に於ては減少しないのである。本年の上半季に就て見ると輸入は前年の一割四分増、輸出は前年の二割八分減、再輸出は前年の一割三分減を示して居る。

併しながら輸入の減退しないのは決して英國人が困て居ないといふことを示すのではない。實は非常に困て居る。英國は從來獨逸から砂糖と染料の供給を仰で居たから其貿易の閉塞の爲めに非常の困難を來たした。夫から木綿工業は英國の最大工業であるが、是が亦歐大陸の戰亂の爲めに原料綿花の市價動搖に依て頗る悩まされた。夫から又日々のパンの原料たる小麦の暴騰が今春天下の大問題となつたが其原因の一は獨逸の海運業の斷絶とバルチック海及黒海の封鎖であつた。此等の事柄に就ては更に章を更めて論じようと思ふ。

尙本章の終に一言すべきは以上述べた所の理由に依て輸出入の權衡を失ひ、貿易上の借方が非常に多くなつたことである。此輸入超過激増といふことは一方に於ては爲替相場を逆調にして正貨問題を惹起し、他の一方には國民の富を消耗品に投じて公債募集の財源を小ならしめる所以であるに依て財政上の問題、又は國民の財産保全の問題になる。但し此等の點に關しては前章の終に於て既に論及した事もあり、且又後に財政の章に至て研究する積りであるから此には之を省いて置かうと思ふ。

第五章 英國の食料及原料供給問題

英國の食料品及原料品の内で戦時の大問題となつたのは綿花、砂糖、染料、石炭と而してパンの材料たる小麥其物である。其内で綿花を除いた外のものには皆品物の缺乏又は市價の騰貴に困たのであるが、綿花丈は却て品物の供給過多に苦しんだのであつて、他のものと全く違つた特別の状態を呈した。依て先づ綿花の事から述べようと思ふ。

英國の紡績業は世界の總錘數の凡そ半分を占めて居る所の大工業だが、是工業が英國内の何處にあるかといふと各地に散在して居るのでなくしてランカシアの一隅、十里四方位の狭い地方に集中されて居る。而して此處で消費される所の綿花も亦リヴァプールを唯一の輸入港として居る。リヴァプールには世界の相場を左右すべき有力な定期市場が出来て居る。然るに大戦争の勃發は此市場を全然混亂の状態に陥れてしまつて、取引所は開戦と共に閉鎖せられ、其後三ヶ月半を経て十一月十六日に至るまで再び開かれなかつた。現物の取引は全く止つたといふでもないが、賣手と買手との自由競争に任せて相場を立てることが出来ないから取引所の定めた人爲相場に依て賣買を行つたのである。従つて平生の様な活潑の商況は無論望むことが出来ない。此三月半の間は工場は一般に休業同様の極端な操業短縮を行ひ、ランカシアは一八六〇年代米國南北戦争の際に於ける所謂「綿花饑饉」の恐慌あつて以來曾て見たことのない程の不景氣に陥た。そこで此非常な不景氣の原因を考へて見るに、抑々今回の戦争は其爆發の初に於てこそ多少海上の危険をも憂へしめたが、間もなく外國貿易の安全なることは明かになつて居り、爲替の關係も亦漸々に疎通されて居る。印度、支那、南米等の輸出先も不景氣には相違ないが需要が絶えては居らない。而して尙ほ綿花市場が動か

ず、紡績工場が振はぬといふのは如何にも奇觀であつた。そこで此不思議の現象は何から來たかといふに當時經濟雜誌杯の説明する所はかうであつた。世界中で綿花を産出する國は澤山あるが其最大なるものは米國である。所が米國の木綿工業は自國産原料の三分一のみを消費して其餘を悉く輸出して居る。又歐洲には米國の外、印度や埃及からも綿花が輸入されるが其全體の凡そ五分二は英國で消費せられ、五分三が獨、佛、露等へ行くのである。而して英國が造る所の綿絲綿布の五分四は外國輸出品になつて居る。商品の種類多しと雖も綿花程其生産、製造、消費の關係に於て世界分業の完成したものはない。現今は世界貿易が非常に發達して居るといふても實際各國の内國商業と外國貿易との金高を比較して見れば後者は前者に及ばざること遠いのであつて、英國の如き國でさへ其生産物の總額中外國へ仕向けられるものは三分一に過ぎないと稱せられて居る。それに綿花は之を産出する國は産出一方に傾き、之を製造する國亦製造一方に傾くこと前述の統計の如くである故に、戦争といふ國際間の係争が起した場合に最大の打撃を受けるものは無論綿花でなくてはならぬ。獨、澳、露、白の諸國の貿易が止れば綿花の需要減退して相場下落すべきこととは分て居るが、何人も其下落の程度を見定めることが出来ない。買手は大に暴落すべしと思ひ、賣手は左程に下落せぬといふ。其意見が區々紛々として見る人毎に異て居るから相場が立たないのである。而して相場が立たぬ、見込が立たぬといふ事實が原因となつて賣買を中止せしめ、工業を中止せしめることになつた。綿花の相場は昨年七月末に米綿一斤に付七片三五であつたが、開戦と共に暴落をつゞけ、特に八、九、十の三ヶ月は毫も標準が立たなかつた。十一月には四片代に下り、十二月末に至て形勢が稍一定して來てから少しづつ恢復しつゝある。戦争の爲めに貿易及工業が立往生を爲すといふが綿花は其最も著しき例といふべきである。

次は染料である。

コールター染料は獨逸の特産品であるから獨逸貿易の杜絶と共に世界中の纖維工業國が皆困た。米國も、日本も、

印度も困た。而して一番困たのは英國である。英國は前段に述べた木綿工業の外に莫大なる毛織物工業を有して居て、輸出總額の四割は纖維製品であるから、染料の暴騰から受くる所の打撃は非常なものであらねばならぬ。

元來今のコールター染料の發明されたのは一八五六年の事で發明者は英國のパーキン Perkin といふ化學者である。然るに此發明に改良を加へて昔からの植物染料に代り得る様にしたのは獨逸人であつた。獨逸人が科學の研究に熱心であつて且又之を工業上に應用するの力量は色々の方面に現はれて居るので、現にツェペリン式飛行船にしても又潜航艇にしても四十三瓏の巨砲にしても皆最新科學を應用したものであるが、染料の如きも亦其著しき一例である。獨逸の資本家は學問上實驗の効果偉大なることを知て盛に研究費を出して學者の才能を發揮せしめる。或染料會社は三百人の學士を使用して其實驗部に働かしめて居るといふ様な次第だから色々の發明改良が年々に行はれて化學工業に關する專賣特許の數は世界中獨逸に敵するものがないのである。そこで世界に於ける染料供給の八割は獨逸から來る、英國も其消費高の九割を獨逸から取て其残りの一割だけを自國で製造して居た。自分の最大輸出品たる織物の原料を敵國から取て居ながら輸出の擴張などは出來る譯がない。

兎に角染料の缺乏には非常に困たから何とか救濟法を講じなければならぬ。所が染料は獨逸の專賣品だから他から取ることが出來ない。 스위スから出來る丈け輸入し得る様にしたけれども夫では足りないから自産自給をやらねばならぬ。即ち英國の製造家をして其事業を擴張せしめるより外はない。併し業務擴張には資本が入る、其資本は一年や二年で回收出來るものではない。戰爭中に何程儲かつても戦後に忽ち獨逸の競争を受けるとすれば結局收支償はないから之を實行するものはない。即ち政府が助けなければならぬのであるが、然らば如何にして助けたらば宜しかか。其方法は三つある。第一は政府自ら工場を經營する事、第二は此種の事業に従事する工場に對して補助金を與ふる事、第三は戦後まで保護關稅を課する事である。而して政府は之に關する委員會を設けて調査した結果十二月に

至て成案を發表する運びに至た。其内容は染料使用者たる織物業者及染物業者を主たる株主として資本金三百萬磅の大會社を設立し、之に政府から百五十萬磅の低利貸金を與へて期限を二十五個年とするのである。但し此會社は現に營業しつゝある所のリード、ホリデー會社を買收して其工場を擴張するといふことであつた。

二 然るに此案に對しては二様の反對説が起た。

第一は自由貿易論である。此の如き實力の基礎なき工業に保護を加へた所が戦後に至て成效する望はないから全然保護を加へざるに如かず。戦時に染料の供給不足なるは止むを得ざることとして諦むべしといふのである。

他の一は保護貿易論である。此貸金政策の如きは姑息の案なれば寧ろ斷然保護税を課して永久に斯業を保護すべしといふのである。併し此の如くすれば戦後にも英國の織物の生産費の一部なる染色費用を高めなければならぬ。

そこで會社は株主募集を行たが遂に染料使用者中に有力な反對が生じた爲めに計劃が行詰りとなり、結局資本を縮少して兎も角 The British Dyes, Limited と稱する一會社を成立せしめることに成たけれども其生産力は英國の需要の一小部分を充たすに過ぎないのである。

抑々染料の製造の如きは技術上容易に眞似の出来ない事實であるから金錢上の保護だけで之を扶植することは到底望みがない、根本問題は事業其者の保護にあらすして學問の奨勵にある、學問研究の精神を喚起するにあるのである。

次は食料の問題である。

開戦當時に歐洲各國特に大都會に於て一般公衆の間に二種の恐慌を惹起した。其一は金貨を溜め込みんとして噪いだこと、其二は食料品を買込まんとして狼狽したことである。而して金貨の溜め込みが多ければ多い丈け其國の金融を危険ならしむる如く、食料品の買込みが盛なればなる程其市場の相場を釣り上げて自他共に苦しませねばならぬ。併し此現象は英、佛、獨、澳の大都會に於て一様に起た。特に可笑のは露都に於ても中々の混雜を惹起したといふこと

である。余の如きも現に劍橋の或下宿に居て宿の主婦がバターやハムを買込んだといふ話を聞て其不可なることを説いたのであつた。又ロンドンの食料品市場は日々暴騰又暴騰で或は奸商の此機に乗じて買占を行ひ暴利を收めんとするものさへ出づべき形勢になつて來た。事實食料品缺乏の爲めに其市價の騰貴するのは止むを得ないとしても、公衆の疑心暗鬼の爲めに上げないで濟むものを競り上げるのは如何にも愚かなことといはなければならぬ。是に於て英國政府は至急に全國食料品商業の組合の代表者を會して協議の上食料品の最高價格なるものを公定することにした。最初の最高價格目録は八月七日に發表したもので砂糖、バター、チーズ、ラード、マルガリン、ベーコンの六品に就て定めてあつた。而して其後三日毎に實際の需要供給を見計らつて目録を改正することに成て居たが、實際は一時昂奮した人心の靜まるのが意外に早かつたから、最高價格は二三度改正した丈で中止になつてしまつた。要するに風聲鶴唳に驚くものは事實の真相の判明すると共に腰を据えることも出来るのである。尙ほ右の目録の内には主食物たるパンの代價が出て居らないが、之も政府が全國の小麥在荷高を調べて四ヶ月間全國民を養ふ程の分量充分にあること、並に海上の航海は安全にして米國よりの輸入は絶へず行はるべきことを公言するに依て一時の恐怖を救ふことが出来たのである。

此の如くにして風聲鶴唳や疑心暗鬼は一二週間に治まつたけれども實際の不足は何とか處分しなければならぬ。元來英國の食料品輸入高は酒類、茶及珈琲を除て凡そ二十億圓に達し、人口一人に付四十七圓五十錢程に當て居る。其内で小麥は米國、カナダ、印度、アルゼンチナ、濠洲、露國から來る。肉類はアルゼンチナ、濠洲、ニューゼーランド、ウルゲーから來る。バター、チーズ、鶏卵等は丁抹、和蘭、露國等から來る。砂糖は獨逸、澳國から來るといふ風に世界各國から食物が集て來るのである。そこで敵國以外から來るものは海軍の保護に依て貿易機關の恢復と共に輸入も亦出來るといふ見込が着たけれども、獨逸から來る所の砂糖だけは別に方法を講じなければならぬ。夫

が砂糖官營といふ形で現はれて來たのである。

砂糖の官營。

部 砂糖は誰でも知て居る通り甘蔗から取るのと甜菜から取るのとあつて、甘蔗は熱帶地方に出來、甜菜は歐洲諸國に
二 産する。而して英國の從來使用して居たのは主に甜菜糖で而かも全消費額の七割五分を獨逸兩國から輸入して居た。

然るに戰爭開始と共に獨逸兩國は砂糖の輸出を禁止し、露、佛、白も輸出が出來なくなつた。戦前一ハンドレッドウ
第一 エートに付て十六志であつたのが、例の銀行休日の明けた時には二十七志に暴騰し、夫から一時四十志まで上た。八
月末に至て人心の鎮まると共に少し下たけれども市場は不安の念を以て充たされて居る。

政府は早速此問題に關する委員を任命して研究せしめたが、其結果東西兩印度其他の地方から政府の手で砂糖を輸
入するに決した。政府は英國内の砂糖精製業者と交渉して粗糖の買入を政府に一任せしめて置て、夫から手を廻して
買占を行つた後に此事を發表した。夫が十月の初のことである。政府の買入高は凡そ一年分の需要高で代金一億八千萬
圓になる。實に思ひ切つた大規模の計劃である。

政府の計劃は此砂糖を一定の價格で製糖會社に拂下げて又一定の價格で製品を卸賣させることにしたから、其後の
砂糖の市價は前の様に高くはならぬけれども平生よりは無論高い。平生は自由貿易の效果で一斤の小賣相場が十錢
(之を日本の二十幾錢と比べて見るがいふ)であつたが今は十四錢位になつた。

初の計劃では砂糖の相場を抑へるのが目的だから民間の輸入に干渉する積りでなかつたらしいが十月に入つてから砂
糖の輸入禁止を行ふことになつた。従て砂糖は政府の專賣品になつてしまつた。何故此様にしたかといふに獨逸では
英國の事情を知るか又知らないでか、兎に角最初輸出禁止して居た所の砂糖を賣出す様になつたので、是が中立國の
手を通じて英國の市場へ流れ込んで來る。而かも其値段は安いから之を入れたならば政府が大損失を受けるといふので

輸入禁止、砂糖專賣と出掛けたのである。依て之を後から見れば英國の砂糖の市價は世界の相場よりも高いといふことと成た。折角政府が官營を行ひながら却て人民をして高い砂糖を嘗めさせるといふ結果になつた。

是に於て砂糖官營を批難する聲も少くない。自由貿易主義の雜誌『エコノミスト』は曰く抑々獨逸が最初に砂糖の輸出を禁じたのは勿論自國の供給不足を恐れたものではない。國內には砂糖の荷物が滯て當業者は非常に困て居たのである。されば其砂糖が何時か輸出されるであらうといふ豫想は出來た筈ではないか。又特更に獨逸が英國を苦しめる爲めに輸出を止めるとした處が、英國の相場が高くなれば甘蔗糖が續々商人の手で輸入されたであらう。然るに政府が此需要供給の大原則を忘れて人工的供給法を行つたのは大失策である、間違の喜劇であると。

併し此説に對しては反對論も立派に立ち得る。實際に於て『エコノミスト』の言ふ様な經濟學の教科書に書た様な事が行はれるか否かは疑問ではないか。戰時の相場は不安定のものだから高いといふても宛てにはならない。市價の高い所に商品が集るといふ原則も直ちに行はれるとは保證されない。又買占も起たかも知れない。さすれば英國砂糖市場の死命を獨逸の輸出政策の方針如何に托してしまはなければならなかつたらう。夫よりは少々高くとも安心して一定の市價を維持した方が優て居る。

兎に角今回の開戦以來英國政府のやり方は随分思ひ切つた干渉主義で、或は爲替の救済といひ、保險の官營といひ、染料及砂糖の供給といひ、夫からまた後に述べる所の穀物政策、石炭政策といひ、労働者救済策といひ、何れも、グラッドストーン時代の自由放任主義から遙かに遠ざかつたものゝみである。そこで卒然として之を見た人の眼には自由主義の國が戰爭の爲めに俄かに社會主義か國家主義かに早替りをしたとも見えたらしい。現に日本の新聞に現はれた所の英國通信などの内にも左様の觀察が散見されたのである。けれども是は近年の英國政治思想の變遷を知らない人の見方だと余は思ふ。何故ならばコブデンやブライトの自由主義、グラッドストーン時代の放任主義は英國でも今や

舊式のものにとせられて居るので其代りに新自由主義が起て居る。其新自由主義が實際政治の上に現はれて老年者年金制度となり、國立保險となり、所得稅相續稅の改革となり、土地增價稅の新設となり土地制度改良となり、最低賃銀法となつて居る。余は今此所謂新自由主義の内容を説明する所の暇を有て居らぬけれども、要するに英國の政治家が舊式個人主義の桎梏を脱して居たことは戦前からの事實であつて戦前戦時共此點に於て思想上の變化はないと信ずるのである。但し戰爭の爲めに新しき問題が續々湧き出で、新自由主義の應用が益々促進されたことは確かである。讀者は宜しく戦時經濟の細目の研究から更に根本的政治思想の如何に推移しつゝあるかを看取して貰ひたい。

さて話が少しく傍路に外れたが砂糖の問題の後に於て來た食料品問題は日々のパンの原料たる小麦供給の問題である。

小麦の市價は開戦以來少しづつ騰貴したけれども初めは左程驚くに足らなかつた。然るに昨年十二月から本年二月へかけて暴騰した。英國産小麦一クウォーターに於ての相場付を作て見ると左の通りになる。

昨年七月 四日	三十四志四片
八月 一日	三十四志二片
八月 十五日	四十志三片
九月 五日	三十六志二片
十月 三日	三十七志一片
十一月 七日	三十八志八片
十二月 五日	四十二志一片
本年一月 二日	四十四志四片

二月 六日 五十三志三片

二月 二十日 五十六志〇片

三月 六日 五十五志十一片

四月 三日 五十四志六片

最近十年間位の相場から見ると三十七八志は平時の高値であるから驚くに足らないが、四十志五十志となつてはパンの代金にして見ても平時に半斤四錢位のものに六七錢になるのだから細民の臺所向にも大に響て来る。古い所を調べても五十五六志の相場は五十年前に遡らなければならない。尤もクライミア戦争の時（一八五五年）には七十四志に上たこともあるといふことである。

兎も角本年二三月の相場は稀有の相場であつて而かも昨年七月に比べれば二十志の騰貴即ち一倍半の割合になるから世間が喧ましくなつて来た。是も日本の米が四十五年の二十四五圓から昨年の十二圓になつた其波瀾に比べて見ればまだ／＼軽いといへるのであるが、抑も日本の米といふものは世界の諸國民の食料の内でも最も市價變動の大きい、最も厄介な常食であるから是は比較にならない。現に同じ穀物でありながら歐洲の小麥が暴騰して社會問題を惹起して居る其時期に日本では米價調節を行つて相場を釣上げなければならぬといふことは如何に頓珍漢な話ではないか。余は今此に日本の米價問題を論ずることは出来ないが、兎に角英國の戦時の穀價問題位のもは日本では平時に起つて居る。日本人は夫程常食物に就て不幸な人民であることを一言して置きたいのである。

そこで英國の穀價は何の爲めに此くまで騰て来たか。之に對して如何なる調節策が提出されたか。

英國は平生消費する小麥の五分一を自國に産出し、五分四を外國から輸入して居る。夫だから海軍が敗れて外國貿易が絶えれば英國人は餓死するといふのが普通の人の考へである。専門家に言はせれば人はパンのみにて生活するも

のにあらず、肉類もある、馬鈴薯もある、米もある、オートミールもある。其上平生家畜類に食はせたり、酒を造たりして居る所の燕麥、大麥等を使ってパンを造ることも出来る。英國は封鎖されても三月や半年で食料缺乏の爲めに降参する必要はないといふことだ。併し英國人をして小麥のパンを止めさせることは日本人をして日本米を止めさせると同じく困難なことであろう。加之今英國は海戦に敗けては居らないので海上貿易は自由であるのだから其常食たる小麥の相場を今少し安くしたいといふことになる。

そこで政府の内外に種々の研究が爲されたが、今其結果を綜合して見ると運賃の騰貴が一大原因を爲して居ることは明かである。

十二月末から二月へかけて運賃が暴騰した。本年二月の相場を昨年七月に比すれば凡そ一倍半乃至二倍半に達して居る。米國からリヴァプールまでの小麥の運賃平時に三志位のものが今は八志に上た。開戦當時には戦時危険の爲めに保険料が非常に騰貴し、之に反して船舶の方は同じ理由の爲めに不景氣になると思ふ人もあつたが、實際は全く反對で保険料は比較的安くして運賃が高くなつた。或新聞には此關係を評して「海軍の勝利が食物の騰貴を誘た」といふた。是は勿論ウソだけれども論理上面白い洒落である。

併しながら穀價騰貴は運賃丈で説明は出来ない。運賃はクウォーターに付て五六志の騰貴であるのに小麥其者は二十志も上て居るのである。然らば其他の原因は何かといふに夫は小麥其者の供給不足である。

英國の小麥輸入元は平時に於て左の如くに分れて居る。

米	國	四二、〇〇〇、〇〇〇	ハンドレッドウェイト
露	國	五、〇〇〇、〇〇〇	
カ	ナ	二七、〇〇〇、〇〇〇	

アルゼンチナ	一五、〇〇〇、〇〇〇
印度	一八、〇〇〇、〇〇〇
濠洲	一〇、〇〇〇、〇〇〇
合 計	一二二、〇〇〇、〇〇〇

然るに此内で露國はバルチック及黒海が封鎖されて居るから小麥を出すことが出来ない。而して濠洲は凶作の爲めに平時の穀物輸出國が輸入國になつて居る。印度も平作以下である。左様な廻り合せの悪いことで英國は南北アメリカに依頼しなければならぬ。而して歐洲では佛國の北部が戦争の爲めに畑を荒らされてロンドンへ小麥を買ひに来る。英國市場は自國と佛國と兩方の需要に應じなければならぬ。是が騰貴の大原因である。

此の如く原因が明かなれば騰貴を救ふべき策も自ら出て来る。

第一はダーダネルス海峡を開て南露の小麥を運び出すことである。是は小麥を出すと共に、露國へ軍需品を輸入するの路を付けることになるから、頗る重要な事だといふので三月中に英佛聯合艦隊が派遣せられたけれども海軍丈けでは成效しなかつた。夫が爲めに英國海相は辭職するに至た。其後更に陸軍を送て海陸並び攻めて居るが容易にコンスタンチノール陥落の見込が着かない。

然らば退て小麥の最高價格を定めるかといふには是は實際に行はれない。何故ならば最高價格の法律で相場を抑へれば米國の出荷が少くなるに定まつて居る。夫なら砂糖の様に政府の手で買占めるかといふに此場合には米國の商人が安くは賣るまい。而して、米國人の所有品を差抑へることは出来ないのである。或人は政府が戦争の初めに高い砂糖杯を買はないで小麥を安く買て置けばよかつたといつたが夫は後の祭りである。

夫で此根本的救濟は出来ぬとすれば一部分的解決法として運賃の最高限を定めることは出来まいか。是は一の案とな

つて議會にも出た。併し小麥の運賃を抑へれば英國船は他の荷物を運ぶ様になる。進んで商船を政府に取り上げて鐵道官營と同じく海運官營を行たら何うかといふに、是は多少の效果があるだらうけれども抑々運賃の騰貴の原因は決して海運業者が儲けて居るばかりでなく實際費用が係るのである。又商船の供給が足りなければ政府に取り上げても之を増す譯に行かないから、従て小麥の供給を多くすることも出来ない譯である。

戰爭以來の世界の海運の状態を見ると、第一獨逸の商船が捕獲又は緊留の爲めに全部動かなくなつた其噸數は五百萬噸で世界中の商船の一割四分に當て居る。其上に世界の噸數の半分を占めて居る所の英國の船は其五分一を政府の御用船に取りれて居る。夫で此二口を合計すると世界の噸數の二割四分が働かないことになる。而して荷物の米國や東洋から來るのは多いが復り荷が極めて少い。尙其上に軍事輸送の爲めに港や船渠の混雜は甚だしくして船の荷役に時日を要するから船の滞在日數が多くなつて夫丈け運送力が減じて居る。夫だから海運官營を行つても實費が餘程係る。加之小麥の供給を大に増すことは出來さうもない。

そこで救済策は何れも實行不能又は實行の價値なしとして葬られてしまつた。唯自然に米國其他の穀物がロンドンの高値に釣られて盛に出て來たから相場は二月末を最高として夫から下り坂になつた。歐米の小麥は七八月に收穫があるから相場も一と先づ峠を越したと見て差支ないのである。

英國の穀物供給に關する平時からの政策の批評は後章に於て獨逸の穀物政策を論ずる時に譲らうと思ふ。最後に石炭の供給に就て簡単に述べたいことがある。

本年二月頃小麥の問題が喧しかつたと同時に石炭の問題が余等の注意を引いた。石炭は食料ではないけれども英國では暖房用として冬の絶對必需品である。如何なる細民でも石炭を使はぬものはない。一週間十圓の收入はロンドンに於て最下級の労働者の所得であるが其内の二十分一即五十錢以上は石炭に用ひられるのである。然るに此石炭が

昨年六月二十六志であつたのが本年二月三十五志に上た。即ち三割以上の騰貴である。

政府が委員を設けて此問題を調査した結果は三月に至て報告されたが、此報告に依ると炭價騰貴の原因は第一に坑夫の多數が義勇兵として陸軍に入つたことである。第二には北海の交通が危険になつた爲めにニューカッスルの炭をロンドンへ出すのが不便になつた。鐵道を利用せんとすれば鐵道が軍事輸送の爲めに混雜して居て運送が遅れるから市場の供給充分でなくなる。夫から第三には開戦後の恐慌の際にロンドンの中流以上の家で石炭を多く買込んだから市中の在荷が減つて居る。依て之に對する委員會の救濟策は第一に中立國に對する石炭の輸出を制限する事、第二は捕獲船の審檢を早く濟ませて石炭の運送に用ふる事、第三に此くしてもまだ炭價下落せぬ時は政府が炭坑を徵發して官營にする事、第四に本年の夏はロンドン市の金を以て豫め石炭を買込で置いて冬期に實費を以て販賣する事である。而して此等の中の最主要なる第一案は直ちに政府の採用する所となつて三月十三日から中立國輸出禁止が命ぜられた。又市場の形勢は石炭の高値なる爲めに供給が漸次増したのと氣候が暖かになつた爲め消費の減じたのと兩々相俟て市價が下つて來た。夫で本年の問題は大體片が着たけれども若しも第四案を實行しなければ來年も亦同じ困難が生じるであらう。元來石炭の如きは夏安くして多高きことは何人にも豫測出来るに拘らず中流以上の人のみが安い時期に之を仕入れて細民が之を爲さないのは一に金の融通が利かない爲めである。さすれば市町村が公費を以て細民の爲めに之を實行するのは至當なことといはねばならぬ。此の如きは平時に於ても當に爲すべき社會政策の一であつて必ずしも戦時のみの問題ではない。

第六章 獨逸の食料自給策

話の連絡を明かにする爲めに余は前に言た事を此に極めて簡単に繰返さねばならぬ

戦争は外國貿易を破壊するものである。而して現今の文明國に取ては外國貿易は實に人民の多數に對して職業を與へ、又食物其他の日用品を供給するものであるから、戦争の際には必ず國民全體の經濟生活に大混雜を惹起さなければならぬ。其混雜から免れる爲めに取るべき方法は二つある。一は外國貿易の通路を保護して飽くまで戦前の世界的經濟組織を維持して行かうとする方法、他の一は世界經濟から自國を分離せしめて内部で自産自給の國民的經濟組織を作り出す方法である。前者は英國の主として爲した所、後者は獨逸の主として爲した所である。

さて此丈の事は前にも述べたのであるが、然らば何故に英國が第一の方法を取り、獨逸が第二の方法を取たか。是はいふまでもなく英國は海軍を以て海上貿易の通路を支配することが出来たけれども、獨逸は之と反對に全く制海權を失たといふ事に歸せねばならぬ。獨逸は今回の戦争に於て世界無比の陸軍を有て居ることを明かにしたけれども、海軍としては殆んど無力といふ外はない。エムデン其他外洋に出て居た獨逸軍艦は確かに善く戦たし、又本年二月末以來の潜航艇の働きも目覺ましいものに相違ないけれども、英佛海運の全體から見れば之が爲めに生じた損害は論ずるに足らぬものである。而して北海の航路は開戦早々英國の爲めに封鎖された姿になつて今日世界中何れの海上にも獨逸商船旗の翻る所はない。英國海軍はまだ花々しい大戦争に従事したことはないけれども其所謂「無聲の勝利」 Silent victory は今日までの所殆んど安全と稱して差支ない。然るに獨逸の外國貿易の七割は海路を通じての貿易なのであるから戦前の世界的組織を維持せんとしても出来ない。獨逸が經濟上前記第二の方策を取たのは誠に止むを得

ざるに出でたのである。

獨逸の外國貿易の内容を簡單に分析して見ると一九一三年の輸出が四十九億圓、輸入が五十三億圓ある。其内で英、佛、白、露、日等の交戦國との貿易は輸出が三割九分、輸入が四割四分に當て居る。此丈は全減と思はなければならぬ。其殘額は中立國との貿易だから法律上出来る譯けだけでも、海を封鎖されて居る爲めに隣接した中立國即ち和蘭、瑞典、伊太利、瑞西、ルーマニア等を経て行はるゝのみである。是は運賃保険料等の諸掛りが非常に高くなり、且又運送の危険多く、發着の遲延を惹起す所の原因になること疑を容れない所である。加之本年三月一日より英國は潜航艇の侵入に對する報復として此等中立國を經過して獨逸へ出入する所の荷物を嚴重に取締ることゝしたから其貿易は益々困難になつて居るだらう。伊太利の戰爭參加が絶好の通路の一を奪たことも明かである。此の如く考へて見ると獨逸の貿易高が非常に縮少して居ることは推察に難くないが、併し實際何程に減じたかといふと夫は獨逸政府が開戦以來貿易統計の發表を止めてしまつたから詳しいことは分らない。唯中立國の貿易高から推定して多分平生の三分一以下になつて居るだらうといふのが専門家の説である。

獨逸は如何に陸戦に強くても經濟上の疲弊に依て降參せねばならぬ時が来るだらうといふのは開戦の初から英國其他で豫想された所である。併し此經濟上の疲弊なるものは決して金即ち貨幣の缺乏から來るものではない。國民の生活又は軍隊の活動に必要な物資が缺乏しない以上、不換紙幣が何程出ようと戰爭を止めさせられる様な事は決して起り得ない。そこで此物資の缺乏如何を判斷するには平時に於ける外國貿易の内容を見て獨逸の國民經濟が自産自給に堪へるや否やを調べなければならぬ。

第一に獨逸を食料責めにすることは果して出來得ることか否か。

獨逸の輸入を分析して見ると其二割が製造品、五割が原料品、三割が食料品及嗜好品である。又其輸出を分析して

見ると二割が原料品、七割二分が製造品、八分が食料品である。さすれば獨逸人は平生外國の原料を輸入して、其一部を製品として輸出して居るけれども、外國の食料品に依頼する程度は英國よりも遙かに少い。獨逸の食料品の輸入高は十五億圓許りあるが、其内には珈琲の一億二千萬圓を初めとして果物とか、茶とか、上等魚類とかの如き直接生活の必需品でないものが入て居る。而してパンの如き最も必要なものは英國でさへ何とかして數ヶ月間の自給が出来るといふのだから獨逸は無論自給し得べきである。是は開戦當時に獨逸の新聞に書てあつたのみならず英國でも事情に通ずる人の明言した所である(例へばOxford Pamphletsの中のC. G. Robertson, Germany the Economic Problemの如き)。併し此所謂自給は平生のまゝにして行て差支ないといふのではなくして、或組織を設ければ出来るといふのだから、其組織を立て且之を實行するのが非常に困難なる大問題である。其詳しい事は本章の主題として後に述べようと思ふ。

次に軍需品の供給は如何。

英國の元帥キチナー將軍は戦争に必要なものが三つある、Men, Material, Money (兵と軍需品と金)だといつたが、其内の兵に就ては獨逸は六千五百萬の人口の内から取る所の壯丁を世界中最優等の組織の下に訓練して居るから少くとも今の處何れの國にも負けない。金に就ては所謂「金融上の動員」が違算なく行はれて居る。軍需品に就ては何うかといふに獨逸は平時に於て世界第一の軍需品製造國であるのみならず、鐵工業も纖維工業も充分に發達して居るから其等の工業を利用して軍器、彈藥、車輛、被服等の製造に従事させることが出来る。即ち製造には差支ないが其原料の供給を充分にすることが出来るだらうか。食物の方は若し國民の意志さへ強固ならば藁を嚼ぢつても不足を言はずに居られるだらうが、實戦に當て必要なもの、原料がなくなれば忽ち敗北しなければならぬ。所が銅、硝石、ゴム、石油、綿花等は平時に於ける輸入品であるから是等のものを如何にして得るか、大問題となつたに相違な

い。余の如きは獨逸は金にも困らぬ、食料にも困らぬと思ふて居たが唯此軍需品の原料に缺乏しはせぬかと疑て居た。併し實際に於ては近時露國に對する大々の攻撃に依て獨逸は此點にも困て居らないことが明かにせられた。如何なる組織方法に依て之を得たかは今知ることが出来ないけれども、分かつたらば必ず吾人をして感服せしむるものがあるだらうと思ふ。又之を反面からいふと今迄は獨逸が此點に於て困らなかつたけれども將來にも其通りに行けるかが疑はれる。特に最近英國が綿花を戰時禁制品と認めたことは何等かの結果を生ずべきではあるまいか。

最後に尙一つの問題がある。夫は職業問題である。

前に持出した貿易統計が示す通り獨逸の輸入の半分が原料品、輸出の四分三が製造品である所から見れば獨逸人口の大部分は輸入原料を用ゆる工場又は輸出製品を造る工場に働て居ることが分る。外國貿易が破壊されれば此等の人は職業を失はなければならぬ。數十萬の勞働者が一時に職業を失ひ、其家族が生計の途を失ふといふことは、假令直ちに戰爭の進行に關せぬとしても確かに戰時經濟の一大問題である。但し戰時の勞働市場に就ては後章に述べることになつて居るから此には差控へる。

此の如くにして余が本章に述べべきことで、而かも述べ得る事は獨逸の食料特に穀物の供給問題といふこととなる。

獨逸の穀物自給策。

獨逸は現今英國と比肩すべき工業國であるけれども三十餘年前ビスマルクが農業保護關稅を立て、以來、保護稅の増加に依り、又農業の改良に依て食料品の自産自給を計て居たから、食料の輸入杜絶しても英國の如き窮狀には陥らない。本年二月に出版された所の『獨逸の國民的食料供給と英國の食料責め政策』Die deutsche Volksernährung und englische Aushungerungsplan と題する書物は有力なる農學者、統計家、經濟學者等の合著であつて、戰時の出版

物たるに拘らず頗る信頼すべきものと考へられて居る。余は其原本を手にすることが出来ないけれども梗概を英國の新聞に依て知り得たのである。此書物に依ると獨逸の小麥産額は其消費の三分の二を充たすに止り、残りの三分一は外國から輸入して居る。併し獨逸人の多數が常食とする所のパンの原料は小麥にあらずしてライ麥である。ライ麥は多量の釀酒原料及動物の飼料に用ひらるゝ外にパンの材料として小麥の一倍半を生産し且消費して居る。又獨逸は世界中最も多くの馬鈴薯を作り、其大部分は平時に動物の飼料及工業用に供せられて居る。夫から牧畜も頗る旺盛にして牛豚肉、卵、牛乳等は外國からの輸入少く、大抵自國産を以て足らして居る。燕麥も馬の飼料として自給して居る。唯最も困るのは平時露國から輸入して居る所の牛馬の飼料としての大麥である。依て之を概括して見れば獨逸は人間の食物に不足しないで唯動物の食料に不足するのみ。されば動物の肉を食はぬことにして、且又小麥の代りにライ麥でパンを作ることによれば穀物の自給は出来る勘定である。獨逸の穀物産出額の統計は次の通りである。

	生産額	食用	其他の用途
ライ麥	一一、九〇〇 <small>千噸</small>	八、九三二 <small>千噸</small>	二、七〇〇 <small>千噸</small>
小麥	四、九〇〇	四、〇〇〇	四五四
燕麥	九、〇〇〇	四二〇	七、七〇〇
馬鈴薯	五二、一六五	一三、六二三	三一、六二三

戦争開始と共に食料品市場の恐慌は至る處に起た。特に平素から穀物の供給を他地方に仰いで居る所のウエストフリアア州では直ちに最高價格を定めることに成た。併し他の地方では人心鎮靜と共に恐慌が去てしまった。十八ヶ月間の食料は充分なりとの説が行はれた。

併しながら外國貿易杜絶の影響は漸々に明かになつて來た。八月から九月、十月を通じてライ麥及小麥の相場は著

く上騰した。其一噸に就ての相場の變動を表示すれば左の通りである。

	開戦前	開戦後	九月十五日	十月十五日
ライ麦	一七〇—一八〇 ^{マルク}	一八六 ^{マルク}	二二四 ^{マルク}	二二六 ^{マルク}
小麦	一九〇—二〇〇	二二〇	二四〇	二五四

十月に成て小麦は既に二割七分の騰貴を示めして居る。同じ頃肉類の代價は倍に上り、バター、チーズ等も暴騰し、魚は全く市場に跡を絶ち、鹽魚さへも稀になつたと傳へられた。又其頃綿花、羊毛等の原料不足の爲めに工業が操業短縮を行ひ、労働者は一方に職業を失ひながら他の一方に生活費の騰貴に責められて非常なる困難に陥た。夫が爲めにプロシア政府は巨額の公債を起して道路の改築其他の不急の事業を起して僅かに労働者に職を與へたといふ通信が英國新聞に出た。

そこで獨逸政府は十月中に愈々最高價格を定むることに成た。其價格は穀物の産地と然らざる地方とに依て異て居るがベルリンの分は一噸に付小麦二百七十マルクであつた。之を英國風に換算して見ると一クウォーターに付五十六志六片になる。當時英國の相場は三十六志六片であつて、本年二月の最高點が此獨逸の十月の公定相場と凡そ同じ位置にある。而して獨逸政府は此法律を出すと同時にライ麦を家畜に與ふることを禁じ、製粉には小麦粉に一割のライ麦を加ふること、及パンの製造にはライ麦に二割の馬鈴薯粉を加へて焼くことを命令した(此二割は後に三割に改められた)。

然るに此法律は充分効果を奏することが出来なかつた。何となれば政府の定めた最高價格は昨年十二月まで其まゝに据置き、本年一月以後は毎月一日及十五日の二回に一マルク半づゝ引上げることゝ定めてあつたから穀物商等は成るべく其持荷を先へ賣延はして利益を多くしようと計劃した。政府は穀物を指定價格よりも高く賣たものに對して罰

金及禁鋼の嚴刑を課するとしてあるけれども、商人の持荷を悉く賣出せと強制する所の權能を與へられて居なかつた。夫が爲めに市場には穀物の缺乏を惹起し、諸新聞には政策の失敗が認められた。そこで穀物が實際出て來なくなれば買主の方では止むを得ず手數料とか荷造費用とかの名義を以て高い代價を支拂ふといふことにもなつた。

尙又穀物供給の源を保護する爲めに設けられた規則、即ち牛馬の飼料や、パンの材料に關する制限も實際に之を取締る所の仕組がないから殆んど空文に歸してしまつた。蓋し各農家の厩の内や、パン屋の釜の中の事は如何に行届た獨逸の警察でも取締りが出來ないのであらう。

そこで更に根本的の政策を立てねばならぬことに成た。夫が穀物專賣である。

本年一月中政府は戰時穀物會社 *Kriegsetreidgesellschaft* といふものを設立して穀物專賣の機關とした。其資本はプロシア政府、全國の重要都市及實業家が出すことにして取締役も此三團體の代表者を撰任したが、本來營利會社でないから配當は五分以内に制限して若し其以上に利益を生じた場合は國家の收入に組入れることと定めた。

かくて二月一日から愈々穀物專賣を實行せしめた。獨逸國內に在る穀物は精細に調査した上、農家が自家用として要する所の分量を何程と定めて夫丈は残すが其他は全部買上を行た。夫から他の一面には帝國內の各家族の人口を調べて置いて一人に付一週間二キロ即ち四斤を限りパンを用ひさせると定めた。而して此制限を實際に行ふ爲めにパン切符を作て一人に付一枚の割で毎週各戸に配布した。而して切符の雛形は別頁に出してある通り四斤の内を一部分づゝ切て使へる様に出來て居るから各戸は必要に應じてパン屋へ買ひに行くことが出来る。製粉會社及パン屋は悉く專賣會社の代理店になつて營業するのだから彼等は切符と引換でなければ品物を賣らない。尤も切符の外に代金を拂ふのであるが其代金は政府の指定した値段に極まつて居る。夫でパン屋は一週間毎に客から受取た切符を取揃へて會社の事務所へ差出して同量の穀粉を受取て來る。消費者の方も切符がなくなれば又會社から新らしいのを貰ふ。切符は一

25	25	250	250	50	50
25	25	Nicht Übertragbar \cup Nicht Übertragbar Berlin u. Nachbarort		50	50
25	25	Ausweis für die Einnahme von Brot u. Getreidemehl		50	50
25	25	Gilt für 1 Woche I 1000000		50	50
100	100	250	250	100	100

週間限り有効となつて居るから前週の餘りは無効になるのでは會社へ返さなければならぬ。子供や老人は食物の分量が少くて足りるから餘りとして返される分も少くはない筈である。

此他政府は色々の事をやつて居る。

例へばベルリンの料理屋では従來パンを料理の附物として出して居たが之は浪費の恐ありとして禁止せられた。客はパンの代金を別に拂はなければならぬ。そこで家からパン丈け持參して料理屋へ行くといふ奇觀も出來たと新聞に出て居る。

又政府は小麦、ライ麥のみならず、馬鈴薯、燕麥の在高を調べ、牛、馬、豚の頭數を調べた。豚は何時でも必要と認められた場合に一時に多數屠殺して其肉を鹽漬にして保存するといふ計劃が出來た。是は豚の飼料を節約して人間に食はせる爲めである。

之と同時に各大都會の塵芥の内には臺所の殘物で動物の飼料に供すべきものがあるといふので、是も取集めて利用することが組織的に行はれて居ると聞た。

婦人會を開いて主婦連を集めて食物節約法を研究し、戰時料理法の講義をやることも盛に行はれたといふ。其内には馬鈴薯を生のまま皮を剥けば厚く剥けて不經濟だから之は總て皮のまま料理して後に皮を取るべし杯といふ細い事もある。

兎に角此穀物專賣計劃は獨逸人の組織的の頭腦と微細な點まで徹底した注意周到な性質が遺憾なく應用されたのであつて今回の戰爭中各國の行た經濟政策の内のマスターピースともいふべきものである。而して其結果が何うなつたか、詳しいことは分らぬが最近電報の傳ふる所では七月の端境時になつて政府はパンの指定値段を下げたといふから成績は良好であつたに相違ない。

又以上の如くにして昨年度の事は濟んだが本年度の用意は何うするかといふに之に就ても抜け目はない。其計劃の詳細なことは英國の新聞では分らないけれども兼ねて研究された所から推測すれば左の三項が實行されたであらう。

- 一、成るべく多く穀物を作る。例へば甜菜の代りに小麥を植えること。
- 二、捕虜を耕作に用ふる。昨年は小學生徒や婦人を使って收穫を爲さしめたが本年は捕虜が百萬以上もあるから之を農夫として働かせる。

三、肥料の供給に就ては硝石が軍用に供せられて拂底になるから其代りにアンモニアを用ふることとし、其アンモニアの供給を多くする爲めに石炭は成るべく其儘使はずしてヨークスに製し、副産物としてアンモニアを取る。

獨逸の穀物專賣計劃は實に戰時經濟策の白眉であつて其大組織を編出した所の獨逸官僚の技倆と、之をして實地に行はれ得しめた人民の訓練とは確かに世界の賞讃を價すると信ずるが、併しながら今回の戰爭に際して獨逸が曲りなりにも世界經濟から孤立させられながら内に自産自給の組織を行ひ得たることは決して目前の穀物專賣法や戰時穀物會社だけの仕事ではない。獨逸は三十餘年前から種々の政策、特に關稅政策を以て自分の農業を保護して居たからこそ今日の様な大工業國になつて居ながら穀物自給に就て英國の様な状態に陥らずに濟なのである。抑々英國の穀物稅全廢は第十九世紀の大問題であつて、此大政策が斷行せられた爲めに英國の政治界は地主貴族の權力から解放せられて民主政治の色彩を明かに爲し得たと共に、英國の經濟界は全然世界經濟の大組織の内に編み込まれて自らは眞に「世界の工場」Workshop of the World と化したのである。是時から英國は農工商鼎立の國でなくして工商専門の國となつたのである。併しながら之が爲めに英國は國際分業の利益を充分に享受して諸物價の低廉なること世界に比なきものとなり、英國人は世界中何れの國よりも生活程度を高くすることが出來た。之に反して獨逸は一八七九年ピスマルクの關稅改革以來農業保護を重要なりとし、一時カプリヴィ伯の宰相時代に穀稅低減に傾いたけれども、ビュ

ロー公に至て再び元の主義に戻り、大に關稅を以て農業牧畜を保護することゝなつた。夫が爲めに獨逸の物價は英國の夫に比して常に高く、人民の生活程度を上せることが出来ないといふことは社會黨の不平とする所であつたが、其代り其農業牧畜が今回の非常の際に間に合たのである。ゼー・エス・ミルは曾て自由貿易と戰時經濟との關係を論じて、一國が世界中の國々と戰爭をして交通を遮斷されることはないから商工立國の國民も戰時に餓死する様な患はないと斷定し去たのであるが、安ぞ知らん、現今の獨逸は四圍のあらゆる國々と戰端を開て世界經濟上全然孤立の境地に陥た。勿論獨逸の農業保護は地主貴族の政治的勢力の大なると帝國財政上の必要とに推されて出來たことであるから、一概に政治家の先見の明を頌える譯にも行かないが、結果から見れば正にミル杯と正反對の主義を採て其誤らざりしことを事實の上に裏書されたといふことが出来る。試みに英獨兩國の農業に關する統計を比較すれば次の様になる。(英國々會議員アメリー氏調査に依る)

	一八九三年	一九一三年	増	減
英國耕地面積	一三、九八七 <small>千エーカー</small>	一二、七九七 <small>千エーカー</small>	九分	減
獨逸同 上	四二、一七五	四五、四一四	八分	増
英國穀物產額				
小麥	七、五九七 <small>クウォーター</small>	七、一七五 <small>クウォーター</small>	六分	減
大麥	九、六一七	七、二七六	二割四分	減
燕麥	二一、〇二三	二〇、六〇〇	二分	減
獨逸穀物產額				
小麥	一四、五二三	二〇、〇二三	三割八分	増

大麥	一三、三三八	一九、一八六	四割四分増
燕麥	三三、五〇五	六〇、一八七	八割増
ライ麥	三七、三七八	六〇、二八九	六割一分増

以て其由來する所を知るべしである。併しながら此くいへばとて余は此に英國の自由貿易論の短慮を罵らんとするものではない。英國の如く世界に先だつて産業革命の潮流に棹した國としては恐らく彼の經濟上の世界主義を實行するのが發展の必要條件であつたらう。加之自由貿易論者は唯戰爭恐るゝに足らずとして顧みなかつたかといふに決して左様でない。彼等は世界貿易の自國の存立に絶對必要なることを認めて之を保護する爲めに海軍の擴張を否まなかつた。又彼の戰時保險官營の議が古くから唱へられて居たのを見ても其用意の存する所が分かる。彼等は戰時に孤立することを思はず。最初から制海權の掌握を以て前提條件として居るのである。太陽の没することを知らぬといふ世界的殖民帝國を打立た國としてはさもあるべきではないか。然らば今回の戰爭に際して英國が飽くまで貿易維持策を取たのも、獨逸が自産自給の策を取たのも、共に其由來する所遠くして猥りに他國の模倣を許さないものである。

余は本章を終る前に尙一言を加へなければならぬ。夫は獨逸の穀物專賣計劃が英國の砂糖專賣、保險及鐵道官營、爲替救濟等と同じく將來の經濟政策に絶好の實驗資料を供し、而かも其内の最も大規模な標本のものだといふ事である。蓋し十九世紀の經濟學の信條は個人主義、私有財産、自由競争にあつたので、國家萬能主義と正反對の個人萬能主義ともいふのを取て居た。物價の如きは自由競争に依り需要供給の原則に依て行くべき所に行き、止るべき所に止るものであつて、而かも其標準は自ら生産費を償ふべき所にあるから、猥りに之に干渉すべきものでなく、又干渉しても政府の意思のまゝに之を左右することは出来ぬとされてあつた。併しながら個人主義を極端に行へば無政府主義に歸着するものであつて、個人主義の政府又は政策といふものは決して徹底したものと思ふことは出来ない。苟も

人間が社會的動物であるとすれば人間は社會の力に依て向上發展しなければならぬ。さすれば其社會の最高權力たる國家は無爲を以て主眼とせずして大に有爲を以て主眼とすべきである。經濟現象の如きも國家が之を支配し得る所の權力を有て居なければならぬ。自由競争を可とすれば自由競争に委するも可いが、若し自由競争の缺點が現はれて來た時は遠慮なく干渉しなければならぬ。民業は決してあらゆる場合に官業に優て居るとはいへないのである。然るに今回の戦争は偶然にも民業の無能を曝露し、自由競争の缺點を明かにし、而して近世國家の力の頗る爲すあるに足ることを示した。特に穀物の如き最重要商品の市價が國家の力で整理されたといふことは將來の思想上に大なる印象を與へずには濟まぬ筈である。勿論余は此に經濟上の官僚萬能を主張しようとは思はない。從來の所謂官僚主義には舊式の貴族主義を含み民は依らしむべし知らしむべからずといった様な、個人の特性、個人の人格を無視する様な思想を含んで居るから、夫には反對せざるを得ないけれども、唯將來の經濟政策が一層國家社會主義の方向に進展すべきことを信じ、而して歐洲の大戦争が此點に於て世界歴史上に一新時期を劃することになるだらうと推測するのである。

第七章 戦時の労働問題

歐洲の戦時經濟の講話を爲すに當て日本の聴衆に一番分り難いだらうと思はれるのは労働者の問題である。金融とか、外國貿易とか、原料食料の供給とかいふことは日本でも常に世人の注意を引て居る問題で、又吾々が直接利害の關係を有する所の問題であるけれども、獨り労働問題に至ては日本に於て未だ起て來て居らない問題、或は昨今漸く起りつつある問題であるから、一般の聴衆はまだ〳〵労働問題の何者であるか、或は何故にかくまで重要視せらるゝ

かを知て居らぬと思ふ。我讀者の内には必ず夫程の事は分て居るといふ人もあらうけれども、又さうでない人もあるかと思ふに依て先づ極めて簡單に此根本問題を解釋して然る後に戦時の勞働問題に入らうと思ふ。

抑々勞働問題は何故に戦時の問題として今迄説き來た諸々の重要問題と並べ稱する丈の大問題であるか。此質問に對して余は二の理由を擧げることが出来る。其一は日本に於て所謂勞働者の數は人口の一小部分に限られて居るが、西洋では夫が人口の最大多數を占めて居る事。其二は日本の勞働者には自覺がないけれども西洋の勞働者は政治上經濟上の一大勢力となつて居る事。此二つの理由に就て尙少しく説明を試みたい。

日本では勞働者といふ語の通用する様になつたのが既に比較的新しいことであるが、實際勞働者といふ社會上の階級の生じたのも古いことでない。日本の人口は今日でも其六割までが農民であつて是は自作又は小作をして居るから、所謂勞働者即ち一定の雇主の所へ通勤をして日給を貰て居るものとは經濟の状態が非常に違て居る。夫から此六割を引た残りの四割は商工民であるが、商工民といつても日本の商工は營業の規模が概して小さいから商ならば番頭小僧といふ種類に屬し、工ならば親方職人といふ種類に屬するものが多くして、日勤の勞働者は何程もない。勞働者といふ語の意味を廣く取て誰でも働く人は皆勞働者といふならば勿論日本人の大多數が勞働者だけれども日勤の使用人、職工、工夫、人足といふ意味に限て見ると、日本では鐵道、鑛山、工場の雇人丈けであるから、其數は人口全體に比れば至て少い。勿論近年商工業の發達する爲めに此種類の人數は頗る速かに増加しつゝあるには相違ないが今日の處ではまだ比較的少いのである。然るに歐米に於ては事情が、大に異て居る。英國の如きは商工民が過半數を占めて居て農民の方が却て少い。而して鐵道、鑛山、船渠等は無論大規模に經營されて居る其上に工業が悉く大規模になつて居る。紡績、織布、造船、機械、製鐵より大工、左官、裁縫、諸道具の製作に至るまで皆工場的になつて居る。從て其従業者は皆日勤勞働者である。つまり日本では、大工の職人の様に、仕事が暇なら親方の所に轉げ込んで

居られる人の数が多いが、之に反して西洋では、鐵工場の職工の様に、日給を取て獨立して居るのが多い。そこで西洋の労働者は世間が不景氣で仕事がなくなれば直ちに解雇されて所謂失業者 Unemployed になるか、又は操業時間短縮の爲めに賃銀を減らされる。其時貯蓄のあるものは一時を凌ぐけれども夫れのないものは借金をして食はなければならぬから非常に困る。不景氣の際には日本の労働者といへども困るには違ひないがまだ何處かに轉げ込む所がある。西洋の労働者は平生獨立して居る丈けに一層其浮沈が靦面である。是が即ち西洋に於て労働問題の喧しい一の根本原因であり、又特に戦時にあつて失業者の増加を患ふる所以である。尤も此労働者の生活の不安を救ふ爲めには保險の組合が發達して居て、病氣及失業の場合に幾分の保險金を得ることに爲て居るが、夫は何時も充分といふ譯に行かない。近頃は政府が強制保險を行つて労働者は悉く此種の保險に加入することには成て居るけれども矢張り困るものが多い。

次に労働者が困ても若し其人々が柔順なものばかり、悪くいへば無氣力のものばかりならば事柄は比較的簡單であるだらうが、西洋の労働者は決して左様でない。彼等は權利義務の何たるかを心得て居る。雇主の與へる賃銀が自分の正當と信ずる高よりも低いと思へば直ちに反抗する。夫も一人一人で反抗しては力が足りないから多數同盟して反抗する、即ちストライキを起す。而して此ストライキの爲めには平素から組合を作つて積金をして置いて、事ある時にも生活に困らぬ丈けの用意をしてある。労働組合の積金は前にいつた病氣や、失業の保險にもなり、又ストライキの用意金にもなつて居るのである。加之西洋の選舉法は日本と違つて納税の制限杯がない故に労働者も亦金持と同じく「清き一票」を投じる所の權利を有て居る。而して彼等は此權利に基つて労働者の利益を無視する様な政府は決して助けない。且又自分等の内からも組合の代表者を代議士に選舉して労働黨と稱する一個の政黨までも組織して居る。夫だから如何なる政府も労働者の利害を考へない譯には行かない。是が労働問題の喧すしき第二の理由である。日本の

一部の論者は労働者が組合を作ってストライキを起したり、又政治運動をやつたりするのは甚だ身分を辨へない事で、つまり亡國の本だ抔といふ人もある様だが、余は左様に思はない。労働者といへども國家全體の爲めに犠牲になるのは當然だけれども、何も雇主や金持の犠牲になるべきではない。國民の大多數たる下級の人民が財産家に壓制されて黙て引込む様なことでは決して國家の健全なる發達は望まれないと信ずる。兎に角此労働者の政治的自覺といふ事は可としても否としても西洋に於ては現在の事實であるから之を重要問題として取扱はぬ譯には行かないのである。

さて戦時の労働を語るには少しく戦前の形勢に遡て見なければならぬが、抑々此最近二三年間の時代は労働運動の歴史から見て頗る重要な時代であつたのである。英國労働黨の組織は益々鞏固になつて、之と同時に社會主義の思想が労働階級一般に行渡つて來たから、彼等は經濟上に於ける自分等の勢力の強大なることを自信し、其勢力を用ひて社會上の改革を行はんとする大望が燃へて來た。夫が爲にストライキの規模が大きくなり又其要求が社會改革の根本問題に觸れる様になつて來た。近頃の要求は賃銀を何程上げて貰ひたいといふことのみでなくして、賃錢の計算法は如何にせよとか賃銀の最低限を決定せよとかいふのであつた。一九〇〇年以來のストライキ及ロックアウトの統計は左の通りである。

	件數	關係労働者數 <small>千人</small>	罷業延日數 <small>千日</small>
一九〇〇年	六四八	二八八	三、一五二
一九〇五年	三五八	九三	二、四七〇
一九〇八年	三九九	二九五	一〇、八三四
一九一〇年	五三一	五一五	九、八九四
一九一一年	九〇三	九六一	一〇、三一九

一九一二年	八五七	一、四六三	四〇、九一四
一九一三年	一、四九七	六八八	一一、六三〇
一九一四年	九七三	四四六	一〇、一〇四

此の如く一九一〇年頃から以後は所謂 Labour Unrest の時代であつたので、現に余が一昨年秋渡英の後に於てもダブリンの運送業のストライキで幾萬の労働者が五ヶ月以上業を休で居るし、又昨年二月からロンドン建築業の罷業があつて壯大な示威運動を實見した様な次第であつた。余の如きは此數年間の大勢から推し考へて今度の洋行には必ず前古未曾有の大ストライキを見るだらうと豫期して居たのであつた。若し戦争がなかつたならば恐らく左様の結果になつたらうと今でも思て居るが、併し霹靂一聲、開戦は總ての状態を變じてしまつた。開戦前の數日間は労働者の諸團體が極力非戦熱を鼓吹したけれども、其當日から彼等の大多數は態度を一變して戦争を止むなき事と認め、自分等は戦争の爲めに生ずる細民の救済運動に力を盡すといふ事になつた。所々に始められてあつた所の大小のストライキも舉國一致の名の下に雇主雇人の妥協を行つて中止せられた。此時英國の労働界は戦争といふ大怪物の出現の爲めに如何程の打撃を受けるだらうかを充分豫測することが出来なかつたが、兎も角非常な大厄に出會たものと考へたから、何は措ても此方面の防禦準備に全力を注がなければならぬといふ譯で、ストライキ所の騒ぎではなくなつたのである。

夫で開戦當時には何人も戦争の労働者に及ぼす影響如何を明確に判断することは出来なかつた。一方には外國貿易の萎縮及内國の需要減退の爲めに失業者の數が増すだらうといふ觀察があつたが、又他の一方には募兵の爲めに労働者の供給が少くなるのと、政府の軍需品の注文の増すのとで労働界は寧ろ好都合になるだらうといふ觀察もあつた。中には金融機關の破壊の爲めに工業が全滅することを恐れたものもあつた。何れも根據のある觀察には相違ないが何

れの原因が何れの原因と相殺されるか分らない。そこで政府は何んな政策を取るかといふと如何なる事が起ても應對の出来る様な用意を整へるといふのであつた。

先づ第一に實際の現状を熟知する所の機關を設けなければならぬから八月四日開戦と同時に中央に「貧窮豫防及救濟委員」Committee on Prevention and Relief of Distress 並に「婦人就職委員」Committee on Women's Employment と稱する二の委員會を設けて有力な政治家、専門家、労働黨の代表者等を任命した。又之と同時に全国の市町村に地方代表委員 Local Representation Committee を組織せしめ、此には市町村自治體、労働組合、慈善團體等の代表者を列せしめることにした。即ちかくして中央と地方と連絡して實狀を明かにする計劃である。併し此等の機關は唯の調査機關ではなく同時に政策の實行にも當るのである。而して其實行には無論金を要するが、此點に關しては皇室が活動せらるゝこととなり、皇太子殿下の「國民救濟資金」National Relief Fund と皇后陛下の「婦人労働資金」Queen's Work for Women Fund といふものが出來て盛に天下の同情に訴へて資金を募集した。皇太子殿下の資金は二ヶ月にして三千萬圓に達し、本年三月には五千萬圓に達した。夫で大體方針としては最初に擧げた中央委員會の名が示す様に救濟よりも豫防に重きを置くといふのであつた。即ち貧窮者が出來てから救貧院を活動させるといふのでなく、出来るだけは貧窮の生ずるのを未然に防ぐといふのであつた。兎角世間の慈善といふものは冠履轉倒で片手に重税を絞りながら片手に濟生會を起すといつた様な誤謬に陥るものが多いから夫では行かぬといふことを英國の識者が認めたのである。

尙ほ又政府の常設機關の活動としては労働組合の失業保險の準備金に補助を與へること及び必要の場合には大に土木工事を起して失業者に職業を與へることを決定した。土木工事に就ては中央政府の國道擴張の如き、市町村の市區改正の如き、又公共の役所の建築の如き、數年後に延期して差支ない事業を此際急速に着手進行せしめるといふことで

あつた。當時余の考へた事に日本に於ては戦時には何事も儉約儉約で延ばせる丈けの仕事は延ばした上に婦人の髪結錢までも節約するのが善いとして居たのに、英國では全く之と反對して戦時なるの故に土木を盛に起すといふのは、如何にも兩國の富力の懸隔の甚だしきを證明する好箇の材料ではあるが、併し戦時に於て此くまで失業者が増すものであらうか否か。少くとも日本の経験では戦争の爲めに軍需品の製造とか戦地の運搬夫其他の需要の爲めに労働者の仕事は非常に増加し、其所得も多くなつて下層社會の贅澤が進だのであつた。併し英國では外國貿易に依頼する程度が到底日本杯の比でないから之を同日に論ずることも出来まいと思つて居た。

かくて實際の形勢を觀望して居ると八月中は造船業を除く外、諸工業一般に混亂の状態に陥り、特にランカンヤの木綿工業は前章に述べた如く非常の沈衰を極めたが、其他建築業及家具製造業の如き注文を延期しても需要者の不便を感ずること少き仕事、並に上等の裁縫とか、裝飾品の製造とかの如き贅澤に屬する仕事が増減した爲めに失業者の数は大に増加した。新聞紙上にも大に其前途を悲觀した意見が現はれて居た。併し九月に入つてから政府の注文の影響が出て來て造船の外に毛織物が活況を呈した。のみならず募兵の結果も一般に響いて來た。十月には軍需品として毛織物、メリヤス、靴、裁縫、大工、機械等が忙しくなつて前途の不安が多少除かれる状態に成た。地方事務大臣は開戦後二ヶ月間の経験に依て労働界の打撃は思たよりも激烈でなかつたことを公言するに至た。夫で最初は盛に進行せしむるかも知れなかつた所の諸種の救済案も一部分丈の實行に止むることとなり、土木事業急進は中止せられた。夫から十一月には木綿工業が秩序を恢復して來た。本年に入つてからは最早失業は問題でなくして、却て如何にせば工業の經營に差支なしに兵卒の募集を行ふことが出来るかといふことが問題になつて來た。婦人労働者の方は募兵の影響を受けない丈けに失業の割合は男子の場合よりも多いが、此場合にも如何にせば平素他の仕事に従事するものをして軍需品の方面に適應せしめるかといふことが、問題になるのである。つまり労働者をして平時の仕事から戦時の仕事に移轉

せしめる爲めに一種の動員を行ふことが必要になるのであつて、失業は此動員の進むと共に減少する次第である。

	男				女			
	九月	十月	十二月	二月	九月	十月	十二月	二月
昨年七月の従業員數	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
其内引續き終日就業するもの	六〇・二	六六・八	六五・八	六八・四	五三・五	六一・九	六六・六	七五・〇
就業時間を増したるもの	三・六	五・二	一二・八	一三・八	二・一	五・九	一〇・八	一〇・九
同短縮したるもの	二六・〇	一七・三	一〇・五	六・〇	三六・〇	二六・〇	一九・四	一二・六

従業員數減少

此内募兵に應じたるもの

一〇・二	一〇・七	一〇・九	一一・八
八・八	一〇・六	一三・三	一五・四

八・四	六・二	三・二	一・五
-----	-----	-----	-----

失業者△又は新就業者○

△一・四	△〇・一	〇二・四	〇三・六
------	------	------	------

△八・四	△六・二	△三・二	△一・五
------	------	------	------

英國政府が戦争中の労働状態を示す爲めに特に調査した所に依ると前表の如き事實がある。此表は昨年七月の従業員數を百として九月、十月、十二月、及本年二月に於ける従業の状態を數字に現はしたものである。其材料は政府から大小數千の工場へ質問用紙を廻して得た所の回答に依て居る。但し之は工場、鑛山の労働のみの統計だから鐵道、船渠、運送等を含まない。

又英國政府が常に編製する所の失業者統計は左の通りである。此統計は労働組合の主なるものゝ報告に據るのだから組合に屬せざるもの及組合にして報告を爲さざるものゝことは分らない。且又全然業を失た者のみの數を示して就業短縮の爲めに半分失業したものゝ數を擧げないから全體の眞相がよく分らない。けれども之に依て數年前との比較が出来る。

一九〇九年	七・七	一九一四年	二・五	九月	五・九
一九一〇年	四・七	一九一四年	二・三	十月	四・四
一九一一年	三・〇	一九一四年	二・一	十一月	二・九
一九一二年	三・二	一九一四年	二・一	十二月	二・五
一九一三年	二・四	一九一五年	二・三	一九一五年	一・九
一九一四年	三・三	一九一五年	二・四	二月	一・六
		一九一五年	二・八	三月	一・三
		一九一五年	七・一	四月	一・二
		一九一五年		八月	

何れの表に依て見るも、労働界の打撃は一時急激であつたけれども二ヶ月の後には既に恢復の徴を示し、本年に入てからは寧ろ平年以上の好況を呈して居る。前掲第二表に依れば失業者の百分率が七月以前の二・一乃至二・八から急に八月の七・一及九月の五・九となつたのは、一二ヶ月の中に一九一四年の好況から一九〇九年の不況時代に戻たのであるから急激の變動であるけれども、其後の景況は月を逐ふて改善しつゝあつた。本年二月の一・六は過去十五年間に於ける最上の景氣である。本年四月の一・二は過去二十五年間の最上である。又第一表に依て見るも昨年十二月以來男子労働者の方は昨年七月の好況時代を凌駕し、婦人の方も本年二月に至て殆ど戦前に復したといふことが出来る。皇太子殿下の救済資金は本年三月に報告を發して曰く、醸出金額は五千萬圓であつて其内二千萬圓を既に支出したが、其用途は重に募兵の家族に對する政府扶助料の足らぬ所を補ふ爲めに出したのであつて普通の失業者の救済を要するものは極めて少なかつた。

此の如く労働界が戦時に於て好況なる理由は何であるか。我等は此結果から見て最初の豫想の當否を判断しなければ

ばならぬ。第一に金融機關の靜止が工業を全滅せしめるといふ觀測は最も事實に遠きものであつた。次に外國貿易の萎縮の爲めに失業者を生ずるだらうといふ觀測は木綿工業の場合に於て著しい適中を爲したけれども全體としては當て居らない。尤も是は外國貿易其者の打撃が思たよりも甚だしくなかつた結果であらう。現に獨逸の勞働界が昨年十月頃非常の苦境に陥てプロシア政府が救濟的土木事業を起したことは既に獨逸の食料品問題の章中に述べた所であるが、是は主として外國貿易杜絶の結果と見なければならぬ。第三に募兵と軍需品供給との爲めに勞働界は好況になるといふ豫想は最もよく適中したのである。つまり外國貿易の萎縮に依て失業者を増すべき傾向は事實存在して居ても、募兵及軍需品の影響に相殺せられてしまつて現はれて來ないのである。夫だから此同じ現象は獨逸にも起て來た。獨逸の材料は極めて不完全で別に述ぶる程のことはないから此に同國勞働局の報告に依て失業者の統計のみを掲げて見れば次の通りである。

一九一四年七月	二・九	十一月	八・二
八月	二二・四	十二月	七・二
九月	一五・七	一九一五年一月	六・五
十月	一〇・九		

而して其後の景況は益々改善して來たものと推測すべき理由がある。蓋し今回の如き大戦争に於ては兵卒として勞働市場から引抜かれる所の員數は非常に多く、軍需品の製造に従事すべき勞働者の數も非常に多くなければならぬ。兵卒の數は英國が二百萬で人口の百分五に當り、獨逸は六百萬で人口の百分十に當て居る。總人口の内から勞働に適しない子供や老人や婦人の一部を引去て計算したならば此百分率はまだ大に高くなるのである。而して軍需品の供給に至ては是は何人も思ひ設けなかつた程の巨額に達したのである。軍需品の種類は被服や食料品から兵器彈藥に至るま

で頗る繁雜なものであるが、今回の戦争は所謂「砲彈の戦争」War of shells であるから金屬工業の忙しくなつたことは察するに餘りありといふべしだ。

本年の初めに英國政府が出した報告中に労働界の景氣を三種の職業に分けて示したものがあつたがあるが其種類丈けを掲げると左の通りである。

二 部

一、労働者不足せる工業

石炭、製鐵、造船、機械、毛織物、靴、皮革、化學、木工、メリヤス、食物、

二、通常の景氣を示すもの

裁縫、紙、印刷、陶器、ガラス、麻、自轉車、自動車、

三、不況なるもの

建築、煉瓦、石材、家具、木綿、ブリキ、

即ち景氣好きものは政府の注文を受くる方面にあり、不景氣のものは贅澤品又は海外輸出品の方面にある。而して戦時の恐慌が經濟上の恐慌と大に趣を異にする點を求めると製鐵業及鐵を用ふる所の諸工業が沈滞しないことである。普通の恐慌の場合には事業の新設が止ると共に鐵道、橋梁、機械、建築等の材料の需要が止まるから鐵に關係した工業は一齊に沈滞するが、戦時にありては此等の事業が最必要品たる軍器彈藥の製造に従事することとなるに依て労働者の側からいへば苦痛を感じることに比較的少い道理である。而して軍需品の需要大なれば大なる程此方面の事業は益々忙しくなつて平時以上の活況を呈することになる。夫が即ち本年春以來の實際である。平時に生産交通の設備を作る爲めに用ひられ、國民の幸福に寄與する所の資本の創造に使用さるゝ所の勞力が人命財産の破壊と、其破壊の道具を造る爲めに費されてしまふのは國民經濟の全體から見て不祥此上もない事だけれども、單に労働者の眼前の利

害から見れば何れでも同じ事になる。兎に角勞力の需要が増すときは夫だけ失業者は少くなり、勞働者の所得は多くなる。唯平時に背廣服を造たものがカーキ服を造る様になり、自轉車を造たものは小銃を造る様になり、エンヂンを鑄たものは大砲を鑄る様にならなければならぬに依て、此に勞働者の動員を行ふ必要がある。動員が行はれれば失業者は増さないで却て減少するかも知れぬ。今回の戰爭に際して政府の支出した金額は一ヶ年に百億圓に上るのだから四十億や五十億の輸出貿易が全部止ても之を補ふに綽々として餘裕ある譯だ。

斯くの如くして失業の心配は最早なくなつたが其代りに他の方面から勞働界の問題が湧て來た。失業と反對に勞働者の所得の増したことが問題の起る原因になつたのである。日本でも三十七八年の戰役中及戰役後に於て巨大の金が細民の懷に入て贅澤浪費の弊害を生じたが、今は之と同じことが英國に生じて來た。而して其結果は國民の貯蓄を絞り取た所の公債を贅澤に使ひ果して外國貿易の輸入超過を招くといふことになつて來たから、そこで今度は勤儉貯蓄を奨励するの必要を生じ、其一端は公債證書の小額面發行となつて財政政策上に現はれた。併し此事は財政の問題として次章に譲ることにして此に一言を要するのは勞働者の飲酒問題である。一部勞働者の所得が平時以上に増した爲めに飲酒が盛に行はれ、其爲めに軍需品の製造運搬に差支を生じたことである。特に下等の勞働者で平素から不規則な仕事に従事して居る所の港灣の仲仕人足の如きものは所得の急に増した爲めに飲酒に耽て仕事を休むものが多くなつた。そこで禁酒論者が激烈な運動を起した爲めに此事は一時朝野の問題となつた。或者は絶対禁酒法の發布を迫り、或者は特別の地方に限り禁酒法を布くべしと主張し、又或者は酒類の販賣を政府の專賣にすべしと論じたが、終に次の方法で結末を着けることに成た。即ち兵營、港灣及或種の工場の所在地に於ては酒類の販賣を禁ずること及びビール、葡萄酒、ウイスキーの課税を重くすることの二つである。

次には軍需品の製造家が此際非常な利益を收めて居るに拘らず勞働者の賃銀引上を承諾しない、其一方に於て日用

品の價格の騰貴するのは勞働者の堪ふべからざる所だといふので不平の聲が起て來た。中には雇主が賃銀引上を行はなければ大ストライキを起すと言ひ出した組合がある、又實際雇主と衝突してストライキを起したものもある。此の如き場合には有力な政治家が出て行て仲裁をするのは近年の習慣に成て居るが、戰時に於ては夫丈の手段では足りないから更に法律上の權能に依て政府がストライキの抑制を爲すに至た。即ち六月初に發布された軍需品法 *Munitions of war Act* は一方に於て軍需品の製造に従事する勞働者のストライキを禁止し犯すものは嚴罰に處すべきことを定むると共に、或種の工場は其經營に就て政府の命令に服従しなければならぬこととして居る。又戰時の特別な利潤に課税することは各方面に研究せられて將に來るべき本年度の豫算には何かの形式を執て現はれるだらうと豫期されて居る。ストライキの防止策は平時にあつても頗る重要な問題であつて種々議論されて居る所の事柄ではあるが、資本家にも勞働者にも不當の損益を生ぜしめない様な公平な仲裁を爲し且其兩者をして仲裁に服従せしめることは頗る困難であるから未だ満足な解決を得るに至らないのである。今戰時に當つて此の如き法律が出て來たのは此根本的大問題の解決に重要な實驗の機會を得せしめるものであるから、其實際の運用如何は最も注目を値する所の事柄である。又戰時の特別利潤なるものは昔から行はれた事柄であつて、大戰爭の爲めに幾多の成金黨が生れて名家の祖先と成た例は西洋にも日本にも數へ盡せない程あるのであるが、抑々國家の存亡を賭して外國と戰爭を爲る時に、幾萬の將士が屍山血河の裡に犠牲と成て奮戰する其時に、暴利を占めて政府に高い商品を賣るといふことは決して正當な商業といふことは出來ない。若し此の如き際に高い利益の生ずることは需要供給の關係上止むを得ないとするならば一旦利益の生じた後に之に課税を行て其一部を國家に返させるのが當然である。今回の戰爭に際して此の如き意見の行はるゝに至たことは明かに租税と社會政策との關係に於て著大なる進歩を爲したものといはなければならぬ。

禁酒問題といひ、ストライキ禁止問題といひ、戰時利潤の制限といひ、何れも近世經濟上の重大問題であつて、此

等のもが端なくも軍需品供給法に關聯して出て來たことは頗る吾人の注目を要する所であるけれども、前の二案は法律面に成立した丈で實際の適用を經ること少く、後の一案は未だ法律にもなつて居らないのだから只今深く論評を加へる譯には行かない。余は唯此の如き重要な問題が出て來たことだけを述べて此章を結ぶの外はない。

第八章 軍國の財政

昨年夏以來の交戰國の財政を語る前に研究の順序として如何なる事が戰時財政の重大問題になるかといふことを考へて見るに凡そ左の通りである。

第一、戰爭が政府の收入及支出に如何なる直接の影響を與へるか。即ち收入の方では經濟界の打撃の爲めに租税も官業も減收となるから其減收の程度を見なければならぬ。支出の方では軍事費の激増を來す外に經濟界の救済に要する費用を考へなければならぬ。此兩方の差額が即ち新たに財源を發見すべき金額である。

第二、此の如くして生じた收入の不足は如何にして填補せらるゝか。

英國の財政年度は日本と同じく四月に始まつて翌年三月末に終るのでから、昨年來の事も本年三月までの八ヶ月と其後の分と二段に分れて居る。

さて英國政府は開戦後間もなく五十萬人の新兵募集と十億圓の公債募集の權能を要求し、此要求は朝野兩黨の熱誠ある賛成に依て容れられた。夫で政府は如何なる形式で此公債を募集したかといふと次の通りである。第一には差向き必要な資金を得る方法として英蘭銀行から借入金をした。八月末の同行報告には政府貸金が戦前に比して一億七千萬圓も増して居た。併し銀行の借入金は一時の間に合せであつて長く之に依頼することは出来ない故に間もなく公債

を募て其借金を返さなければならぬ。其公債には浮動公債即ち大藏省證券と長期の確定公債とあるが、英國では先づ浮動公債を用ひた。そこで第二の財源は大藏省證券といふこととなる。英國政府は八月十九日を第一回として八月二十六日、九月十六日、十月七日、十月二十一日、十一月四日の六回に各千五百萬磅即ち一億五千萬圓づゝ、合計九億圓の大藏省證券を發行した。其割引歩合は時に依て區々であるが安いのは三分見當高いのは三分七厘見當になる。大藏省證券は政府の融通手形に外ならないが、其手形の割引に依て僅々三ヶ月の間に九億圓の資金を得たといふことは如何にもロンドン金融市場の大なることを示すものである。是は恐らく何れの國にも眞似の出来ない事柄であらう。

併しながら大藏省證券の期限は六ヶ月乃至一ヶ年を以て限りとするから長く借りて置くには度々償還借替を行はなければならぬ。加之餘り多くの發行をすれば金融市場を壓迫して民間の經濟を不便にするから無限に此方法に依ることとは無論出来ない。何時かは確定公債を出す必要がある。是が第三の財源である。當時英國の戰費即ち平素の經費以外に支出せらるゝ金額は一日約一千萬圓であつたから開戦以來三ヶ月を経過した十一月となつては既に前の十億圓は使ひ果してあるので更に公債募集の權能を得なければならぬ時と成た。併し此時政府は戰時の豫算を提出して居るから余は其方から先に話を進めたい。

十一月に一九一四年度總豫算の改正案が提出された。蓋し一九一四年度の豫算は昨年の春に出來て居るが戰爭の爲めに之を訂正する必要が起つたのであつて、之を見ると戰時財政の全體の關係がよく分る。

總支出見積	普通費	二〇六	千萬圓
	戰爭費	三二八	
合計		五三五、三六七	萬圓
既定の收入見積		二〇六	千萬圓

戦争の爲め減收	一一
差引	一九五、七九六 <small>萬圓</small>
差引不足額	三三九、五七一
此不足額を填補するものは		
既定の支出の削除	二、七五〇 <small>萬圓</small>
(即ち公債償還中止)		
増税に依る新収入	一五、五〇〇
合計	一八、二五〇 <small>萬圓</small>
依て純不足	三二一、三二一

(即ち公債募集を要する高)

而して増税の内譯は左の通りである。

所得税を二倍とするに依り	一一、〇〇〇 <small>萬圓</small>
所得超過税 (super tax) を二倍とするに依り	一、五〇〇
麥酒税を三倍するに依り	二、〇五〇
茶税を六割増するに依り	九五〇
合計	一五、五〇〇

即ち英國は戦時の収入不足を補ふ爲めに大部分は公債に依ることゝしたが一部分を増税に依て埋めたのである。元來公債は現在の經費を現在の國民が負擔せずして後世子孫に遺すものであるから成るべく之を起さぬがよいのは明

部 二 部 税を増して公債を少くするのは思慮ある財政の原則である。先頃或人が露獨財政の比較をした論文を讀だら今回の戦争に就て露國が既に増税をして居るけれども獨逸は公債のみで用を辨じて居るといふ事實を擧げて露の財政上の基礎が獨に及ばない事の證據にしてあつたが、左様の議論は根本的誤謬といはなければならぬ。

次に公債の方は前記の純不足額三十二億圓募入の權能を得たが、之に對しては政府は直ちに確定公債を發行することになつた。其條件は次の通りである。

發行總額 三十五億圓

但し發行價格九十五なるに依り手取金三十三億圓となる。

利 率 三分五厘

之を發行價格九十五に割宛てれば利廻り三分六厘八毛。外に平價償還に依て得る利益五圓。

償還期限 一九二五年三月より一九二八年三月まで。

此等の條件は從來の英國公債の利率二分半なるに比すれば頗る悪いが、併し實際コンソルの相場は開戦當時に六十九磅まで下て居るから其利廻りを計算すれば三分六七厘以下で新債を募ることは出来ない。英國の金融界は此戦争の初期に依て既に一大革命に會たものと考へなければならぬ。

英國政府は此豫算に依て軍國財政を處理して來たが年度末の本年三月に至て尙三億七千萬圓の不足を生じた。即ち開戦以來八ヶ月に英國の費した戦費は合計三十六億二千萬圓に上つたのである。當時大藏大臣ロイド・デューヂ氏の議會に於て説明した所に依ると、此三十六億圓の内で殖民地及聯合國へ貸付けた高が五億二千萬、砂糖其他の物價調

節費が二億八千萬、而して直接軍事費が二十七億九千萬圓である。夫から此直接軍事費は開戦後の八ヶ月中初めの四ヶ月に使たのが十億圓、後の四ヶ月に使たのが十七億圓になる。即ち募兵が多くなり戦争が續くに從て其費用が多くなるのである。

以上は一九一四年度分であるが本年度に入てからの軍國財政は益々大規模になつて來た。英國の募兵は最初五十萬人であつたが其後漸々増加して本年の春には二百萬に達した。而して此等の兵は皆志願兵であるから徴兵の様に義務的に働かせることは出來ないので、他の職業に對抗する丈けの給料を與へなければならぬ。又今回の戦争は所謂「砲彈の戦争」だから大砲、小銃、彈丸の消費高が非常に多い。加之英國は殖民地の出兵費を支拂ひ、聯合國の軍資金を補給することに成て居るから之が爲めに支拂ふ所のものも少くない。かくて昨年一日の戦費平均一千萬圓と稱せられたのが本年に入てから二千萬圓となり、本年の夏は更に三千萬といふことに成た。そこで此莫大な戦費を如何にして調達するかといふに、本年度の豫算はまだ確定したものが出來て居らぬから幾何の租税を新たに課するか分らないけれども、要するに其大部分は公債を以て支辨しなければならぬ。政府が年度の初から只今（八月末）までに募集の權を議會から與へられた高は三月一日に二十五億圓、六月十六日に二十五億圓、而して七月二十日に十五億圓、合計六十五億圓であつて、是丈あれば凡そ本年九月中旬までの經費を支へることが出來ると豫期されて居る。つまり昨年度には八月から三月まで八ヶ月に三十六億圓を消費し、本年度には、四月から九月まで六ヶ月に六十五億圓を消費する計算である。

次に此六十五億圓の金は如何にして募集したかといふに年度の初には短期公債を發行して居たので三月四月の二ヶ月中に國庫債券の期限五ヶ年のものを五億圓と大藏省證券四億五千萬圓を出して居る。併し此等は前にもいつた通り一時の間に合せであるから早晚長期公債に變更しなければならない。夫故六月二十一日になつて愈々大計劃の公債發

行の議を決した。此公債は形式上にも實質上にも頗る前例に外れた財政上の新事件であるから少し詳しく其内容を述べて見たい。大體の條件は左の通りである。

發行高 無制限

發行價格 平價

利率 四分半

償還期限 一九二五年より一九四五年まで

額面 百磅券の外に二十五磅券及五磅券を發行し、百磅券は英蘭銀行より賣出し、小口券は郵便局より

賣出す。尚別に五志（即ち二圓五十錢）の傳票を勞働組合、保險組合、工場事務所等にて發賣し、

五分の利子を附す。此傳票二十枚に達すれば郵便局に於て五磅の公債證書と交換せしむ、又二十

枚に達せずして中止するときは買戻を行ふ。

乗替應募

舊軍事公債（昨年十一月發行）の所有者は其發行價格九十五の外に五磅の現金を拂込んで新公債額面百磅に交換することを許す。コンソル公債所有者は舊債額面七十五を新債額面五十磅と交換することを許す。但し何れの場合にも別に新債百磅を現金にて應募することを條件とす。

此等の條件の内で先づ論じたいのは四分五厘の高利の事である。英國の公債が長く二分五厘と定て居たのを今四分五厘に上げることは夢の如き變化である。昨年十一月の第一軍事公債が三分五厘で募集されたときに吾々は金利の革命と思たが是は唯革命の初期であつたといふことを今になつて知たのである。尤も昨年來二分五厘のコンソル公債の相場は非常に下て戦前に七十五（利廻り三分三厘）であつたのが今は六十六半（利廻り三分八厘弱）になつて居る。

而かも今の相場は所謂最低價格であつて相場の激變を防ぐ爲めの人爲相場に過ぎない。又第一の軍事公債は發行價格

九十五に宛て、計算すると實際三分六厘強の利廻りになる。之に平價償還の利益五を加へれば償還期限の初に償還されるものは四分一厘強に當るのである。さすれば其後の軍費の益々多くなつた事、並に戦争の前途際遠な事を考へ合せると平價四分五厘は必ずしも不當でない。當時大藏大臣が説明した様には五億や六億の金を求めるのでなくして幾十億を呼込まうとするのであるから、其金高の大なるに應じて利率を高くすることは止むを得ないといはねばならぬ。併しながら兎も角英國が今回の戦争の爲めに巨億の金を費す結果として其金融上に至大の壓力を加へ、金利の革命を惹起したといふ事實は争ふことが出来ない。勿論四分五厘の定率が戦後何年に互て繼續せらるゝか分らない。何れ公債の相場は騰貴して低利借替を行ふ時があるだらうけれども、此公債の償還期限一九二五年になつて居るのを見れば今後十年間は少くとも此率が維持される筈である。

次に此公債の條件中の新事實は發行額に制限を置かぬことである。金を借りるに何程といふ金額を定めずして幾らでもと申出するのは前例のない事である。何故に此の如き條件を置たかといふ理由に就て大藏大臣の説明は次の通りである。四分五厘の利率は大きな金を呼込む爲めに必要といふのであるが、併し之は現在の金利から見ると少くとも二三厘高い。従て新たに此公債が出れば舊公債の相場が下るに極て居る。然るに現在市場にある舊公債の相場が一時に下るといふことは舊公債應募者に對して氣の毒であるのみならず金融界の全體から見ても大混亂の原因になるだらう。是は一國經濟上甚だ不都合の事であるから政府は此等の所有者に對して乗替應募を許すことにした。而かも此乗替希望者が幾何あるか分らぬ。是が發行總額を豫定しない所以である。併しながら此説明は要するに事實の半面を説明したものであつて、他の半面には金が何程入て來ても困らない、即ち戦争はまだ／＼長く續くといふことが認められて居るのである。又非常に大きな豫定額を定めると案外應募高が少くして人氣を沮喪せしめるかも知れぬといふ心配もあつたのではあるまいか、と疑はれるが夫は此で論ずべき限りではない。

第三に新公債の發行條件の内の新事實は小口券の發行である。即ち從來英國の公債は百磅即ち千圓を單位として居たのを今回は特に二十五磅及五磅の證書をも發行することになつた。是は如何なる理由に依るかといふに下級人民の放資に便する爲めである。戦争の爲めに金利が高くなつたから其高利の利益を大資本家にもみ與へないで細民も亦之を占めることの出来る様にするのである。社會のあらゆる階級に訴へて國難を救ふべき資金を集めやう、即ち平民的の公債を作らうといふのである。併し又他の一面に於ては戦争の爲めに下級人民の懐が露はされて浪費が多くなつては成らぬから彼等に節儉、貯蓄を奨励しやうといふことにもなる。又輸出入の平均が破れて益々輸入超過の勢が甚だしくなるから輸入品を節約せしめて正貨流出を防止しやうといふことにもなるのである。此點に就ては又後に述べるであらう。

さて此の如くにして發行された公債の應募額は何ふであつたかといふに大藏大臣の報告に依れば乗替應募を別にして英蘭銀行に於ける申込が五十七億圓、郵便局の方が一億五千萬圓で合計五十八億五千萬圓になる。併し此報告の當時郵便局の分は最後の締切をして居らぬから總額は分らない。加之傳票の賣高もまだ分らない。此等を加へたならば結局六十億に達するといふ一般の見込であつた。一度に六十億の公債募集は眞に前代未聞である。戦争前に世界史上最大の公債は普佛戦争の償金を支拂ふ爲めに佛國の募た二十億の公債であつたが、昨年来獨逸が先づ二十五億圓を募つてレコードを破り、次で英國の第一軍事公債が三十五億圓を以て其上に出で、今回は更に六十億圓の大金を集めて大的新記録を作た。『タイムス』新聞の記者は誇り顔に「今や世界は英國が金の方面に於て何を爲し得るかを見たゞらう」といつて居る。如何にも其通りといふ外はない。

併しながら國力の大きなは誇るべきことであるにしても大なる公債を發行するのは決して慶すべきことでない。吾は此莫大な公債が英國の財政上金融上如何なる影響を生ずるかを研究しなければならぬ。英國の公債は戦前に確定

公債のみで五十八億圓あつた。然るに昨年の第一軍事公債が三十五億、今回の分が六十億であるから戦争の爲めに借りた金は既に九十五億になつて居る。即ち戦前の現在額の一倍半以上が更に加へられたことになる。奈翁戦争の後に英國の公債額が八十八億に達して居たが今回は夫よりも十七億丈け超えた金を一年餘で使ひ果すのである。而かも今迄の募集額は本年九月中になくなるのだから其後更に何程を募集するか分らない。假りに十月以後に六ヶ月戦ふとしても更に六十億を要するから軍事公債總額は百五十五億になる。其上又六ヶ月延びれば二百十五億になる。二百億の利子は四分五厘として九億である。元金償却を毎年百分一として二億圓、夫に戦争に出た將士の年金や戦死者の遺族扶助料を加算したならば十二三億に達するだらう。戦後英國人の負擔は今の歳計二十億に對して一躍六割を増すことになるかねばならぬ。英國は如何なる租税を起して之に當らうとするか。其一部分は既に昨年の豫算に現はれて居る。本年九月に提出さるべき豫算にも戦時利益に對する課税案等が出るであらう。併し此等是一部分の事である。戦後の租税は必ずや大に英人を苦しめることであらう。由來戦争は頗る陽氣なものであるが戦後の經濟は慘憺たるものである。

併し今はまだ戦後の租税制度を考へるには餘りに早い。今の處では本年十月以後の戦費調達に就て考へなければならぬ。昨年来募た軍事公債の總額は九十五億であるが此金は如何にして絞り出されたか。平生英國の貯蓄は一年に凡そ三十億と稱せられて居るが之を全部投しても三分一に足らない。其他は海外放資の回收及平生以上の貯蓄に依つたのである。英國人が所有する外國の有價證券は總額四百億に達するといふから、之を回收すれば三四年の戦費は樂に支辨し得るといふ計算も立つけれども、實際外國で左程の有價證券を賣出せる餘地はないのである。假りにあるとしても此放資を棄てることは不得策の極であるから貯蓄を盛にしなければならぬといふ結論が出て来る。そこで最近には貯蓄の奨励といふことが大に行はれつゝある。政府に於ては經費節減の委員會を設けて調査を始めた。人民に對

しても節儉をして貯蓄を作れといふことを總理大臣初め演説して廻て居る。軍事公債の發行に小口券や、傳票を發行したのも亦此政策の一端である。英國人の最初の綱領は *business as usual* であつたが、是は唯平時より戦時への経過を圓滑にするだけの方針であつて、既に戦時經濟の諸機關が盛に活動して來た以上は此綱領は無用であつて而かも有害である。戦争の初には一時に節儉を始めると却て工業を不景氣にして勞働界に失業を生じる危険もあつたであらうが、軍需品の注文に依て金屬工業も纖維工業も活動し、勞働者階級は募兵の影響を受けて平時よりも以上の所得を受けて居るとすれば、最早經濟界は平時組織から戦時組織に移て來たのである。此時に當つて相變らず *business as usual* を守て居れば一方に於て巨億の富を戦塵の内に消費しながら尙ほ平生の消費をも繼續することに成るから國民の財産は戦後に至て大に減少しなければならぬ。加之食料品や嗜好品の供給を外國に仰て居る所の英國の如き國にあつては人民の家計の膨脹は直ちに外國品輸入の増加を意味し、其節約は輸入の減少を意味する。本年正月以來の如く輸入超過の盛なる時期に當て外國品の消費を制限しなかつたならば爲替相場の逆調の爲めに正貨問題に就て心配しなければならぬことになるであらう。然らずんば外債を起して正貨の流出を防がなければならぬ。而かも外債に依て正貨流出を防ぐのは一時の應急策としては頗る宜しいが好んでやるべきことではない。何故なれば外債は輸入超過の勢を止めるものでなくして却て甚だしからしめるものであるから、輸入超過が正貨の危険を呼び、正貨の危険が外債を呼び、外債が又輸入超過を呼ぶことになつて、何時までも膏藥の上張りを重ねなければならぬ事になる。故に此の如き場合の根本的療法は輸出を増進するか輸入を減退せしめるかの外はない。戦時に於ては外國輸出品の製造に従事すべき工場が軍需品の製造に忙殺されて居て輸出の増進は至難の事であるに依て、反對に輸入品の節約を計るのが當然の途である。即ち正貨問題から考へても、國民の財産を保全する上から考へても、今は極力公私經濟の節約を爲すべき時期であるといふことに成て來た。特に戰場に於ける聯合軍側の形勢不振にして一舉に敵軍を屠る見込がな

い以上は持久戦に依て敵の疲弊を待つより外はないから、英國は豊富なる財力を益々豊富にして腰を据えて戦ふといふ考になつたものであらう。要するに平時經濟にあつては澤山生産して澤山消費し、残たものを新たな資本にして行けばよいのであるが戰時經濟となつてはさうは行かない。他國の人命財産を破壊する爲めに自國の人命財産を大々に浪費するのであるから平時新資本に向けられる丈けの生産力は無論破壊的な武器の生産に用ひられねばならぬ。今回の如き大戰爭にあつては夫でも中々足りないで平時の普通の消費にまで食込んで破壊の道具を作らなければならぬ。若しさうしない時は舊來の資本に食込まなければならぬのである。

次に余は獨逸の財政に對して一瞥を加えなければならぬが、獨逸に關する余の材料は極めて不充分だから眞の一瞥に過ぎないことは遺憾ながら止むを得ない。獨逸政府が今迄に公債を募たのは二回であつた。開戦と共に政府は其戰時準備金たる正金を帝國銀行に移して、之に對して發行せしめたる兌換券一億五千萬圓を借入れたが是は固より當座の間に合せてあつた。九月九日に至て第一の軍事公債を募集した。即ち獨逸は英國の様に大藏省證券を利用しないで最初から確定公債に訴へたのである。此時に募た公債は國庫債券及帝國公債の二種であつて、一方は償還期限五ヶ年以内とし、他の一方は一九二四年十月まで、即ち十ヶ年以内とされてあつた。其他の條件は兩方共通で利率五分、發行價格九十七半、但し一九一五年九月十五日まで賣却せざるの約束を爲すものに對しては九十七・三とすることにあつた。價格九十七半として利廻りを計算すれば五分一厘二毛と平價償還に依る利益二半とを加へて凡そ五分三厘八毛程になる。獨逸の戦前の公債は四分利付であつたから此時既に財政上の一革命に會したことは英國と同様である。而して公債募集の金額は國庫債券五億圓、帝國公債二十億圓と豫定してあつたが、應募高が前者は豫定以上に達したけれども後者は十五億餘に過ぎなかつた。是は公債の發行としては失敗であるが本来一時に二十五億圓を募るといふことは未曾有の大計劃であつたのである。

部 次は第二の軍事公債募集は本年二月に至て行はれた。此時にも公債の種類は前回同様帝國公債と國庫債券との二つにして一方は一九二四年の償還、他方は一九二二年二年の償還としてあつた。其他の條件は共通で利率は五分、發行價格は九十八半、但し一九一六年四月まで賣却しない約束を爲すものには特に九十八・三と定めて、賣出を制限し價格を維持せんと企てた點は前回と同じである。唯前回の價格九十七半に比して一ポイント高くなつて居るのは明かに改善であるといふことが出来る。發行高には制限を附せなかつたが實際の應募高は兩方を通じて四十五億三千萬圓に上た。此結果は獨逸側の報導では非常の成效とせられ、英國側では發行前の見込に及ばぬものとせられて居て何れが眞實か分らない。兎も角開戦以來獨逸が凡そ七十億圓の公債を無事に募集し得たことは固い事實である。而して今尙ほ財政上絶對絶命の窮地に陥たとは思へない。英國側の一部の批評に依れば、獨逸の公債を募集する時には一方に於て例の貸出金庫の不換紙幣を發行して公債を擔保に金を貸すから、公衆は不換紙幣を借りながら公債に應ずることゝなるので、公債募集はつまり不換紙幣を發行して政府自ら使ふに外ならぬといふけれども、抑々公衆は公債の利率と貸出金庫の利率との間に利輸を儲けることの出来ない限り金を借りて公債に應ずる道理はないと余は信ずる。

此の如くにして今日までの所では獨逸は財政上決して窮迫しては居らない。併し一日の戦費二千萬圓としても七十億は三百五十日間に使ひ果してしまふ計算だから第三の軍事公債は早晚來なければならぬ。若し英國が腰を据えて更に一年も戦ふといふことになれば今の状態を持続することは出来ないかも知れぬが、又其時には不換紙幣其他の方法があるから財政上の疲弊即ち金の無い爲めに戦争を止めるといふことは決してあり得ないと信じる。最初聯合國側の觀測では獨逸の如き大工業國が外國貿易を絶たれたならば必ず商工業の沈衰を來たし、勞働者の失業を多くし、食料原料の缺乏を來たして經濟上の困難に陥り、從て金融界の窮迫を生じ、公債に應募する資金杯はなくなるだらうと考へられて居た。けれども實際はさうでなかつた。公債は、立派に募集せられ、商工業は沈衰して居らない。蓋し近世の

戰爭が消費する所の軍器彈藥の高は非常な數量に達し、被服、糧食、車輛其他の器具機械の種類は千差萬別であるから、平素輸出貿易の爲めに働居る所の各種の工業は大部分軍需品の製造に轉業せしめる事が出来る。職工は一方に於て此等の事業に吸収せらるゝと共に他の一方に兵卒として出陣するから失業などは決して起らない。是は英國の事情から推測しても分ることである。特に獨逸の如き軍國主義の國で平時から戰時動員の準備を爲して居た所では右に述ぶる如き職業の轉換は比較的圓滑に行はるべき道理である。昨秋『エコノミスト』に現はれた獨逸側の通信の一に下の如き記事があつた。曰く獨逸に於ては注意周到なる仕組に依て新しき健全なる産業組織は農業の基礎の上に建設せらるゝであらう。贅澤品の生産又は直接戰爭の爲めに必要ならざる仕事に従事しつゝあつた所の勞力は軍需品及國民的存立に必要な缺くべからざるものゝ生産に仕向けらるであらうと。余は此言が誇張でなくして正直なる事實の説明であつたらうと信ずる。前章に述べた所の食料自給策の組織的なる所から推測して軍需品の供給に關しても同じく組織的な仕組が實行されたと思はなければならぬ。かくの如くにして商工業沈滞せず、勞働者も失業せぬとすれば、金は循環して幾度でも公債の應募資金となることは出来る筈ではないか。さすれば外國貿易の杜絶に依て經濟上の疲弊を來たすが爲めに一國が戰爭を中止するの止むなきに至るといふことは決してない。却て外國貿易を有して居る國が英國の如く輸入超過とか、下層階級の贅澤とかの問題を生じるのである。獨逸は初めから舉國一致の儉約をして黒パンを食て居る。否、さうしななければならぬ状態に餘儀なくせられて居る。

以上は戰爭を始めた國が經濟上の疲弊の爲めに戰爭を中止する必要のないといふ理由である。苟も國民が擧て戰爭の止むを得ざることを確信して居る限り、又努力さへすれば自分等に勝利の歸することを確信して居る限り、決して經濟財政の爲めに降參する必要は生じて來ない。併しながら是は戰爭中の關係であつて戦後の事を樂觀せしむるものではない。獨逸帝國の戦前の公債現在高は各國に比して遙かに少く、一九一三年十月の調査には確定公債僅かに二十

四億圓とある。而かも獨逸の財政は決して餘裕のある財政ではなかつた。財源に乏しくあつたのである。然らば今之に加ふるに七十億、百億、又は百五十億を以てしたならば夫丈けでも非常に困難になるだらう。加之戦時に於て經濟組織の瓦解しない理由が平時經濟を一轉して戦時經濟の仕組に改めたことであるとすれば、戦後に於ては更に之を平時經濟の仕組に戻さなければならぬ。而かも戦時より平時への轉換は平時より戦時への轉換に比して更に頗る困難なることは明かである。世界に横行して居た所の一大商船艦隊を失ひ、到る處に手を延ばして居た所の貿易上の關係を破壊された後に再び其等の機關を恢復して、而して内國の産業を對外關係に適應すべく復舊するといふことは決して容易なことではない。獨逸では昨今陸戰の形勢全勝の有様なるを以て戰捷は必然に來り、外國からの償金も得らるゝといふ信念が鼓吹せられて居るけれども、公平に考へれば是は勿論非常な疑問である。獨逸の經濟力の復舊は到底一朝一夕には出來ぬであらう。此點から考へると獨逸の將來は到底樂觀を容るべきでない。

第九章 日本に於ける反響

最後に余は歐洲の大亂が日本の經濟界に如何なる影響を及ぼしたかといふ問題を解かうと思ふが、日本の事情は一般によく知られて居るのみならず事實の報導に就ては普通の新聞雜誌に依て無限の材料を得られるのであるから、余は個々の事實に關する細き説明を省略して事實と事實との關係を明かにする事を主眼とする考である。

開戦以來歐米諸國に於て起た經濟上の變動を大觀するに時局進行の段取には自ら二の時期のあつたことが知り得られる。即ち一は開戦當時に生じた金融上及商業上の恐慌であつて、是は一二ヶ月乃至三四ヶ月で鎮靜に歸して居る。其から次の時期は平時經濟の組織が戦時經濟の組織に改まつた爲めに起て來る所の變體の現象であつて、是は財政、

金融、貿易、商工業、勞働の各方面に深くして且廣き動搖を惹起して居る。此二の時期の區別は英國、獨逸の如き戰亂の中心となつた國々に現はれて居る如く、又米國、日本の如き戰亂に遠ざかつた國々にも指摘することが出来る。日本は聯合諸國の側に立て戰爭に参加したから法律上直接の交戰國であるに相違ないけれども、日本の軍事的活動の範圍は青島の攻略と太平洋航路の保護に限られて居た故に、經濟界が戰爭の爲めに直接打撃を受けた所の程度は比較的最も輕微なものであつて財政上の影響も亦他の交戰國に比していふに足らないことは論を待たぬ所である。日本の經濟界の變動は交戰國の状態よりは寧ろ中立國の状態に近いといふことが出来る。即ち直接戰爭の影響を被むつたよりも寧ろ戰爭に依て歐洲諸國に生じた所の經濟的變動に對して日本にも反動を惹起したといふのが適當である。而かも其反動は他の中立諸國に比しても輕いものであつたのである。

開戰當時の恐慌時代にあつて日本は世界中打撃を被むることの最も輕かつた國だといふことが出来る。壘塞關係の切迫してから株式市場のパニックが歐洲の中原から四方に波及して、各國の取引所が一週間立たぬ内に將棊倒しの如く閉鎖されてしまつた事は本書の初に記した通りであるが、日本に於ては左様の事はなかつた。ニューヨークの取引所は開戰前に閉鎖されたまゝ十二月十二日まで再び開始することはなかつたが、東京では僅か半日の休業で事が済んだのである。今當時の新聞を見るに日本では七月二十八日壘塞開戰の報を傳へてから人氣頓かに弱變し、各國金取引上を聞て益々相場を下落せしめた。夫から八月三日の月曜日には愈々獨逸開戰と聞て投資續出し、市場總崩れとなり、東株は午前中に十圓の暴落を爲し、五分利公債さへ二三圓安を唱へた。そこで追證據金納入の困難が原因となつて取引所は市場整理の名の下に後場を休むことになつた。併し四日には既に恢復の端緒を開いて其後大恐慌を再びすることとはなかつた。東株の大引値段は戰前七月二十五日が百二十六圓二十五錢であつて、八月三日の底値が百四圓五十錢

であるが、八月十日には既に百二十圓まで引戻して居る。爾來歐洲戦局の一勝一敗は日本の政界の變化又は對支交渉の形勢と共に相場高低の材料になつて居るけれども其影響は寧ろ微弱である。

次に金利は如何といふに、是に就ては銀行界の最高指導者の胸中にこそ苦心慘憺の劃策が回らされたであらうけれども、表面に現はれた所から見れば頗る平穩無事であつた。日本銀行は毫も其公定日歩を動かさず、市中銀行の商業手形割引歩合も殆ど變動して居らない。若し此大事件の突發が數年前であつて日本の財政經濟共に外資輸入に依頼しなければならぬ時に起つたとしたらば金利にも株式にも忽ち激烈な打撃を受けたことは容易に想像されるのであるが、併し我國は既に財政方針を變じて非外債主義に移て居たからして、かくの如く歐洲の恐慌の反動を惹起す程度が輕かつたのである。概して歐米各國の間には金融市場の共通といふ事實があるけれども、日本の金融界は平時から孤立して居り、外資輸入や内資輸出が特殊例外の現象になつて居るから今回の如き場合に影響の微弱なるは當然である。

此の如く金融界の打撃は輕微であつたが商品市場の形勢に至ては同様といふことは出来ない。金融組織即ち神經の感應は微弱であつても血液循環の系統には大なる狂ひを生じた。日本は資金の輸出入を常態とする程に國際經濟關係の發達を來たして居らぬけれども、少くとも商品の輸出入に就ては既に世界經濟組織の一要素となつて居るのである。然らば其商品市場には如何なる變動を生じたかといふに、是は勿論外國貿易杜絶の影響並に杜絶すべしといふ恐怖の影響である。日本から歐米への航路は危險となり、近海も亦全く安全とはいへない。保険料は暴騰して居る。外國爲替もロンドン市場の影響を受けて少くとも一時は不通になつた。さすれば輸入品は當分來ない。輸出品も當分賣れぬといふ考から、一方は騰貴し、他の一方は下落するのである。併し是も斷然賣れるとか賣れぬとかの確信を生ずる程に見込を立てることが出来ないから騰落共に亂調に陥て取引が頗る六かしくなつた。暴騰暴落の甚だしきものゝ

内で、染料、藥品等は輸入元たる獨逸の貿易杜絶したといふので暴騰し、金物、石油、硝子の如きは單に歐洲よりの輸入品といふので暴騰し、砂糖は甜菜糖國の戰亂の爲めに甘蔗糖の原産地にも影響を來たして暴騰となり、紙類は輸入困難の爲めに騰貴して居ながら助原料たる藥品拂底の爲めに日本の製紙業者が生産制限の止むなきに至り、マツチは輸出不振の故に一時は下落したが又其原料藥品拂底の爲めに騰貴の勢を爲した。夫から輸出品の内では生絲、綿絲、茶、麻眞田、魚油等が一齊に暴落した。銅の如きは後に至て軍需品の要求の爲めに奔騰したに拘らず一時は輸出品たる關係に依て下落して居た。織物は内地向でも一般の不景氣を構へて下落した。かくの如くにして八月中は輸出入品共に匆忙亂雜の内に經過したが歐洲の實狀次第に明かになり、貿易機關の運行も亦漸く恢復せらるゝにつれて商品市場も亦鎮靜に歸し九月中旬までには不景氣ながら亂調を脱するに至た。

今此に右の諸品の市況を一々述べ立てるのは無用と信ずるが、其内で我國の重要商品であり國民經濟上に重大の關係を有する所の生絲及綿絲の二品に就て少し詳しい所を話して見るならば、生絲は昨年春以來好況で七月下旬に千圓近くの高値を維持して居たのが八月上旬になつて僅か二三日の内に二百三四十圓安の七百六七十圓といふ相場を示し、明治三十三年來の底値に落込んだ。横濱の取引所は八月一日後場から取引を中止し、四日に再び開場したけれども暴落の爲めに又々休業となつて八月十五日まで開かなかつた。其後相場の亂調は治まつたけれども下落の大勢は止め難く十月以後に至て或は七百圓以下賣止めの決議となり、或は蠶絲救濟の實施となつたのである。次に綿絲は何ふかといふに是亦七月末から歐米の棉花相場の影響を受けて下落し初め、百二十圓以上の相場が百十四圓に落ち込んで大阪の取引所は八月三日から八日までの一週間立會中止を繼續して居た。

そこで此の如き商品市場の亂調が何から起たかといへば其一原因は單なる人心の恐怖であるが、其恐怖の根底には確かに貿易の障害となるべき事實が存在して居たのであるから、此障害に對して又事實上の救濟策を講じなければな

らない。然らば何を以て救済するかといふに是に就ては八月十日に開かれた所の全國蠶絲業者の大會の決議に依て政府へ請願に及んだ所の事項がある。其事項といふのは第一が金融の救済である。即ち輸出品の生産者乃至取引商人が荷物停滞の爲めに金融に窮して居るから之に資金を貸付けて救済せよといふのである。次に爲替の救済で、つまりロンドン市場の影響を受けて停止して居る所の爲替機關に資金を與へて貿易上の支拂の道を開けといふのである。夫から第三は海上保険の救済である。是は蠶絲業者から申出された事であるけれども輸出貿易全體の難局を説明するものと見ることが出来る。勿論貿易不振の原因としては此他に尙ほ需要の減退といふ根本的大原因があるけれども、是は政府の政策を以て如何ともすることが出来ないから救済策としては此等の貿易機關の調節を第一の急務とせねばならぬ。我政府の處置も亦此方針の外に出でなかつたのである。

保険の救済としては政府は九月四日開會の臨時議會へ日獨戰爭の豫算案と共に海上保険補償法なるものを提出して之を九月十二日から實施した。此案は英國のと異て保険を政府が官營する代りに、普通の保險會社の引受けた危險に就き實際損害の生じた場合に會社へ政府から八割の補償金を與へるといふ仕組である。而して會社が此補償を受くる爲めには政府の指定した航路に付き政府の定めた保険料率以下の保険料を以て契約することを條件とすることに定めであるから、其結果から見れば官營と同じく保険料の暴騰を抑ふる結果あることは勿論である。我國が官營案を取らずして補償案を用ひた理由に就ては當時専門家の意見が新聞紙上に出て居つた所である。

次に金融及爲替の救済に就ては大藏省が九月十五日「時局に對する經濟界救済の概要」として發表した所の記事がよく説明して居ると思ふ。政府は戰亂突發の當時正金銀行及日本銀行と協力して爲替資金の涸渇を防ぐに盡力し、ロンドン向爲替に關しては八月十五日頃よりロンドンの銀行及引受業者の信用狀に對して爲替手形を買取ることゝ爲し、米國向手形に就ても同様の方法を講じた。支那向爲替はロンドン銀塊取引の一時停止された爲めに爲替相場も立

たなくなつたが其時に於て尙銀爲替を通ずるの便法を設け、八月十日銀塊取引の恢復と共に愈々平常の如き取引を實施するに至た。其他印度、南洋、濠洲向爲替に就ても夫々相當の方法を以て送金の閉塞を防だ。當時東洋にある外國爲替銀行が殆ど營業中止の状態にあつた時に正金銀行のみ特に其便宜を開たのは政府の後援のあつた爲めであらねばならぬ。

又金融の救濟としては政府は正金銀行をして横濱に停滯した所の生絲、屑物、羽二重に對して利率及擔保價格共有利なる條件の下に貸付を爲さしめ、其他麻眞田、綿絲、マッチ等に關しても同様の處置を取らしめた。夫から内地の商工業中時局の影響を受けた所の蠶絲を初めとして羽二重、銅其他の營業者に對し普通以上に融通の便を得せしむるが爲めに日本銀行より各地方の銀行に對して充分の信用を與へ、出來得るだけ寛大なる貸出方針を取らしめた。而して地方の諸工業中營業の規模小なるが爲めに普通の銀行と取引を爲し難きものに對しては預金部の公債八百萬圓を賣て勸業債券五百萬圓及興業債券三百萬圓の發行に應じ、かくて此兩銀行をして、救濟の局に當らしめ、尙ほ其實行には農工銀行及産業組合の協力を要することゝした。此資金は一二年前に實行した所の低利資金貸付と同じく各府縣に相當金額を振當てたものであるが、其目的は特定重要輸出品に對し現在の營業を維持するに必要なだけの金融を與ふるを主眼となし、新たに生産を増加するものに對しては貸出を爲さぬことに成て居た（其詳細は當時大藏次官から各地方長官へ通告した書面に依て知ることが出来る）。要するに此産業救濟の爲めにする日本銀行其他の活動は前に述べた所の獨逸の金融政策を極めて小規模に行たものと見ることが出来ると思はれる。

以上の諸政策は戰爭開始の爲めに生ぜんとした貿易機關の解體を救ひ、商工業をパニックの中から救ひ出すことを目的としたものであつて、其効果が何程のものであつたといふことを此に具體的に説明するのは困難であるが、兎も角商品市場の亂調は一二月間に鎮まつたのである。併し當時政府の實行した政策は此等現狀維持を目的とするのみ

に止らずして更に積極的の方面にも互て居た。其積極策の第一は英國にもあつた様な海外販路奪取の運動であつて、此目的の爲めに政府は支那、南洋、米國等へ特に視察員を派遣して從來歐洲諸國から輸入された商品が何々であつたか、又其内で日本から供給し得るものが何々であるかを調査せしめ、其結果を普ねく營業者に報告して参考に供することとなり、營業者中にも此機會を利用して販路擴張を計劃するものが少くなかつた。併し前にもいふ通り今回の世界的大亂は世界中の不景氣を來たして居るから假りに此運動が成效したにしても急に輸出の激増を來たすことは出來ないのであつて、販路奪取の效果は寧ろ戦後の景氣回復時代に現はるべきものと思はれる。而かも戦時に奪取した販路が長く戦後にまで維持せらるゝや否やは結局日本の生産費が競争國の夫よりも安いか否かに依て決せらるゝのである。夫から積極策の第二としては昨年九月中所謂國產獎勵會なるものが政府保護の下に成立して日本人に内國品の使用を獎勵するの運動を惹起した。即ち内國に於ける外國品の販路奪取運動である。外國品の輸入が困難になつて輸入品の市價が騰貴したといふ事實は既に内國の同種事業に至大の刺戟を與へる所の原動力であるから、此際更に消費者を教育して内國品の劣等ならざることを知らしめんと企てたものであらう。國產獎勵會の趣意書には「輸入品の新奇精巧なるを悦びて争て之を用ひ、遂に内國品は外國品に及ばずとの感想を生じ、商品を稱揚するに舶來上等の語を以てし、歐文の標識なき物品は世人の注意を引くに足らざるに至らしめたり」云々とあつて明かに外國崇拜の舊夢を打破せんとするの精神に出たものと思はれる。是は果して政府が補助金を下付して爲さしむべき筋のものであるか否かは扱措き、頗る時弊に適した着眼といはざるを得ない。併しながら此場合にも内國品が外國品の販路を奪て長く之を維持するには内國品が外國品よりも安くして善いといふことを條件とするのであつて、猥りに國民の愛國心に訴へた處が效果のあるものでなく、又假りに效果を生じたとしても戦後外國競争品の自由に入り來る時に至て生産者に非常の苦痛を與へなければならぬのは明かである。世間には此際高くても内國品を用ふるが國產獎勵なりと誤信して小學

校の生徒に粗悪な和製鉛筆の使用を命じた杯といふ話もあるが、此の如きは勿論話にならぬ滑稽と評するの外はない。要するに海外販路奪取にしても、又内國販路奪取にしても、内國の生産夫自身が眞に發達して居るのでなければ確實の利益を收むることは出来ない。今の工業は大資本を投じなければ出来ないのが普通の例であるから、戰爭中一二年間に如何なる利益を得るの機會ありとしても、戦後に外國品と競争の出来ない様な事業は到底起し得るものではない。從來獨逸の專賣品であつた所の醫藥及染料其他の化學製造品に就ては特に政府が保護金を下して獎勵を爲さうと企てゝ居るので、是は或程度まで成效すべき筈であるが、併し化學工業の如き特別の智識經驗を要する所の事業を金の力で一朝一夕に發達せしめやういふことは勿論不可能の事であるから、是は形式如何に拘はらず事實は營利會社よりも寧ろ一個の試驗所として取扱ふのが相當だらうと信するのである。

歐州大亂の反動が日本の輸出入市場に至大の反動を生じ、之に對して種々の救濟法が講ぜられたことは右に述ぶる通りであるが、如何なる救濟法も此打撃の全部を抹殺する程の力の有らう筈はないから打撃は矢張り打撃に相違ない。そこで其打撃の程度、方面、並に打撃と目すべからざる他の反動的現象を事實に就て研究して見なければならぬ。今之を數字に徴するに大正三年上半季貿易は先年來の輸入超過の大勢を挽回して輸出は前年に比し一割増、輸入は五分四厘減であつたが、八月は輸出二割二分六厘減、輸入二割六分減となり、九月は輸出二割五分減、輸入三割八分減となり、十月は輸入三割減、輸出四割八分減となり、八月より十二月までの合計に於ては輸出二割四分五厘減、輸入三割七分六厘減といふ大打撃を受けて居る。併し本年に入てからは世界的動亂鎮靜の餘響を受けて形勢一變し、一月より五月までの合計は輸出の減額僅かに八分に止り、輸入も二割三分減となつた。かくて開戦後一ケ年即ち大正三年八月より四年七月までの貿易總額を通觀すると、輸出は五億八千萬圓で前年に比し一割二分の減額を示し、輸入は四億九千萬圓で二割八分の減額を示して居る。而して更に其内容を見るに、輸出品の大宗たる生絲の輸出額は

一億二千萬圓にして前年に對して七千三百萬圓即ち三割六分の激減を來たし、其他屑物は六割六分(六百萬圓)、綿絲は二割三分(千八百萬圓)の減退を來たして居る。戰時に於ける世界的需要減退の徵候歴々として見るべきではな
 部 いか。併し此の如く重要輸出品の減少せるに拘らず輸出貿易の總額に於て減少率の比較的に高くないのは他の物品に
 二 輸出額の増加した爲めである。そこで其増加した種類のものは何であるか。所謂販路奪取運動の效果と看做すべきも
 第 のがあるかといふに、印度、濠洲方面の輸出増加は即ち其結論を確むべき材料であるが、實際輸出の大に増加したの
 は此方面にあらずして英國乃至露國向である。つまり軍需品の大需要に應じた結果である。而して今後輸出激増の豫
 想を爲さしむるものも亦此軍需品の注文に外ならぬ。戰爭の爲めに通常の需要が減退して軍需品の需要が大に起て來
 たことは英國其他交戰國の經濟界にも意外の變局を示して居るが、其餘力日本に及で日本から兵器、軍服地、莫大
 小、靴、糧食用罐詰等を歐州へ輸出するに至たのは頗る奇觀とすべきである。

輸出入の權衡に就ていへば、大正三年は戰爭がなくとも外債政策放棄の結果で從來の輸入超過が一転して輸出超過
 となるべき傾向を有して居たが、戰爭は益々其傾向を顯著ならしめたものである。英佛等は右の如く軍需品の關係で
 輸入は盛にするが輸出を平生の如くに出ることが出来ない故に日本から見れば夫丈でも輸出超過となるべき原因は充
 分である。而かも戰爭の結果歐洲諸國の通貨は膨脹して物價は騰貴すべきこと明白である以上は今後も戰時及戰後に
 互て日本の貿易は輸出超過を繼續するに相違ない。是は多額の外債を有する所の日本としては最も好都合のことであ
 つて、是のみは歐洲戰亂の齎した意外の獲物と稱すべきである。

此の如く大亂の日本に與へた影響は金融の方面から來らずして主とし貿易の方面から來たのであるが、開戰當時の
 恐慌時代を別にして其後の形勢を見れば、金融の方面にも亦重大の反動を惹起して居る。唯其反動は急激ならずして
 極めて緩漫な特色を有して居る點が他の國々と異て居るのである。昨年來の日本金融界の變調は金利の低落に拘らず

有價證券特に株式の相場の振はぬことである。歐洲の金利が頻りに騰貴して英國政府が四分五厘の公債を募るといふ情況に成て來た間に、日本の金融界は遊金の多きに苦んで預金利子を再三引下げて最近四分を唱ふるに至た。併し金利が下ても株式は相變らず沈靜の商況を續けて更に新會社の勃興を見ない。而して其の新事業の起らぬといふことが益々金利の低落を維持して居るが、其原因は何れにあるかといへば恐らく戰亂の爲めに前途の景氣を見越すことが困難になつて、従て新事業の計劃を立て得ないといふに歸するであらう。其證據には日本銀行の調査に依て新事業計劃の統計を見るに、新設及擴張を合せて大正元年は五億三千萬圓、二年は三億六千萬圓、而して三年は一月から七月までの合計約二億に達して居るに拘らず、八月以後の分が僅か五千萬圓に止まつたから總計に於ては前年よりも一億圓以上の減額となつてしまつた。又本年に入つてからも一月から三月までの第一期分四千萬圓で前年同期の半分にも及ばないと概ない。四月から六月までの第二期分は社債發行の多かつた影響を受けて八千八百萬圓に達して居るが之を以て企恢復の端緒に就たとは思へない。

最後に余は今回の大戦が我國の財政に及ぼした影響を一瞥しなければならぬ。日本の經濟界即ち貿易、金融、企業の方面に生じた影響は戰亂其者の直接の影響でなくして寧ろ戰亂が歐洲經濟界に與へた影響の影響即ち反動であつたが財政上には少くとも直接の影響がある。大藏省の公表した所に依れば關稅收入が昨年八月から本年七月までの累計三千四百萬圓に過ぎずして前年同期の六千五百萬圓に比し半分に當るといふ事實は取りも直さず間接の影響であるが、日本の歲計五億六千萬圓に對して三千萬圓の減收はまだ左程患ふるに足らない。獨り日本が交戰國の一となつた爲めに數年苦心の結果たる國庫剩餘金の大部分を消耗し去たことは財政上の一大打撃といはざるを得ない。一二年來財政整理に依て剩し得た所の歲入超過額は其一部を曩に所得稅其他の減稅に振向けたる後に尙ほ一億六千萬圓の剩餘金を存せしめたので、此剩餘金は租稅納期の繰上げ及流用されたる諸基金の補充に用ひらるゝ管であつたが、其等の

計劃は戦争参加と共に全く晝餅に歸してしまつた。我國今回の戦費豫算は前後二回の特別議會に提出されたもの業界任支出に依るものとを合せて一億百萬圓に達し、其大部分を剩餘金の繰入に依て支辨したことは大藏省の公表した所である。唯此大戦の飛沫を受くること比較的軽くして新税又は公債を起すことなしに時局を處理し得たのを以て自ら慰むるより外はない。併し剩餘金の消耗はまだ之を取戻す時機もあるだらう。青島攻略の爲めに命を捨てた四百十四の陸軍戦死者と其外に數ふべき海軍戦死者の英魂は長へに還ることが出来ないのである。

(大正四年十一月二十一日、東京神田 合資會社富山房より發行)

獨逸の戰時經濟に就て福田博士に答ふ

—

雜誌『太陽』の一月號に舊師福田徳三先生は「獨逸の經濟狀態妄りに談じ難し」といふ一文を寄せて余の近著『戰時經濟講話』の批評を爲されて居る。余の書物は其標題の示す如く通俗平易を旨として開戦後約一ヶ年間に英獨に起きた大事件の概要を物語らんと試みたものであるが、之に對して尊敬する所の先輩から精細な批評を受けたのは殊更感謝に堪へない所である。但し此批評に對する答を直ちに認めて發表することは如何かと思つて居たが『新日本』の長谷川君からは非書けと勧められたまゝに兎に角執筆することにした。余の本意は主として拙著に記述した事實の誤謬を此機會に於て正して置きたいのであつて決して福田博士に逆捻ぢを食はせるつもりではないから此一事は吳々も讀者の諒察を請はねばならぬ。

さて福田博士の拙著に對する總評は大要次の通りであると思ふ。曰く上田の著書は先づ以て要領を得ては居るが其材料を悉く英國側から採て居て獨逸の材料を少しも顧みないのが宜しくない。獨逸の經濟狀態を論ずるのに獨逸の材料を無視したのは不都合である。又かくして英國の材料のみを頼りにした爲めに記述論斷共に大ザツパイな不精確なものに成つてしまつたとかういふ意味に承つたのである。是は如何にも御尤もの御叱りであると思つて恐縮するけれど

も、實は余と雖も獨逸の材料を故意に用ひなかつた次第ではなくして、之を手許に集めることが出来なかつたのである。拙著出版は印刷の都合で遅くなつたけれども脱稿は序文の日附の通り九月初旬にしたのだから其邊は幾分か許して貰はなければならぬ。今日では余も不充分ながら獨逸の材料を得たから前の記述の不精確又は誤謬を直すことも出来るのである。

二

先づ獨逸の金融の事實に就て述べやう。余は著書の四十三頁に於て一九一五年八月（即ち余の起稿の時）に於ける獨逸の通貨流通高は戦前に比して三十億圓の増加に當るだらうといふ推測を述べて置いたが之は甚だ大ザツパイな話だといふので色々細い數字を擧げて攻撃せられた。此三十億の増加といふたのは實は餘り粗大な宛て推量であつたかも知れないが併し全くの空想ではないので、宛て推量丈の算盤は取てあつたことを申さなければならぬ。即ち四十四頁の初めに書た通り「帝國銀行券が戦前九億圓許りのものが近時二十五億圓を示し、貸付金庫及帝國金庫證券は合せて七億餘萬圓に上つて居る」から此二口で戦前より増加したること既に二十三億になる。之に補助貨の増額少くとも一億五千萬圓、帝國銀行の當座預金増額凡そ七億圓と見て合計三十一億五千萬圓になる（補助貨及當座預金のことには四十三頁に出してある）。是は昨年八月に於ける余の宛推量であつたが昨今眞實の材料の到着した所で見ると確かに誤算がある。帝國銀行券發行高二十五億圓と見たのは稍過小であつた。『コンラッド年報』に據れば七月十五日に五十四億圓、七月三十一日五十五億圓であるから現在高二十七億圓即ち増加十八億圓と計算すべきである。次に帝國銀行當座預金は増加額七億圓と見込んだが實は一九一四年七月二十三日の四億七千萬圓に對して本年七月三十一日八億圓だから差額三億三千萬圓となる。次に貸付金庫證券は『コンラッド年報』で見ても一九一五年四月中發行高十五

億圓に達し六月末に十二億圓を示して居る（八月分は未だ分らぬ）から余が英國の雜誌から取た所の七億餘萬圓といふ數字は正しかつたのである。但し此十二億乃至十五億圓の中の四億乃至七億は帝國銀行の準備金として積まれてあるから實際の流通高は七億乃至六億五千萬圓となる。即ち三億五千萬圓見當に計算すべきであつた。そこで此三口を合計すれば増加額二十四億八千萬圓となる。即ち餘の宛て推量「三十億圓の増加」は凡そ六億の過大となつたので誠に申譯のないことである。

右の貸付金庫證券に就ては福田博士の記された内にも誤りがあるから一寸注意の爲めに書き添えて置きたい。博士は貸付金庫證券の高は「上田君に依れば七億餘萬圓であるが實際は本年六月三十日現在流通總額七億六百萬圓。克である（ダーレーエンスベストスタンド即ち發行し得る額は十二億五千九百萬圓であるが其全額の證券を發行して居ると思ふは誤である）云々」と述べられた（『太陽』一月號七六頁）。是は『コンラッド年報』の表を誤讀されたことと思ふ。貸付金庫證券の發行高は前にいふ通り余の推量に大過ないのであるが其中の一部が帝國銀行の庫中に藏めてあるから差引純流通高が七億圓許りになるのである。而して六月末の表に現はれた十二億五千九百萬圓といふのは帝國銀行にあるものと純流通高とを合せた總發行高である。之を「ダーレーエンスベストスタンド即ち發行し得べき額」と見られたのは宜しくない。貸付金庫證券の發行制限は最初に十五億圓即ち七億五千萬圓であつたのを十一月十一日に三十億圓即ち十五億圓に改めたことは拙著四〇頁に書いた通りである。抑も發行制限を定めるのに何億何千何百萬圓といふ様な細い數字を用ふるといふことは如何に精密な頭でもやらぬだらうと思はれる。

三

次は獨逸の金融政策の可否の判斷であるが、余は獨逸政府のモラトリアムを用ひなかつたことを無條件成效と思は

ないのに反して福田先生は成效と認められる様である。併し是は御説の通り戦後を待たなければ十分の判断が出来ないから何とも議論の仕様が無い。唯獨逸から来る報告には中央銀行の正貨準備の増加を盛に書き立てゝあつて、而かも是があるが故に戦後に至れば兌換恢復は確かに出来ると思はせる様に見えるから、余はその様に思はぬといつたのである。如何に銀行券發行高と正貨準備との割合が善くても全體の通貨流通高が激増して居れば物價騰貴を惹起す故に商品の輸入超過となり正貨の流出となつて来るから正貨準備の増加は必ずしも頼むに足りぬといふ論を立てたのである。大ザツパイには相違ないが此種の推量には大ザツパイも亦止むを得ないかと思ふ。夫れが不可とあれば全く推量を試みない丈けのことだが、さうすると物足りなくなる。

又余は佛獨露が正金準備を澤山有つて居ながら兌換を止めた意味が分らないといふたが、福田博士は其意味が分り過ぎる程分つて居るといはれた。佛獨が正貨準備を有つて居ながら兌換停止を行つたのは餘程考へた結果であつて、之は確かに破格にして巧妙な政策である。其深い考への分らないのは迂濶だといはれた。或はさうかも知れないが是は博士の説明をモット詳しく承つて見ない内は俄かに降参し兼ねる。

四

次は食料問題に就てある。福田博士は「上田君のに至つては極めて大ザツパイで」云々といはれたが、實際博士の指摘された所の事實の誤り又は不精確とは何んな事柄であつたかといふと次の通りである。

第一に最高價格法に就て上田は此法律が十月中に發布されたといふが之は誤りである。法律は八月四日即ち開戦後直ちに發布せられて居る。「僅かに二ヶ月といふ勿れ其時期は重大な問題で獨逸の經濟政策が即時に戦時動員せられたことを知るのは極めて緊要である。上田君は十月二十八日に其に關する告示の公布せられたのを『エコノミスト』

あたりで不精確に記述したのを其儘取て漠然十月中とせられたものであらうか。學者的精確を得たものでない」といはれた(『太陽』一月號八〇頁)。此事に就ては余の記述にも不精確があり、博士にも看逃がされた重要な點がある。

最高價格法は八月四日に發布された。併し其内容は第一條「戰爭の繼續する間日用品特に食糧品及動物の飼料並に燈火用品發熱用品に就き最高價格を定むることを得、」第三條「州政府(Landeszentralbehörden)は此法律の實施に關する規則を發布す」といふのであつて中央政府が全國に向て最高價格を定めた次第ではない。又州政府は最高價格を定める所の權限を與へられたけれども總ての州が皆之を實行したのではない。矢張り余の著書に記した通りウエストフリア州では直ちに之を行つたけれども其他は行はなかつた。

然るに十月二十八日に告示が出た。其告示の一は八月四日の法律の一部を改正して最高價格はブندースラートが定めることにした。之と同時に尙一つの告示は其實行方法として全國中幾つかの「主要商業地」に於けるライ麥小麥及大麥の最高卸賣價格を定め、而して所謂「主要商業地」以外の地では其地に最も近い「主要商業地」の最高價格に従ふことと定められた。つまり全國を幾つかの區域に分けて各區域に付各別々の最高價格を定めて之を強制したのである。されば最高價格を政府が定め得るといふ原則は八月四日の法律で定められたが、之を全國に互て組織的に實行したのは十月二十八日の告示である。而して此告示は十一月四日から實施されたのである。十月二十八日の告示は形式上唯一の告示に相違ないけれども實質上は八月四日の法律以上に重いものである。是こそ「唯一つの告示といふ勿れ」である。

次は「戰時穀物會社」に就てである。福田博士の曰はるゝに「上田君は(一)會社は本年一月中設立せられたといふが其れは誤りである。此會社は既に昨年十一月に設立せられた。(二)會社が專賣を初めたのは一月ではない二月一日からである。(三)總ての穀物專賣ではない小麥とライ麥の專賣である」。そこで此三點の内(一)は余の材料を

取た英國の通信が間違て居た。(三)は余の著書に總ての穀物の專賣など、記した覺がない。余は終始パンに用ひらるる穀物の積りで書て居るのである。(二)に至ては余自ら明瞭に二月一日から專賣を實行したと書て居る(一二四頁)。

五

二月一日から實行された所の專賣の計劃に就ては尙ほ重要な點を余の著書に取遺してあつた。是は右書脱稿の後に獨逸の材料に依つて知り得た所だから茲に補つて置かうと思ふ。

一月二十五日の告示に依ると二月一日以後小麥とライ麥とは「戰時穀物會社」の爲めに徵發せられ、小麥粉、ライ麥粉、燕麥粉大麥粉は「市町村組合」の爲めに徵發せらるべきものである。而して此徵發せられた穀物穀粉を如何に分配するかといふに政府部内に「帝國分配局」(Reichsverteilungsstelle)といふものを置いて各地方へ分配の方針を定める。夫れから穀物會社が其方針通りに穀物を「市町村組合」に引渡す。而して市町村組合は更に其部内の分配を掌る。夫れだから大ザツパにいふと穀物會社が買集めの機關となり、「帝國分配局」及「市町村組合」が分配機關となるのである。

然るに右の仕組は一九一四年度の收穫の消費方法に就て定めたものであるから、一九一五年度の收穫に就ては何うしたかといふに是が即ち福田博士の擧げられた「帝國穀物局」(Reichsgetreidestelle)となつて出て來た。其組織は行政部と營業部とを分けて前者は分配の方針を定むること舊の「分配局」の如く、後者は實際の賣買を掌ること舊の穀物會社の如くである。特に此營業部は矢張り一の會社にしてあるから舊の會社を其まゝ繼承したものであらうと思はれる。而して「市町村組合」は前年同様に存在して居つて其組合の管内に出來た穀物は直ちに組合の爲めに徵發せられることゝなつた。夫から穀物の種類に就ても今度はライ麥、小麥、スペルツェ、エンメル、アインコロンを含むこ

とになつた。つまりパンになるものは皆徴發する趣意である。かくの如くにして「市町村組合」は管内の徴發を行ひ、行政部は徴發されたものの地方間の分配方針を定め、營業部は之を實行し、而して各「市町村組合」は管内の分配事務を掌ることゝなつた。此仕組は大體に於て前年のと大差はないけれども一層組織が完成した様に思はるゝのである。(大正五年一月十二日記す)

英國戦後の經濟政策

一

開戦後茲に二個年、未だ平和の曙光だに見る能はざる歐洲戦争は、改めて云ふ迄も無く世界未曾有の大事件で、随つて此大戦の及ぼす影響は單に交戦各國の領土境界の變更とか或は商業貿易の勢力の消長とか、所謂表面に顯れた現象の變化にのみ止らずして、更に進んで人心の根底に或種の動搖を與へ、或は社會組織の根本迄も動かさねば止まぬ様に思はれる。されば勿論各國の經濟政策の如きも、昨の政策は今の政策たらざる可く、其間多大の異同あるべきは推測に難からず。唯問題は戦後如何なる變化を現出す可きか、換言すれば各國の經濟政策は戦後如何なる傾向の下に支配せらる可きかと云ふ事である。

然れども此の如き大戦終結後の事を豫想することは極めて廣汎なる智識と經驗と、極めて明晰なる頭腦と判斷力を要するを前提とすべきを以て、容易に云爲すること能はざるも、吾人の觀察を以てすれば一言にして盡せば、戦後に於ける各國經濟政策の將來は、著しく社會主義的傾向を助長するでは無いかと思はれる。勿論今日或一部の識者階級の間には、戦後に於て軍國主義は倍々其勢を得、所謂軍國主義萬能の時代となるべしと論ずる者無きに非ず、吾人も一時は或は此の如き傾向の來るを豫想して居たが、然し之と同時に社會主義的傾向の益々濃厚となる可き事に想

到せざるを得ない。斯く云へば前後頗る矛盾した議論の觀あるも、何れの國何れの時代に於ても國家は唯一の主義主張の下に支配せらるゝもので無いと同時に、軍國主義と云ひ社會主義と云ふも、共に國家の力を以て社會の活動を整理しやうと云ふ點に於て、共に相並んで進む事が出来る特質を持つて居る。

二

軍國主義に關しては論題外なるを以て之を言はず、何故に戦後に於て各國の經濟政策上社會主義的色彩が濃厚となる可きかと云ふに、先づ之を英國に徴するに、第一に注意すべきは十九世紀の末年に於て保守黨の政綱が昔風の貴族主義より轉じて所謂帝國主義となつて來たと同時に、自由黨の思想も亦個人主義から轉じて社會主義的傾向に移つて來た事である。然れば今回の戦争開始前に於ては現内閣の大立物たるロイド・ジョージ氏其他の大膽なる改革者の指導の下に、此の新らしき自由主義が盛んに其勢力を添へ、種々の大規模なる社會政策を實行せしめた。即ち老年者年金法と云ひ、國民保險法と云ひ、或は最低賃銀法、或は勞働者住宅改良法、或は小農扶植法、其他所謂千九百九年の大豫算案の如き重要な法律が踵を接して議會を通過し、尙進んで大々的なる土地制度改革案乃至鐵道國有と云ふ如き大問題を惹き起さんとせし場合に今回の戦争が勃發したのである。されば此の戦争は自由黨内閣の所謂民政に投ず可き資金を兵火の爲めに捨てゝ了ふ事となつたのであるから、或論者の如きは之が爲にロイド・ジョージ一派の社會政策は此機會を以て下火となる可しと云ふ觀察をなすも、吾人は却つて其れと反對の考を懷いて居る。其故如何となれば縦ひ軍國主義が盛んになつて來ても、其反對に事實上急激なる解決を要すべき社會問題が發生し來る可きが故である。

先づ戦後に於て如何なる問題が發生するかと云ふに、第一は各國戦時經濟の状態を平時經濟状態に引き直はすと云

ふ問題がある。即ち現在の交戦各國は戦争の始に當りて、如何にして平時經濟を戦時の情況に適合せしめんかに苦慮した、是れが即ち夫の所謂經濟上の動員なるものであつた。然るに今後は之と反對に先きに動員せられたる状態を如何にかして戦前の状態に恢復せねばならぬ事となる。これは動員其物が六ヶ敷しかつたよりも、更に一層六ヶ敷しい問題であらねばならぬ。殊に各交戦國が各數百萬の壯丁を驅つて戦場に働かせつゝあるので、此の殺人事業に慣らされたる多數の人衆を、一朝にして平和の業に歸らしむると云ふ事は實に容易でない。近頃英國の議會に設けられたる一の委員會は、英國農業の現状を調査して既に其報告を出して居るが、其委員の少數意見としては、小麥の最低價格を定むること、並に牧場の開墾に對して獎勵金を與へ以て地主を獎勵すると共に、種々の方法に依りて戦争に出でたる壯丁を農業に引付けねばならぬと云ふことを主張して居る。即ち最低賃銀法の原則を農業労働者に應用し、また農業労働者の住宅の改築を政府をして行はしめ（之が爲に要する費用邦貨二十億圓）、其他小農扶殖法の擴張を行ひて農業労働者の生活状態を改善し、之に依りて一面農業の獎勵をなすと同時に除隊兵の處分を行ふ可しと云ふのが此團體の意見である。尤も之は此の委員會の少數意見なるを以て、如何なる程度迄此意見が採用せらる可きかは不明なるも、抑も此の土地改革と云ふ事は戦争前に於て、既に盛んに計畫せられて居た事で、農業に於ける最低賃銀とか住宅改良とか云つた問題は、既に長く研究せられ且つ主張せられて居た事であるから、此際に於て必ずや何等かの形式を具へて現はれて來ることは、今日より強ち豫想せられぬ事では無いのである。

三

教育制度の改革も亦盛んに討論せられて居る様だが、是れまた戦争前より繼續せる問題にして、英國政府としては國民の生産力を進むるには何りかして教育費を支出し、以て労働者の智識を増進せしめざる可からざるのみならず、殊

に戦後に於て各國間に經濟的競争の激甚を加ふることゝなれば、それだけ愈々國家の費用を以て社會下層の子弟を教育する必要があるのであるから、これも早晚事實となつて現はるゝに相違無い。又交通組織に就いて見るも、從來數個の會社に分れて居た英國鐵道は、戦争開始と同時に政府に徵發せられて、其統一的經營に委かされ、現今に於ては此等の株主は恰も公債所有者の如き地位に置かれてある。故に戦後直ちに之を舊の如く株式會社組織に復歸せしむるのは頗る困難の様に思ふ。然れば鐵道國有も此機會に於て解決せられ、其の國有によりて國家が社會政策を行ふと云ふ事も亦自然の成行である。蓋し日本に於ては鐵道の國有或は市營は、恰も官僚の擴張の如く思惟せらるゝものゝ如く、現に近頃問題となつた東京市の電車回數券問題の如きも、市の當局者は之を以て私法の範圍に非ずとなし、公法の範圍なりとの論據より値上に都合よき議論を立てゝ居るが、歐洲に於ては國有と云ふ事は即ち社會政策の實行とも見て差支無き程、雙方密接なる關係を有するのである。即ち彼等は私法關係を公法關係に改むる事に依りて、國家は金錢上の收入を増加するに非らずして、社會政策を行はんとするのである。

此の如く種々の點より見て、戦後に於て社會主義的色彩の濃厚となる可きは今日より推察するに難くないが、尙茲に一大問題となる可きは戦後の租税問題である。

戦争の費用は今日迄に既に英國だけでも二百數十億圓の巨額に達して居ると云はれて居るが、然する時は終局迄には尙二百億圓の戦費を要すると思はねばならぬ。其の結果此の公債の利子計りでも雜と一箇年二十億圓を要する譯である。之に加ふるに元金償還の年割額若干を加へ、更に戦争に依りて新たに生ずる軍人軍屬の恩給年金等を加へ、又戦後の軍事費（幾分戦前より擴張せらるゝと見て）をも加算する時は、如何に少く見積るも之が爲め一箇年二十五億圓を要する事となる。而して英國一箇年の豫算は戦争前に於て其總額二十億圓なりしを以て、兩者を加ふれば年々の經費は丁度戦争前の二倍以上となるのである。英國は此の莫大なる經費を如何なる財源より支辨するかと云ふに、

或は消費税の増徴もなす可く、或は各國商業競争の盛んなるに乗じて、盛んに輸入税を引上ぐる事もするであらうが、併し乍ら是等の財源よりしては從來の例に徴するも素より多きを期待する事は不可能と云はねばならぬ。されば勢ひ何うしても夫の所得税、相續税の如き直接税に依らんとするが自然の數なる可しと思ふ。否、これは單に吾人の想像に止らず戰時に於て既に着々實行せられて居るのである。

四

英國では開戦以來都合三回の豫算が編成されたが、第一回即ち一千九百十四年度の豫算に於ては、所得税を倍加し、第二回即ち昨年度の豫算に於ては第一回に倍加したるものに更に四割を加へ、其上に戰時利益税を起して、戰時の利益が戰争前の利益に超過すること百磅即ち邦貨一千圓以上なる者に對しては、其超過額の二分の一を租税として政府に收むることとした。それから第三回の豫算に於ては又々所得税の率を變更して、大所得に對する負擔をして倍々重からしめ、且つ又戰時利益税を五プロセント乃至六プロセントに引上げた。此外に麥酒税と云ひ砂糖税と云ひ、茶、珈琲税又は自動車税、鐵道交通税、芝居切符税を増し、其上郵便電信料の引上を行つて居るが、併も全體より之を見る時は、消費税より得る収入は直接税より得る収入に比して遙かに少額なるは云ふ迄も無い。殊に今日戰争の影響を受けて諸物價の騰貴せる際に、消費税殊に日用品の消費税を高めると云ふことは頗る困難なる事なるのみならず、平和克復後と雖も急激に物價下落を望むを得ざる可きを以て、何うしても現在の方針、即ち専ら直接税に依頼すると云ふのは動かぬ方針なる可しと信ずる。而して相續税は今日の戰時經濟には別に問題とならぬのであるが、戰後に至りて戰時利益税廢止せられ、一方經常費の膨張を見るに至らば、相續税が議會の問題となるは火を賭るよりも明である。

此の如くして財産階級に課する税を重くし、其割合に消費税を増加せぬと云ふ事は即ち一種の社會主義的財政策に外ならぬのである。政府は公債を償還するも一方に於て重税を課して資産家の所得を取立つれば、つまり此大戦費を支辨する爲めに資産家の財産を取上ると其結果は同一である。租税は其率の低い場合には、社會政策の實行手段として其效果も軽からんも、今回の如き莫大なる戦費を支辨することゝなれば、其の税率大に高まり随つて經濟上に影響する所頗る著るしく爲つて來るのである。第三回目の豫算による所得税改正以後の事は其計算不明なるも、第二回の豫算提出の際に於ける大藏大臣の演説に據れば、一箇年十萬圓以上の所得ある人は、所得税及超過所得税を加へて一磅即(邦貨十圓)に對し五志一片(邦貨二圓二十五錢)、即ち所得の四分の一を取られることゝなり、二十萬圓以上の收入ある者は十圓に對して三圓、百萬圓以上の者は十圓に就いて三圓四十錢、即ち全所得の三分の一強を取られることゝなる。これは頗る重大問題で、從來一部學者の論ぜし所の社會主義的租稅政策、或は社會主義的租稅と云ふものは、恰もこの戦争の爲めに何うでも實行せねばならなくなつて來たのである。而して此租稅政策の傾向と前述の動員復舊策と合せ考ふれば、戦後の經濟政策は著しく社會主義的色彩をして濃厚ならしむるものあるべしと考へられる。

以上述べたる所は英國の方許りで、其他の交戦國に言及しないが、此は其内情の能く判明せざるによるも、恐らくは是れと同一の傾向が多少とも戦後に於て歐洲交戦諸國の經濟政策の中に現はると云ふことは、今日より必ずしも之を豫想するに難からぬのである。

英國に於ける戰時勤儉論(其二)

一昨年九月余が『戰時經濟講話』を出版してから約一箇年半を經過したが此間英國の經濟界には種々様々な異常の現象が前後相續いて走馬燈の如くに現はれて來た。或は商工業政策の方面に於て或は貨幣金融の方面に於て或は勞働問題の方面に於て經世家の絶好の資料となり又吾々經濟學研究者の智識欲を刺戟する所の驚異すべき事實が無限に展開せられて居る。本篇に於て聊か研究を試みんとする所の「戰時勤儉論」War Savings Campaignなるものも亦其一つであつて而かも其最も著しきものゝ一つである。一九一五年六月から始まつて今日に至るまで勤儉貯蓄論即ち公私經濟の經費を節約すべしといふ議論が彼國識者の間に廣く且確かに認められて是が或は議會に於ける名士の討論を惹起し、或は各種公會に於ける大臣の演説となり、或は貴婦人の社會的運動の目的となつて文壇、演壇、街頭より高唱せられ、而して其結果が財政上經濟政策上の方針をも左右して居るのである。要するに此問題は世界的自由交通の作用に依て個々に發展し各自に動きつゝある所の莫大なる金力、財力、人力を戰爭の遂行といふ唯一絶對の目的の爲めに統一集中せんとする大運動の一面であつて、從て其關聯する所も亦頗る多岐多端に互つて居るのである。余は次に先づ此勤儉運動の經過を述べ後に之が分析解剖を試みやうと思ふ。

歐洲大亂突發の當時に在つては何人も其經濟界の景氣に及ぼす所の影響を明確に判斷することは出来なかつたに相違ない。一方には外國貿易の萎縮及内國の需要減退の爲めに工業は不振となり勞働者は業を失ふであらうといふ觀察があつたが、又他の一方には政府の軍需品の注文の爲めに農業工業共に活氣を喚起され一般の消費も増進するであらうといふ觀察もあつた。中には金融機關の破壊の爲めに工業が全滅するとさへ恐れられたものもあつた。何れも根據のある觀察には相違ないが實際には何れの原因が何れの原因と如何なる程度に相殺されるか分らなかつた。そこで政府は事情が如何に轉換しても應對の出来る様な處置を取らんとしたのである。勞働社會の救済に關していへば一九一四年八月四日開戦と同時に貧窮豫防及救済委員 *Committee on Prevention and Relief of Distress* 並に婦人就職委員 *Committee on Women's Employment* と稱する二個の委員會を設けて有力な政治家、専門家、勞働組合代表者等を網羅し全國に手分けをして事實を調査し、且又別に國民救済資金 *National Relief Fund* を設立して廣く寄附金を募つて其救済の財源を作らんとし數箇月にして五千萬圓を集め得た。其他中央政府及地方團體は必要に應じて大に不急の土木を起して失業者に職業を與へんとする決心で調査を始めて居つた様の次第であつた。

かくて實際の形勢を觀望して居ると八月中は造船業以外の諸工業一般に混亂の状態に陥り特にランカシアの木綿工業は非常の沈衰を極め、其他建築業及家具製造業の如き注文を延期しても需要者の不便を感ずること少き仕事が衰へ、又上等衣服や裝飾品杯の需要が激減した爲めに失業者の數が増加し新聞紙上にも頗る悲觀的意見が現はれた。併し九月に入つてから政府の注文の影響が現はれて來て製絨業が先づ賑かされ、十月になつて夫れが「メリヤス」、靴、裁縫、大工、機械等に及び漸く不安の念が一掃される様になつた。政府は開戦二箇月の經驗に依て工業界の打撃に思つたよりも輕易に通過したことを公言するに至り、諸種の救済案も中止となされた。夫れから一九一五年を迎ふるに及んで失業は最早問題でなくして却て如何にせば工業の經營に支障なしに兵卒の募集を行ふべきかといふことが問題に

なつた。一時増加して居つた失業者統計は次第に減じて四月には最早過去二十五年間の最良の數字を示した。其後更に月を経るに従て經濟界の景氣は益々好くなる一方に傾いた。蓋し最初の觀測の如く外國貿易は著しく減じて居るけれども戰爭の大規模になるに伴れて軍需品の要求は益々増大し所謂「砲彈の戰爭」は愈々盛んになつて來たから平時に鐵道、橋梁、機械、建築等の材料製造に従事して居つたものは今や轉じて銃砲彈丸及軍用車類の製造に従事し、平時に外國輸出向の毛織物、綿織物を造つたものは軍用被服を造ることになり、而かも戰爭の爲めに使ふ金は最初の一箇年にしても百億圓以上に上るのだから二三十億の輸出貿易が止つても其損は何でもなく相殺されてしまふのである。

そこで前に激烈なる不景氣の襲來を恐れたものは却つて好景氣に酔ひ嘗て失業の憂き目を見たものは却つて贅澤に走るといふ全然反對の現象が生じた。特に急に平時以上の所得を得る様になつた所の勞働者が飲酒に耽る爲めに軍需品の製造に差支を生じ又は港灣に於ける積卸しの澁滞を來したのは頗る重大問題と認められて一時は激烈な禁酒運動が行はれ其後政府は兵營、港灣、工場の所在地に於ける酒類販賣を嚴に制限することゝなつた。是は一九一四年の春の事である。是が戰時勤儉運動の先驅となつたものである（此頃までの事蹟は拙著『戰時經濟講話』にあり）。

二

戰爭景氣は益々旺盛になつた。戰時利益と戰時賃銀を得たものは用捨なく之を必要品贅澤品の消費に用ひた。軍需品關係の工業の股賑は贅澤品工業に及び、又外國產贅澤品の輸入に及んで經濟界一般の熱狂的好景氣を惹起した。戰爭といふ慘酷な事件の起つたことが恰かも豊饒なる新大陸の開發さるゝのと同様の影響を生ぜしめた。勿論國民としては人命財産の大破壊を爲して居るのであるが國內に生活する所の個人として見れば異常なる所得の増加を得たもの

に相違ない。そこで大小成金は自働車を買入れ、「ピアノ」を買入れ、衣服を新調し、晩餐會を開き、其他一般に生活の向上を來たした。併し此戰時に於て此の如き奢侈の増長の危険なることは漸く識者の認むる所とならざるを得ない。一九一五年六月に至つて勤儉の必要を説くもの多くなり其聲は倫敦のシチーからウェストミンスターに傳はつて聯合内閣の組織及大公債の發行と共に之が政府の戰時經濟政策の一部として採用せらるゝことになつた。

六月三十日聯合内閣の首相アスキス氏と植相ボナロー氏は倫敦の歴史的大會堂なる「ギルドホール」に出で、第二回大公債（六月二十一日發表、四分半利付平價にて發行高を無制限となす）の應募勧誘の演説をなすに際して勤儉貯蓄の必要を力説した。アスキス氏の説の要旨は次の如きものであつた。

浪費は平時にありても愚劣にして且短見なることなれども戰時にありては實に國民生存上の危険を意味するのである。今英國民全體の一年の所得は二十二億乃至二十四億磅にして其消費は凡そ二十億磅なりと稱せらるゝから其差額二億乃至四億磅は一年の貯蓄に相當するであらう。然るに戰爭の費用は現今の率を以て計算するに一年凡そ十億磅に上るのである。然らば吾等は如何にして此收入の不足を補はんとするか。是が吾等の重大問題である。思ふに此不足を補ふの方法は四つありといふことが出来るであらう。第一は我國民の有する財産を賣拂ふことである。第二は外國に借債を起すことである。第三は我正貨準備を拂出すことである。併し第一第二の策は到底現今世界の經濟状態にては好都合に行はるゝことが出来ない。加之假りに充分の收入を得たりとするも之を消費するの結果我國は戰前に比して著しく貧しくならねばならぬ。第三策を取れば倫敦をして世界金融の中心たる地位を捨てしむるの外はない。さすれば此時に處するの道は唯一あるのみ夫れは消費を少くして貯蓄を多くすることである。

節約の必要は二の立場から生ずる。第一には節儉は戰爭費を我國民の自家の懷中から出さしめる。第二には外

國貿易上輸入を減少せしめ輸出を増加せしむる。昨今の統計を見れば輸入の激増と輸出の激減は最も顯著なる事實にして今年中之が爲めに生ずる所の對外債務は二億六千萬磅に上るであらう。此債務の發生を防ぐの道は何か。曰く總ての不必要なる消費を避くるにあり。輸入品の消費を節すれば夫れだけ對外債務を減ずることが出来る。内國生産品を節すれば夫れだけ輸出すべき餘地を作り又は資本及勞力をして一層適切に戦争の用に向けしむることが出来る。故に我國をして此戦争に勝たしむる爲めに國民は各自の所得を節儉貯蓄して國家に貸さなければならぬ(此演説の全文は當時の『タイムズ』新聞にあり)。

余は茲にアスキス氏の説を稍詳しく述べたが、當時識者の所論として新聞雜誌上に掲げられたものも殆んど之と同小異であつて其論は何れも外國貿易上輸入超過の激増に重きを置いたものであつた。是に就て余は後に批評したいと思ふのである(他の例としては六月上旬『タイムズ』に出でたる“*A Banker*”の手簡及『*H.ノミスト*』の寄書“*Money as defence*”を見よ)。

「ギルドホール」に右の演説があつてから三週間を経て七月二十二日倫敦銀行界を代表する所の一團の名士は同業有志の決議を齎して首相を訪問して切に政府部内及民間一般の經費節約の緊要なるを説き之を實地に行ふの手段として大いに新課税を爲すべきことを主張した。蓋し政府が人民に對して課税の必要を説かずして却つて人民が政府に向て之を要求したといふ事實は歴史上空前の事であつて、是は當時此委員の一人であつた所の *Harold Cox* 氏の言の通りである。而して委員の主張は *Lord St. Aldwyn* (嘗て保守黨の大藏大臣たりし人)の口から次の様に述べられた。

吾等は公私經濟の經費節約を主張するものである。政府にても實戰の費用を節するは至難なるべきも國內政務の費用は極力節約せられねばならぬ。民間の節約に就ては首相の既に自ら力説された所であるが、併し之は唯勧奨するのみでは足りない。是非之を強制しなければならぬ。強制の道は課税より外にない。課税は第一貿易上の

輸入超過を防ぐ爲めに必要である。吾等は軍需品及日用品の外の一切の輸入を出来る限り防遏すべきものと信じて居る。又課税は財政上是非爲さねばならぬ所のものである。彼の莫大なる軍事公債を募つて居て増税をしないならば後代の英國人に非常なる負擔を遺さねばならぬ。是は現代人の大耻辱ではないか。夫故に吾等は今大規模の増税を要求する。吾等は輸入税の賦課と所得税の増徴及免稅點の引下を要するものと信ずる。

茲に於て勤儉論は言説に止らずして行爲に進まねばならぬ、主張に止らずして強制に進まねばならぬ。課税而かも輸入税の賦課といふ問題になつた。而して此種の説は獨り銀行家の意見のみでなくして多數の識者の唱導する所となつたのである、議會に於ては上院中特に熱心に之を主張するものが多くして遂に後に述ぶる所の戰時貯蓄委員 War Savings Committee を組織するところとなつた。其他當時の新聞雜誌上に同説は所在に散見して居る。中には政府が前年九月の小増税をなしたる後に毫も財政上施設する所なくして當年度の初にも増税計畫なしに打過ぎたことを憤つて「政府はかくして國民を財政的迷想の裡に生かしむるものである」と極言して居る。即ち増税は天下の輿論であつて政府亦之に反對するものではなかつた。然らば政府は如何なる方法に依て此輿論の要求に應じたかといふことが次の問題になる(『エコノミスト』七月十七日號九〇頁に上院討論の要旨を載せたり)。

三

聯合内閣の藏相マケナ氏は一九一五年九月及一九一六年四月に提出した二回の財政案に於て大々的増税を斷行することに成つた。是は一九一四年十一月に提出された前藏相ロイド・ジョーヂ氏の財政案に次で戰時に於ける第二、第三の豫算をなし英國戰時財政の樞軸を定めたものである。

ロイド・ジョーヂ氏の第一豫算(即ち一九一四年度)に依る増税は左の通りであつた。

所得税及特別所得税 Super tax を二倍となす.....	(一箇年の増収四千四百七十五萬磅)
麥酒税を三倍になす.....	(同) 千七百六十萬磅
茶税を六割増になす.....	(同) 三百二十萬磅

依て一箇年の増収總額六千五百五十五萬磅となる

次にマケナ氏の第二豫算(即ち一九一五年度)に依る増税は左の通りである。

一、所得税を四割増となし同時に免税點の従前百六十磅なりしを百三十磅に引下ぐ。尙同税法Bの部に於て地代の計算法を改む。之に依て一箇年の増収四千四百四十萬磅を得。

二、特別所得税(八千磅以上の所得に課する附加税)は従前八千磅を超過したる額に對し一率に二志八片なりしを累進法に變じ、最低率二志十片より最高三志六片に至らしむ。此變更と前項所得税の増徴に依り大所得の負擔は非常に重くなる。例へば一萬磅の所得に對しては税額凡そ二割五分に當り、二萬磅の所得に對しては三割に當る。

之に依る一箇年の増収二百六十八萬磅。

三、戰時利益税即ち超過利益税 Excess Profits Tax を新設し、總ての商工業の利益の前年度査定額に超ゆること百磅以上なるものには其超過額の五割即ち半分を租税として徴收す。

之に依る増収約三千萬磅と見積る。

かくて所得税に屬する分の増収合計七千七百萬磅となる。

四、消費税の部にて砂糖税を二倍し、煙草、茶、「ココア」、「コーヒー」、「シヨリー」、乾菓物を五割増し、「モートル」酒精及賣藥税をも増す。

五、輸入税の部にて自働車、自働自轉車、活動寫眞「フィルム」、時計、樂器、板「ガラス」、帽子に三割三分を課す。

右二種の間接税增收二千五百萬磅。

六、郵便電話の料金を改正し特に半片「ハガキ」を廢するに依りて一年の增收四百九十萬磅を得。

是等の租税の内勤儉運動の立場から最も議論の種子となるのは第五の輸入税である。藏相は之に就て次の様な説明をして居る。

余は此計畫が自由貿易論者をも保護貿易論者をも満足せしむることの出来ないのを承知して居る。併し兩者とも今は其關稅政策論を別にして考へて貰はねばならない。今の計畫は全く戰時に限るものであつて其永久的効果を期待するものでないのである。即ち吾人は今外國爲替の状態を見て輸入を制限するの必要を切に感ずる際である。或論者は輸入の多きはやがて輸出をも増加せしむることになるから此の如き干渉は無用だと考へるかも知れぬが、併し夫れは平時の場合にのみ當て依まる説である。現今の状態では我國の資本勞働が他の目的に使用せられて居るから到底輸出を増加せしむることが出来ない。従て我等の爲すべきことは輸入を妨げるより外にない。輸入税を課すれば輸入を制限すると共に國民の消費を減少し、而して又國庫の收入をも増すことが出来るのである（此演説の全文は當時の『タイムズ』にあり）。

即ち此税は明かに前述倫敦銀行家の主張を採用したものであるが、而かも此説明が理論上當を得て居るか否か、是は余の後に論評せんとする所である。次に第三の戰時豫算（一九一六年度）に依る増税は左の通りである。

一、所得税法を改正し勤勞所得の累進率一磅に付二志一片五分一乃至三志六片なるを二志三片乃至五志となし、不勞所得の累進率二志九片五分三乃至三志六片なるを三志乃至五志となす。即ち累進の程度を急峻にした

るなり。之に依て增收四千三百五十萬磅を得。

二、自働車及自働自轉車の使用免許料を二倍乃至三倍にす。之に依て八十萬磅を得。

三、戰時利益税の税率五割なるを六割に増す。此收入（特設兵器工場 *Controlled establishments* の公納金 *Munition Levy* を合せて）八千六百萬磅に達すべし（前年度は三千萬磅と算定したり）。

四、消費税中砂糖、「コア」、「コーヒー」及「シヨリー」の税率を高む。增收九百萬磅。又新たに「マッチ」税、清涼水税、鐵道切符税、及劇場其他興業物の入場切符税を起す。

是等新税の收入一千萬磅以上に達すべし。

此計畫中自働車免許料、鐵道切符税及劇場税（活動寫眞は此内の重要な一要素なり）は何れも明かに奢侈制限の目的を有するものである。而して輸入税の新たに課せられたもの一つもなく且藏相が其説明中に「奢侈品輸入の制限には課税よりも制限を以て適當の手段となすことを經驗上から知り得た」とあるのは保護論者の不満足とする所であつた。自働車の輸入税を増す代りに其免許料を増したのも亦此方針一轉の影響かと思はるゝのである。

そこで以上三回の増税の結果が英國の財政全體に如何の關係を生じて居るかといふに、是は本誌の昨年九月號及十月號に津村博士の論じられた事であるから今此處に繰返す必要を認めないが、要するに英國今回の戰時財政の特色として擧ぐべきものが二つあると思ふ。其一は戰時に募つた公債の元利償還は同時に起した所の租税の收入を以て充分に爲し得らるゝことである。増税の結果英國の租税收入の總計は今や五億九百萬磅（戰前は凡そ二億）に達し、此内より戰時利益税を差引きたる殘額四億二千萬磅が永久的の收入となる。更に此内より一億七千萬の經常費と二千萬の年金とを支拂ふも尙ほ殘額二億三千萬を以て優に三十億の戰費に對する元利償還を爲すに足りるのである。次に第二の特色と稱すべきは租税種類を選擇するに消費税よりも所得税に重きを置いたことである。三回の増税に依る收入合計二

億四千萬磅の内にて所得稅特別所得稅に屬するもの一億三千萬磅に上つて居る。此事は社會政策上頗る重要な意味を有して居るが勤儉論の立場から見たらば何といふべきであるか。消費稅と所得稅と何れが消費の制限を強制するに有效であるか。是亦後に余の論評を加へんとする點である。(未完)

大正六年五月『國民經濟雜誌』第二十三卷第五號掲載

英國に於ける戰時勤儉論(其二)

四

一九一五年六月倫敦の銀行家が相率ひて藏相を訪問して勤儉の必要を説き其強制手段として増稅の斷行を建議したると同時に議會に於ても亦同様の議論が熱心に主張せられ戰時貯蓄委員 War Savings Committee が組織せられて戰時の好景氣に浮かされたる一般人民を警戒するの運動を起したことは既に前述せる所である。余は今此運動に關し

て充分なる報道を得て居らぬことを遺憾に思ふが兎に角此に勤儉運動の如何に盛なりしかを説明する必要があるから甚だ断片的になるけれども『タイムズ』及『エコノミスト』の紙上に散見したる雜報を摘録して見たのである。

さて右の戦時貯蓄委員は何を爲したかといふに各員部署を分ちて全国各地に演説會を開き又小冊子を配布して極力自家の主張を民間の人心に浸潤せしめ以て戦時の所得を奢侈的消費から救ひて政府の小額面公債等に投下せしめんと勉めた。而かも彼等は其努力の効果尙充分ならざるを見るや更に組織的計畫を立てることとなり、翌一九一六年三月再び倫敦「ギルドホール」に大集會を催して全國を二百二十五區に分ち各區に地方委員を置きて其趣意を徹底せしむべきことを發表した。此大集會には二人の大臣が出席して内閣大臣皆其年俸四分之一を節して公債に投じ且政府各省の經費百分四を節減すべきを告げた。かくして勤儉運動は大に其氣勢を高め忽ちにして幾百の地方分會の設立となり、此等の團體中には唯勝戦の秘訣が勤儉にあることを遊説するに止らず自ら公衆の貯蓄を集めて公債應募の手續を取るものあり。而して中央委員は此等の放資團體の會計を監査するの任に當つた。そこで政府も亦戦時貯蓄債券 *War Savings Certificate* を發行して零細の放資に便ならしむるの策を取つた。此債券は普通の國庫債券と異り最初十五志六片の拂込に對し五箇年の後に一磅を償還せらるゝといふ通俗に解し易き條件を付けたものである。又昨年の夏は倫敦に勤儉博覽會 *National Economy Exhibition* が開かれて各種の圖表を掲げ又家庭にて節約を行ふの方法を示した。

そこで此運動の効果は何ふであつたかといふに同年十月の計算に依れば年初以來國債證券の郵便局賣出高三千五百十萬磅、貯蓄債券の賣出高千九百五十萬磅に達したとある。即ち兩者を合して五千萬磅許りの金が小口の貯蓄として醸出せられたのである。是は日本の郵便貯金局が多年の間に吸収した資金合計の二倍以上に當るから英國としても著しき成績に相違あるまい。併し此時に至つて一般の奢侈贅澤の風が防止せられたかといへば決してさうでない。遊覽

の爲めに自動車を乗り廻すものは至る所にあり、毛皮や寶石は上等下等眞物偽物共に賣行旺盛であつた。凡そ此等の贅澤の爲めに物資及勞力の使用さるゝは夫丈け戰爭の目的に向けらるべき國民の力を殺滅して居るのである。夫故に勤儉運動は益々大に必要なりとせられ本年初めの大公債募集の際にも政治家學者實業家等は頻りに國民を警戒して居た。而して大公債の次には更に増税を行ふべしとの論が唱へられて居る。

五

以上英國に於ける勤儉運動の情況を概説したが余の本論を草する目的は事實の報道にあらずして此問題を通じて個人の節約と國民經濟との關係を見出すにあるのである。則ち余は之から右運動の評論に移らねばならぬ。

第一に論すべきは此運動が二箇の相關聯せる而かも別種の目的の爲めに開始せられたことである。即ち前掲アスキス首相の演説にある如く一九一五年に於て同國識者が儉約の必要を感じたのは第一に「戰爭費を我國民の懷中より出さん爲め」(即ち國富の維持)、第二に「外國貿易上輸入を減少せしめ輸出を増加せしめん爲め」(即ち輸入超過防止)であつた。而して此第二の目的に重きを置いてあつたことは右の演説建議等の全體の調子から推定されるのである。然らば其第二の目的たる輸入超過の防止は何の爲めに必要なるかといふには是は勿論一國の爲めに輸入が損で輸出が得だといふ様な粗笨な「メルカンチリスム」から立論したのでなくして金本位維持の必要に基くのである。抑々英國にして一度不換紙幣の國とならば倫敦の世界金融の中心たる地位は決して保たるべくもない。而して金本位を維持するには正貨の流出を避けねばならぬ。然るに開戦以來英國の貿易は非常なる輸入超過を示して居るから之を自然に放任すれば忽ちにして正貨の涸渇を見んこと明白である。是即ち輸入超過の問題に就て英人の焦慮する所以である。併しながら金本位の維持と國富の維持とは決して同一の問題ではない。アダム・スミスの言を以てすれば一は *Ba*

lance of trade の問題であり他の一は Balance of annual produce and consumption の問題である。従つて此二つの目的に對しては別々の救済策を考へることが出来るのである。勿論英國民が外國品の消費を節約すれば丈夫け輸入を減ずることになるだらう。又内國品の消費を節約する場合にも之に依つて剩されたる國民の生産力が外國向商品の生産に向けるゝならば間接に輸出を増進するの效果があるだらう。特に英國の實狀に於て當時奢侈品の輸入が激増して居つた所から見れば奢侈を戒むること即ち輸入の制限となつたのであらう。夫故に儉約は輸入超過を喰留むる所の一策たるに相違ない。けれども此目的を達するには唯一般に消費の節約を勧める外に一屬適切な方策があるではなからうか。

輸入超過を防いで正貨流出を止めるには輸入の減少と輸出の増加の二途ある。輸入を減少せしむるには輸入税の賦課及輸入禁止といふ有效な方策がある。又輸出の方面に於ても商品の輸出を急激に増すことは出来ないけれども有價證券を輸出するのは困難でない。即ち其方法として従來英國人の外國放資に對して得た所の證券を外國市場へ賣戻すもよし、又新たに外國で募債しても宜しい。此方法は英國の貸金を減じ又は借金を増すものにして結局借金政策に外ならぬのであるから國富維持の爲めには全然無効であるけれども爲替相場を矯正し正貨流出を止め金本位を維持するとしては最も直接且有效の方法である。是は商品の輸入超過其ものを止めることは出来ないけれども輸入超過の惡結果たる正貨流出を完全に止めるものである。加之英國の輸入激増は單に奢侈の爲めでなくして軍需品の輸入の爲めでもある。さすれば奢侈が止んでも輸入超過は避くべからず。従て之に應ぜんが爲めに證券の賣出をなすは恰かも戰時準備金を使用すると同じ意味に於て必要である。夫故に英國政府は一方に勤儉論を説きながら事實に於て借金政策を行つて居つた。所謂證券動員 Mobilization of Securities は其最も大規模なるものである。而かも英國が今日に至るまで金本位を維持しつゝあるは勤儉の爲めでなくして主として此借金政策の效果である。

輸入税の賦課及輸入禁止も亦輸入超過防止策として效果あるべきは前述の通りである。而して輸入税の賦課は倫敦銀行家の建議の一項目をなし又一九一五年度豫算の内に採用されたことである。併し此政策には大なる缺點のあるのを見逃してはならぬ。奢侈品の輸入を制しても國內に於ける奢侈品の生産を制せぬならば國民は外國の奢侈品の代りに內國の奢侈品を用ふることになるかも知れぬ。而かも安き外國品を排して高き内國品を用ふるのは一時的正貨維持政策に適するのみで節約の本趣意には適せぬのである。此論點から見れば政府が一九一六年の豫算に至りて前の方針を一變して自働車輸入税引上の代りに自働車免許料の引上を行ひ、活動寫眞「フィルム」輸入税引上の代りに入場切符税を起したのは誤を悟つて正に返つたものと見るべきではなからうか。兎に角正貨維持策として輸入税を用ふるの説は餘り實行されなかつたのである。

輸入禁止の法は爾來大に採用せられ本年二月ロイド・ジョージ内閣の實行した禁止は品目六十餘種に上る大規模のものであるが是れ正貨維持の目的に出でたるに非ずして船腹調節の爲めであつた。

六

以上の如く勤儉論は最初正貨の維持と國富の維持と二つの目的の爲めに主張せられたのであるが正貨の維持の爲めには一屬有效適切なる方法が實行された故に勤儉論は専ら國富の維持を目的とする様になつた。特に昨年に入て英國の戰爭は益々大規模になつて國民の全力を傾注するの必要を生じたから曩に現代國民の力を以て戰爭費を支拂ふべしと主張した所の識者は一步を退いて出来るだけ現代國民の力を戰爭の爲めに集中すべしと論ずるに至つた。是は前の餘裕を有つた態度が戦局の擴大につれて緊張して來た次第で其本趣意が變つたのではない。最近の勤儉論の通例として昨年九月乃至十二月に『エコノミスト』社説に掲げられた二三の論文 (Need for taxation) の要點を録すれば次

の如くである（便宜上一の原文に拘らずして一貫したる共通の趣意のみを記す）。

勤儉勵行が何程戦争の遂行上必要なるかを知らんとするものは宜しく貨幣を離れて人力及財力の消費せらるゝ状態を観察すべし。抑々一國の人力財力は有限なり。故に各人が奢侈其他の私用の爲めに之を消費すること多ければ多き丈け國家が戦争の爲めに消費し得べき人力財力の高を殺滅するなり。國民中奢侈品を買入るゝものは一國の生産力中より其奢侈品の生産に必要な丈けの分量を取去つて戦争の目的に用ひしめざるなり。之に反して各人が奢侈を廢して其購買力を政府に移すときは政府は之を以て戦争に必要な仕事に用ふるに依りて一國の生産力が全部此唯一絶対の目的に傾注せらるゝことゝなる。されば各人は其所得の内より各人の健康と能率とを維持するに必要な部分を差引き其殘額を悉く國家の用に供するを要す。

國民をして節約を勵行せしむるの法は戰時貯蓄委員の爲せる如く各人の自由意思に訴へて公債の應募をなさしむるも不可なけれども是のみにては充分ならず。現に今日にても一般人民の間に奢侈と浪費の盛に行はれつゝあるは明かなる事實なり。此状態を改むるには有らゆる奢侈品に對して更に一層の重税を課するに如くはなし。かくするときは増税の結果として一方に節約を進め他方には政府の収入を増加することを得べし。勿論此二つの目的は同時に達すべからずして何れか一方の効果を得る次第なれども今日の場合吾人は何れの目的が達せらるゝも可なりと信ず。何となれば兩者共に人民の消費力を移して國家のものとなせばなり。

以上『エコノミスト』の論說中前半即ち節約を必要とする理由に就ては勤儉論者の説は一致して居るが節約を勵行する方法に就ては議論が分れて居る。特に消費税を用ふべきか所得税を用ふべきかに就て二派の論がある（同誌十一月二十五日所載 Prof. Pigou 手簡、同十二月三十日所載 Dr. Marshall 手簡及之と關聯せる諸家の手簡）。

消費税論者はいはん。現今防止すべき行爲は奢侈にして勤勞にあらざ。金を儲くることにあらざして金を使ふことなり。故に所得に課税するよりも消費に課税するが一層直截簡明なる方法ではないかと。併し所得税論者は之に答へていはん。如何にも課税の目的は消費にあるなれども所謂消費税なるものは各人の消費の全部に課するものにあらずして唯或種の物品の消費に課するのである。故に此種の税に依りて一種又は數種の奢侈を止めることは出来るけれども

奢侈其者を根本的に癒やすことは出来ぬ。根本的に奢侈を不能ならしむるには消費の源泉たる所得に税するに如かず。加之凡そ奢侈贅澤は必ずしも奢侈品に附随するものでなくして普通の日用品も使ひ方に依て奢侈の手段となる。例へば郵便鐵道の如き交通機關は文明の生活に於て日用必需の物なれども之を娛樂に用ふることも出来るのである。故に此等のものに課税するときは要用ありて之を用ふるものも娛樂の爲めに用ふるものと平等に其税を負担せねばならぬ。之は平時に於ても不公平であるが特に戰時の如き各人所得の機會が偶然の出來事に左右せらるゝこと多き場合に於て不可である。

所得税を難するものはいはん。現今の消費税制度が不完全なる如く所得税制度も亦完全ではない。所得税は決して絶對公平でないから之に重税を課するならば其不公平の程度を甚だしからしめるであらう。又財産階級に重課するときは資本を海外に輸出して其課税を免れんとするものが出来るだらう。資本の減少は戰後の經濟競争上大なる不利益ではないかと。そこで所得税論者の答辯は次の通りである。曰く現今の所得税制度は不完全であるけれども或程度まで之を改善することが出来る。又資本の輸出は永續的重税の存する場合に行はるゝことにして戰時税の如きものに就て行はるゝとは信ぜられぬと。

かく考へ來れば消費税の缺點は所得税の缺點よりも重いけれども所得税のみを重課することの出来ないことも亦確かであるとするればやはり兩者併せ用ふることゝして其内に消費税の負擔を成るべく少くなし且消費税の種類を多くするより外はないのであらう。要するに勤儉論の立場から見ても特に消費税に重きを置くべき理由はないのである。

七

尙此に勤儉論に關聯したる一問題が残つて居る。夫は國民經濟上より見たる租税と公債との差違である。財政學者

は「公債は現代人が子孫に向つて振出したる爲替手形なり」杯といふて居るが之は國民經濟上からも同様に見るべきであらうか。公債を以て經費を支辨する所の國家は後に至りて多くの租税を得なければならぬ故に現代の國家が後世の國家に負擔を遺すといふべきであるけれども之は國家の收入支出の問題にして國民の生産消費の問題ではない。然らば『エコノミスト』の勤儉論の立場に立つて一切の貨幣の授受を離れて單純に一國の人力財力の消費といふことのみを見たらば何ふなるか。

此問題に答へるには公債の應募者が應募金額だけ消費を節約したか否かを考へなければならぬ。若し應募者が新貯蓄を以て公債の拂込に宛てたならば其經濟上の效果は租税を徴收されたのと異なる所はない。蓋し租税の代りに公債を起したる國家は其丈け財政上の弱點を増す道理なれども之が爲めに其國民が貧乏になつたとはいへないのである。一國が戰爭費を支拂ふ爲めに租税を徴收し而して人民が其租税を支拂ふ爲めに消費を節約した場合を一方に置き、又一國が同じく戰爭費を支辨する爲めに公債を募り而して人民が之に應ぜん爲めに消費を節約した場合を他方に置いて此兩者を比較して見よ。國民として社會として消費節約をなした状態は同じことである。其國に於ける生産消費の權衡は同一である。此點から見れば戰時經濟策として公債の代りに租税を用ふることは特に重要でない。英國が一方に公債を募ると共に他方に其利子を支拂ふ丈けの租税を起したとても大に誇るに足りないのである。之は鞏固なる財政策たるに止り戰後に國力を保存するといふ結果にはならぬのである。

併しながら此説は一國を一の團體として見たのである。更に立入りて其一國內の財産階級と勞働階級とを區別して見たらば右の二つの場合は必ずしも同一ではない。此點に就て Prof. Pigou は次の様な説を述べて居る。曰く戰時の増税は通常主として財産階級に課せらるゝけれども戰後の増税は勞働階級の負擔する部分が大きい。夫だから戰爭費を租税支辨にして戰時に取立てる場合には財産階級の負擔が重くなるが、之に反して公債支辨にして租税を戰後に

繰延べる場合には勞働階級が多くの負擔をなすことになる。併し是は何れの國何れの時にも當て嵌まる説ではあるまい。少くとも日本の經驗に依れば戰時の租税が戦後の租税に比して財産階級に多く課せられたといふことは出來ないのである。唯此に斷定し得ることは租税は負擔の分配を即時に定め、公債は之を未定のまゝに繰越すといふことである。

尙又 Prof. Pigou は租税と公債との影響の差として生産力の關係を擧げて居る。曰く戰時税は一時的のものなるが故に其結果として人民の貯蓄心勞働心を弱むることなけれども戦後公債の元利支拂の爲めに制定する所の租税は繼續的なるが故に其貯蓄心勤勞心に及す所の不良なる影響が現はれて來ると。是は租税の心理的惡影響を前提しての説であるが實際に於ては人民が租税の重きを厭ふて怠惰に流るゝか、之に勵まされて一層勤勉なるに至るかは不定の問題だらうと思ふ。

さて以上述ぶる所は公債と租税との差を述ぶるに當つて公債の應募者が新貯蓄をなしたといふ假定の下に説を立てたのであるが本來をいへば此假定が頗る疑問なのである。租税は節約なしに支拂ふことは殆ど之なしといふことが出来るけれども公債は然らず。全く節約することなしに借金して應募することが出来る。而して此金を貸すものは通常銀行であるから兌換券又は預金通貨の増發に依つて資金を創造することが出来る。其場合には外見上政府が民間から資金を借り得た如くであつても實際は政府自ら紙幣を増發したのと同じことになる。即ち通貨膨脹の爲めに一般物價の騰貴を惹起し政府も人民も富者も貧者も一樣に其所有する貨幣の購買力減少に依つて消費の節約を強制さるゝのである。通貨の膨脹は表面上何人の懐中からも貨幣を取るることなしに各人の買ひ得べき物品の一部を絞り取る所の方法である。通貨膨脹に依る所の物價騰貴は消費説増徴に依るものと異り奢侈品にも必要品にも一樣にかゝつて來る。通貨膨脹に依る節約は無方針の節約であるから貧民に取りては生活費の最低限に喰込むことなきを保せぬ。夫故に公債に

依る軍費調達は應募者が節約をなすといふ條件の下に於ては租税増徴と經濟上同一に見ることが出来るけれども一度其條件が崩れたときは最悪の財政策たる紙幣濫發と同結果に至るのである(Economic Journal, Mar. 1917 所載 Prof. Pignon の論文参照)。

八

歐洲の交戦國は大戦争の壓力の下に經濟上最も大切なる經驗をなしつつある。彼等は一國の人力財力を擧げて戦争といふ唯一絶對の目的に傾注しなければならぬ。而して之を爲すの基礎は何ぞや。國民的生産と消費との差額を出来るだけ多くして國家の用に供することである。此差額は外國貿易上の輸出入の差額と混同してはならぬ。國家財政上の收支の差額と混同してもならぬ。貨幣を離れて實物に就て見た所の生産消費の差でなければならぬ。然らば此差額を多くするの途如何。曰く各人をして節儉せしむるにあり。今の我法律は所有權を絶對のものとなし所有物を如何に用ふるかは各人の神聖なる自由と看做す所の思想に立脚して居るが、大戦争は此法律上の原則に對して一大打撃を與へた。國家最高の目的を達する爲めには個人の消費を制御しなければならぬ。個人の消費の内、其健康と能率とを維持するだけの費用は是非必要であるが其以上に來たるものは之を節約して國家の爲に用ふべきである。政治家や學者は此意味に於て節約を強制し奨励する爲めに輸入税や消費税や所得税や公債や有りとならゆる手段を取て計畫し實驗しつつある。而して其手段は此戦争中に著しく改善されて今や所得の徵募は兵卒の徵募の如く完全に行はれ財政は戦前に於て夢想せざりし所の大規模になつて居る。戦前に於ては比較的少額の經費も收入不足の理由の下に見合はされて居たが今の状態から見れば收入の不足といふが如きは殆ど理由にならぬのである。そこで吾等は考へねばならぬ。此の如き大なる收入は國家として之を得んと欲せば得らるのである。國家は戦後に於て此偉大なる力を何に用ひんと

するか。戰時にありて國家最高の目的は戰爭であるが戦後に於ては何を最高の目的として國力を傾注すべきであるか。此以上は蓋し經濟學の範圍外に屬するだらう。併し此最高の目的が発見さるゝならば經濟學は其目的を達する爲めに人力財力を集中するの途を知つて居るのである。(大正六年七月十五日稿)

(完)

大正六年『國民經濟雜誌』第二十三卷第一號掲載

英國政界に於ける労働黨の地位

一九二三年の正月に英國労働黨の由來を考へて見るのは大に意味深きことと思ふ。昨年十一月の總選舉に於いて首相ボナーロー氏の與黨たる保守黨が絶對多數を占めたことは著しき事實に相違ないけれども、是は歴史の大勢から見て格別珍しいことではない。併し其總選舉に労働黨が未曾有の大勝を博して従前の六十幾人から百四十人の代議士を帝國議會に送り、一躍して院内第二の大政黨となり當面の野黨として自由黨の上に立つに至つたことは確かに英國政治上に新時代を劃するものといはねばならぬ。何となれば是こそ十九世紀の傳統たる保守と自由との二大政黨の對立といふ形勢を一變して資本黨と労働黨との對立に至らしむるからである。今後英國の政界に於いてアスキス派及ロイド・デゾーデ派の自由黨が再び合一するか否か、又ロイド・デゾーデといふ稀代の天才が何んな行動をとるか分らないが、彼等の進退如何に拘らず最早此労働黨と稱する大勢力を打算の要素としなければ何事も出来ないであらう。昨年十一月十八日の『時事新報』夕刊に労働黨の宣言が出て居たが、其内に「労働黨の成功が從來自由黨の地盤たりし地方に於いて最も著しかりし事實は即ち労働が自由主義に取つて代つたことを示すものだ」といひ、且「労働黨政府が必ず近き將來に出現すべし」と豪語してあるが余は彼等の意氣を壯なりとするのみならず、此言を其字義の通りに解して多大の歴史的感興を催すものである。

英國に於ける二大政黨の對立といふ我國の政治家が久しく議會政治の不易の典型の如くに信じて居た事實は右の如

くにして一九二二年の十一月に終を告げたのであるが、併し是は吾々から見れば毫も不思議はない當然の成行である。何故かといへば抑々彼の保守黨と自由黨との基礎は十九世紀に於ける英國の社會組織にあつたのだから其基礎が動搖して來れば政黨の分野も亦自ら改まるべきは何人も疑を容れぬ所でなければならぬ。然らば其政黨の基礎たる社會組織は如何に變化して來たか、又更に其前に遡つて右の二大政黨の基礎は如何なるものであつたか。此問題に對して簡単に答へるならば、保守黨と自由黨との意義が明白になつたのは一八三二年の選舉法改正の時であつて、其時以來昔のトーリーは依然たる地主貴族の黨派となり、之に對してホイッグは大工業の勃興と共に發達した新富豪即ち狹義のブルジョアの黨派となつたのである。英國では我國等と異つて封建時代の領主の權利が其まゝ土地の所有權となり、かくして生じたる大地主が我國の郷士の如きものとして各地方に自治の權を執り、又代議士を中央に送つて廟堂の政治を左右したのである。併し早くから外國貿易の發達して居た爲めに實業界に成功して富は王候を凌ぐといつた様なものが輩出したので、此等のものは自ら廣大な土地を買つて郷士の列に入り、商賣を棄てゝ土地の經營を爲し且政治上の支配者となるものが少くなかつた。而して此等のものは舊來の貴族郷紳と自由に婚を通じたから實業界の富と血統は絶えず此古い階級の間流込んで行つた。此事が一部の原因となつてトーリーとホイッグの分裂を來したのである。然るに十八世紀後半の産業革命となりて大工業の急激なる發達は最早實業家をしてかゝる側面的の一勢力たるに満足すること能はざらしむるに至つた。そこで都會の商工業者にも選舉權を與へられねばならぬといふ運動が起つて終に前述の一八三二年の改正が出来た。而して其時修正案の通過を強行したものはホイッグであつたから、是が自由黨即ち實業黨となり、反對派のトーリーは保守黨即ち地主黨となつたのは勿論である。

かくして二大政黨は二大階級の利益代表機關として出現したが、併し彼等は單に利益代表のみを求めたのでなくして夫々獨得の理想と哲學とを有して居た。即ち一方は國權の伸長を求め、他の一方は國富の増進を期した。國教の尊

重、國防の充實、外交の振興は前者の主張であり、個人の自由の擁護、政費の節約、産業の發達は後者の綱領であつた。但し英國の實業家は日本の同輩の如く政府の保護に依つて産業の發達を計らんとはしなかつた。却つて彼等は政府の保護獎勵を有害無益として排斥し、政府は唯外國に對して平和の交通をなし、國內に於いて生命財産の安固を保證すれば足るとなした。租税を増徴して補助金を出さんよりも、軍事費行政費を節約して負擔を軽くすべし、外國貿易上にも自由貿易を行つて輸出入の障害を取除き、英國をして世界の産物及資本の中央市場たらしむべしと主張した。彼等は大なる輸入が必ず大なる輸出を伴ふべきことをよく知つて居たのである。そこで彼等の自由貿易主義は地主貴族が唯一の牆壁と頼んだ所の穀物關稅までも撤廢せしめなければ止まなかつた。大體に於いて十九世紀の國策は自由黨が之を導き保守黨は唯其急進を抑へつゝ結局は引ずられて行つたといふ形である。唯彼等は國家の統一といふ點に於いて保守黨に及ばざる所ありて十九世紀の末には帝國主義の人氣が盛になつた爲めに保守黨が反つて自由黨を先導する様になつたこともある。併し此時までには兩黨の間に人物の入代りも度々あり、且其根本に於いて地主と實業家との階級的區別が益々弱くなつて、漸く唯一體の有産階級となりつゝあつた。即ち地主は同時に株主であり、株主も亦同時に地主であるから、利益代表の基礎が薄弱になつたのである。地主貴族は昔コブデンやブライトの如き實業家の代表者と同じ宴席に列することさへ嫌つたが後にはバーミンガムの機械商たるチェンバレンや、グラスゴウの鐵商たるポナーローを黨の首領として仰ぐことゝなつた。

然るに實業家階級が發達すれば之に使用さるゝ労働者の階級も亦發達するのは當然である。而かも此等の労働者は昔の小作人や作男とは大に人物を異にして居る。英國は昔から大地主の國であり、大農制の國であつたけれども、農業労働者は概して智識も氣力も幼稚であつたから地主が獨り社會の指導者を以つて任ずることが出来た。又彼等は真正なる温情主義の理解に於いて町人に勝さつて居た。所が大工業と共に生じた都會の労働者は常に最新文明の刺戟を

受けて居るので中々簡単に扱ふことは出来ない。彼等は早くも實業家の自由平等主義を呑込んで其經濟上政治上の要求を出した。是が所謂労働問題の起る所以である。彼等は既に一八三二年の改革に際して實業家のみ參政權を與へられ、自分等の取残されたのは不當であるといつて普選運動を起した。而かも其時には選舉權を得た上で政權を労働者の手に獨占せんとする革命氣分が漲つて居た。所謂チャーティスト黨といつて十幾年の間英國の朝野を騒がしたのがそれである。併し此運動は結局失敗に終つた。而して労働者は新たに労働組合運動を起して先づ經濟的に其地盤から築き始めた。グラッドストンを初めとして自由黨の政治家は自由主義を以つて彼等の政治的活動を導き、彼等に教育機關を與へ、且參政權を得せしめた。彼等の代表者は議會に於いて漸次に其數を増したけれども、皆自由黨の左翼となつて居た。併し彼等は終に單なる自由平等を以つて満足せず、進んで漸進的社會主義即ち社會政策の實行を要求し、二十世紀に入つては自由黨から離れた獨立の政黨を設けることゝなつた。是が今の労働黨である。彼等は最早昔のチャーティストの如き烏合の衆でなく、有力なる労働組合に其基礎を置く所の堂々たる組織體である。彼等は其實力を自信するが故に革命的輕舉を爲さず、建設的經綸の何者たるかを知るが故に他黨との協同をも辭せぬ。我國の労働者の如く議會主義の臭をかいたのみで反議會主義を高唱する様な輕卒は敢てしないのである。そこでロイド・ジョージは彼等の社會政策の或者を採用して、暫く彼等と相結んで自由黨の天下を維持した。一時自由黨は労働黨を併吞して自ら生れ更るかと思はれた。所が一九一四年の大戰爭爆發の爲めに形勢は幾度か轉回して自由黨は分裂し、之と反對に労働黨が肥えた。自由黨の分裂は首領の意見の扞格に因るに非ず、寧ろ其地盤が保守黨と混同したからである。彼等の中の急進派は既に労働黨に走りつゝあり、労働黨は其門戸を開放して精神労働者を迎へつゝある。一九二二年十一月の總選舉は或は英國政治史上の血を流さざる革命として後世から見らるゝかも知れない。

英國勞働組合の現状

— コール氏及ブランシヤード氏の近著紹介 —

勞働組合は其祖國たる英國に於いても尙ほ發達の頂點に達しては居ない。即ち今日でも決して一定不變の制度となつて居るものでなくして、僅々數年の間にも種々の重要な變化を生ずるのである。従つて勞働組合を研究するには絶えず其新しき形態や新しき精神に注意しなければならぬ、ウェツプ氏の『勞働組合史』の一九二〇年版に依つて吾人は最近三十年間の變化を辿る便宜を得たけれども、同氏の筆の書き盡さざる事項があるのみならず大戦中及大戦以後の變化は頗る迅速にして且多端であつたから、其最近の狀態を今一應鳥瞰圖的にして見る必要がある。私がこゝに紹介せんとする二書は此必要を充すものだと思ふ。

G. D. H. Cole, Organised Labour. 1924. は著者が一九一八年に書いた Introduction to Trade Unionism を書直したといふけれども、實は全く新しき書物となつて居る。重要な統計の附録を除いて一五一頁の小冊子であるが、現今この問題に關して第一の權威たる人の書いたものであるだけに豊富なる材料がよく消化されて簡單に取扱はれて居る。此書は六年前の舊著と同じく主として勞働組合の形態を取扱つて居る。その目録は第一部、歴史・第二部、構造・第三部、管理・第四部、内部の問題・第五部、運用・第六部、國家との關係に分れて居るが、第二部以下第四部

までは組織又は構造に關する記述であつて、それが全頁數の三分二弱を占めて居る。かくの如く組織の問題が重要視される理由は申すまでもなく英國の勞働組合が或は職業別、或は産業別と、種々の標準の下に會員を集めて居る爲めに領分の重複を生じ、たゞに繩張争ひ demarcation disputes を惹起するのみならず、僱主に對抗する場合にも類似の組合間に協定を要するやうな不便を見て居ることである。而して特にギルドソシアリストたる著者から見れば舊式職業別組合は一部の高級熟練勞働者が自助自衛の手段たるに止り、勞働階級全體の連帶 Class Solidarity を缺いて居るからは未だ勞働組合の眞諦に達せざるものである。勞働組合をして將來の社會組織の組成分子たらしむる爲めには單純なる自助自衛の目的、即ち職業的利己心を脱した所の産業別組合に改造しなければならぬのである。従つて組織問題が現下の最重要問題と觀ぜらるゝのであらう。

コール氏の新著の緒論をなす所の第一部は英國勞働組合の二百餘年間の發達を極めて簡潔に十四頁の中にまとめたものであつて、第二部以下の精細を極むるとは全く反對にたゞ粗枝大葉のみを摘出して前後の關係を明かにすべく勉めたものである。著者自らいふ如く此一章は「讀者をして別に勞働組合の歴史を研究するの勞を省かしむるものなかくして、そのやうな研究を爲さしむる爲め或要點を知らしめ、組合運動發達史上の主たる轉回の痕を指摘せんとするものである」。しかもその意味に於いて他に比類なき傑作である。本書の他の部類は或は一度讀めば充分であるだらうが、この一章は反覆して讀むべきものである。私は之だけを他の部分から切はなして獨立の論文として味つたらよいと思つたが、近頃聞く所に據ればそれが別のパンフレットとして刊行されたといふことである。實にさもあるべきことである。

次に近頃面白く讀んだのは Paul Blanshard, *An Outline of the British Labour Movement*. 1923. である。此書の著者はコール氏の如き有名な人ではない。私も何のやうな経歴をもつた人かを知らないのである。併しアメリカの労働運動者であつて、自分が數個月間英國にあつて調査したことをアメリカ人に語るために本書をかけたことだけはヘンダーソン氏の與へた序文等に依つて知り得られる。私の想像する所では著者は眞の労働者であつて机上の學問は餘り深い方でなく、實際の経験に依つて労働問題の要點を體得したといふやうな人であらう。文章には幾分整頓しない所があるが、之に反して事物の核心を擷んでそれを巧みに説明して居る。僅か百六十八頁の内によくも是だけ多岐に亙る事項を書き得たと思ふ。頭の悪い人は多くの書を読んで益々五里霧中に彷徨するが、頭の良い人は初めから捕ふべき要所を捕へてかゝるものだ。

本書はコール氏の書の如き新しき研究ではない。全く書名の如きアウトラインであり、英國労働運動の輪廓を示すものである。全部で四十章から成り、殆どあらゆる問題に觸れて居る。先づ筆を労働黨の現勢に起し、同黨の根本主張たる議會的社會主義の諸政策を説き、轉じて労働組合の構造を敘し、其傭主に對する態度を語り、其法律關係を明かにし、更に婦人の労働組合に論及し、又轉じてホイットレー評議會、失業保險制度、協同組合、建築ギルド、労働者教育の大綱を示し、農業に於ける労働組合に觸れ、社會主義の理想に終る。即ちこの書を読んでその全部を理解すれば英國労働運動の全部に通曉することゝなるであらう。但し本書は労働問題の何たるかを全く知らない人に初歩の智識を與へるといふよりも、寧ろ一通りの智識を有する人が疑問を生ずるやうな事項について適切な解答を與へるものである。私は之を日本の學生諸君に薦める意味で現に美濃口時次郎君に翻譯を託してあるから、それを近く街頭に

出すことができるだらう。

三

序を以つて私が右二書を讀過した後に記憶に遺て居た二三の事實を加へて見る。

先づ現在の英國勞働組合の實力について述べる。大戰争中及大戰争直後の好景氣時代に組合員の數は頗る急速に増加した。私が『英國産業革命史論』を書いた時に一九二〇年の統計を掲げて組合員總數六百萬として置いたが、コール氏は同年末の總數八百五十萬といつて居る。然るにそれは一九二二年末には五百五十萬に減じ、一九二三年末には更に五百萬に減じた。是はいふまでもなく大不景氣の影響であつて、一九二三年以後にはまた増加の趨勢を恢復したらしい。しかも同年の最低五百萬を一九一三年に比すれば百萬の増加であり、一九一〇年に比すれば二百五十萬の増である。此の如き急激なる増加の例は之を前にして一八七〇年代及一八九〇年代に見ることができのみである。併し現在の組合員數五百萬を男子勞働者の總數に比較すればまだ四割五分にしか當らない。女子の勞働組合員に至つては女子勞働者の總數に對して僅かに一割七分を占むるのみである。

然れども右の數字だけでは英國勞働組合の實力を判斷するに不充分である。何となれば英國勞働者にして組合に加入せざるものゝ内には未成年者が多く含まれて居る。それから重要産業の大部分は既に殆んど完全に組織されて居る。成年男子勞働者にして強大なる組合を組織するに至らざるものは農業及商業の勞働者並地方的集中の不完全なる小工業の勞働者である。農業に於ける勞働組合は一九一〇年に僅か四千人、一九一三年に二萬二千人であつたが、戰爭中穀物生産奨勵法及農業最低賃銀法の影響で一時二十萬まで激増したが、一九二三年には四萬五千に下つてしまつた。現在組織の最も發達せるは炭坑であつて、坑夫聯合會の會員は實に八十萬に達し、炭坑従業者の三分の二を占め

て居る。坑夫組合の主力は地下労働者である。地上労働者は機械工、コークス工、電気工、機關夫等の組合に参加してゐるものが多い。次に重要な組合は鐵道從業員の組合である。此組合には三個の大組合があつて未だ統一さるゝに至らないけれども、三組合の會員總數は四十七萬に達してゐて、從業員總數六十八萬に對し三分二強に當る。その次には機械及造船職工の組合であるが、此方面に於いては今日尙種々の組合が同一の地盤に競争しつゝある。その中で最重要なるは合同機械工組合で、其會員二十五萬六千を數へる。其以外に二萬人乃至九萬人の組合が數個あり、それより小なるものが非常に多くある。

右の外有力なる組合として建築工の聯合及鐵鋼製造者の聯合があるが、この二は何れも一九一七年に設けられたものであつて、形の上では一個の大組合といふよりも寧ろ多くの職業組合の聯合である。併し傭主に對する交渉等に就いては既に一致の行動を取つて居る。此他印刷業、木綿工業等にも強固な職業的組合があるが、まだ統一して居らない。

不熟練労働者中運搬夫は二三の大組合を組織し、阜頭人夫及馬力車夫の組合は相當に有力なものである。機械工場及建築業にも非常に多くの人夫が使用されて居るが此等のものは一般の人夫組合に加入せるもあり、又各産業に關する専門の人夫組合に入るもある。概して此方面の組織は近年著しく進みつゝある。

四

英國の労働組合は他の諸國に於ける如く有力なる中央機關の指導の下に組織されたものでなくして、各地方、各産業各職業に於ける個々別々の形勢に應じて發達したるが故に組合の地盤の交錯せるものが甚だ多いのみならず、各組合内部の構造も頗る區々になつて居る。労働省の統計では全國の組合の數は一九二二年に千百九十個と報告されて居

るが、その數へ方は頗る疑はしきものがある。一の團體が多數の組合の聯合に過ぎないか、又は既に單一の組合となつてゐるか、判斷に苦しむ場合が少くない。或場合には支部と稱するものが共濟團體として獨立の財産を有してゐながら、傭主に對する交渉に就いては全く本部の下に統一されてゐる。

併しながら近年の大勢は漸次聯合及合同に傾いてゐる。現在十個の團體が、各十萬以上の會員を含有し、勞働組合總數の半分を占め、其他の十三團體が各五萬以上の會員を擁して總數の五分の一を領して居る。故に千以上の組合があつても、さほどに勢力が分裂してゐるわけではない。しかもこの組合數は組合員數の増加と反對に減少しつゝある。一九一〇年には二千、一九一三年には三千七百五十に上つたのが一九二〇年に千四百二十五になり、一九二二年に千百九十まで下つたのである。

組合の地盤は職業即ち技術上の熟練の種類を基礎とするものと産業即ち生産物の種類に依るものとある。例へば鑄物工、鍛冶工、銅工、鉛工、大工、石工、左官等は夫々特殊の技能を具へたものであつて、従つて其技能を習得するために同様の年期教育を受けなければならぬと同時に現在同様の勞銀を受け同様の生活程度を維持してゐるから共濟團體としては此等のものが別々の組合を作ることとは便利である。且古くから存在して居た職業には傳統的な同職の親しみがある。併しながら産業組織が發達して來た今日では此等の職業は同一の企業内にあつて協業しなければならぬ。例へば一つの造船場には右に擧げた所の諸職は皆船舶といふ一種の生産の爲めに働くのである。そのみならず造船場には不熟練工の部類に屬する所の人夫が多數に働いて居る。従つて造船場に於いて爭議の起つた場合に此等のものが合同してゐないことは甚だ不便である。特に熟練工と不熟練工とが分裂して居れば勞働階級全體のソリダリテを破ることになる。そこで職業組合主義クラフト・ユニオンズに對抗して産業組合主義インダストリアル・ユニオンズを主張するものが多くなつて來た。けれども前述の如き教育の程度や生活の程度の差別が中々勢力を有つて

るからこの意味の組織變更は中々困難である。

現今産業別組合の典型といふべきものは坑夫組合及鐵道従業員組合である。石炭坑内に働くものゝ間にも分業があるけれどもその技能の差別は大工と左官との差の如く裁然たるものではないので地下労働者は擧つて一團となるのに都合がよかつた。併し炭坑附屬の機關夫や、修理工や、其他地上勤務のものは今でもすべて坑夫組合に加入してはゐない。加入させるとすれば他の組合との繩張り争ひが起る。鐵道にしても運轉手、火夫、掃除人、驛夫、書記等の分業がある。一九〇六年以來鐵道従業員全部を網羅せんとする大組合が出来たけれども、運轉手及火夫の一部は彼等の特有の組合を解散してはゐない。書記も別個の組合を維持して居る。

職業組合の數は非常に多くあつて、其内有力なるものは機械製作及建築業に關するものである。機械の方は鑄物、鍛冶、仕上其他の類似した職業が合同して居るが、建築の方は大工、石工、左官等は別々の組合を作つて居る。此等の組合が合同すればそれぞれの産業に於ける上層だけを纏めることができるけれども、其下層を爲す所の不熟練労働者即ち人夫がまだ除外された形になる。その人夫等が一産業だけに専門に働くものと種々の産業に手傳として參加するものとに分れて居るので、後者は現に多くの産業を貫通する所の組合を作つて居る。それに大工、指物師、塗工の如きは建築にも造船にも働くから、少くとも此二産業を貫通する所の組合となる。

右の他職業にも産業にも依らざる特異の區域を有つた組合として官業労働者の組合、市營事業労働者の組合、協同組合に使用せらるゝものゝ組合などがあり、又婦人の組合がある。此等のものが職業組合とも産業組合とも地盤を爭ふことになる。その複雑なる地盤交錯の状態を説明する爲めにコール氏の圖表ができて居る。それを見るとこの組織問題が今の英國勞働組合の重大問題たることはよくわかるのである。

五

次に述べたいのは此等の多種多様な勞働組合が全體として如何なる聯合を爲して居るかといふことである。

まづ勞働組合運動の中央機關として勞働組合總會トレード・ユニオン・コンGRESSがある。これは一八七〇年以來毎年一回開催せられ、勞働者の運動に關する諸般の問題を取扱ふ。或時代には總會が主として政治問題を取扱つたこともあるが、今では政治問題は勞働黨が専門的に取扱ふことになつた。總會は組合と傭主との關係、組合と組合との關係、組合と組合員との關係を討議決定すべきものである。一組合の争議でもそれが勞働運動全體の盛衰に影響するやうな重大なものであれば總會の問題になる。又前に述べた組合の地盤の境域を定め、進んで合同を促進することも總會の任務である。然るに總會は從來一時的の會合であつて一定の常設機關としては議會委員を有するに止まつて居たが、總會の重大な任務を果たすために一千人の組合代表者が數日に互る討議をするだけでは不足である。そこで一九二一年に總會附屬の一般評議會ゼネラル・カウンシルを設けることになつた。此評議會は勞働運動の參謀本部と稱せらるゝものであつて、場合に依つては總ての勞働組合を動員するだけの力を有する。評議員は三十二人あつて六部分れ、各部が産業の或方面を代表して居る。その内の一は坑夫と鐵道従業員と運搬夫とを代表して居り、先年一旦成立して後に解散された「三角同盟」と同様の形を備へたものである。此三角同盟が眞に結束を固くして活動すれば英國産業全體の死命を制することもできるわけである。

勞働黨が二十世紀の初頭に成立してから著しき發達を遂げたことは周知の事實だから之を略するが、その内部組織に就いてブランシャード氏の説明を引用して置く。勞働黨の組成分子は第一に勞働組合である。黨の經費の殆ど全部は各組合が其組合員一人に付毎年三片の寄附を爲すに依つて得られる。一人に付三片は五百萬の組合員に對して實に六

萬磅即ち六十萬圓となるのである。しかもこの金は各組合員の組合に對する會費の内から支出するのであるから集金の手數を少しも要しない。併し勞働黨は勞働組合のみから成立するものではない。其外にフエビアン協會及獨立勞働黨が加はり、更に智識階級の個人黨員が加はつて居る。昔は勞働者が智識階級に對して反感を有して居たけれども、勞働者の教育が進んだこと、及高等教育を受けた人々が智的勞働者として勞働運動に参加せんことを望むやうになつたことに因りて智識階級は黨内に勢力を有するに至つた。

勞働黨は毎年總會を開き、そこで諸の組成分子を代表する委員の投票に依つて二十三人の執行委員を選任し、此等のものが常設の中央機關となる。併し勞働黨があまり中央集權的にならない爲めに幾多の地方支部が存在して居る。各地方支部には前述の組成分子たる諸團體の地方支部が結合して居る。それ故に黨員は一方には所屬組合を通じて本部に連絡を有すると共に他方には黨の地方支部を通じて本部に對し發言權を有する次第である。

以上の如くにして勞働組合總會と勞働黨とは夫々勞働運動の一方面を受持つことになつてゐるが、此二種の機關は相互に孤立してはゐない。即ち組合總會の一般評議會と勞働黨の幹部と勞働黨選出の議員團と、この三團體の代表者十五人を集めたる全國合同委員會が設けられた。それが英國勞働運動の最高幹部である。尙組合總會及勞働黨は其主張を精確なる智識の上に立てなければならぬ故に四個の有力なる智的機關を設けた。それは第一、調査及報導部、第二、國際部、第三、出版部、第四、法律部である。團體交渉をなすに統計を要するときは調査部が之を供給する。交渉が破裂して爭議になれば出版部が諸の大新聞社に對して事件の真相を明かにした刷物を送つて輿論を引付ける。戦前に英國の勞働組合は國際的運動に對して冷淡であつたが、それでも永い間アムステルダム國際會議に英國の代表者を送つて居たものがある。それは英國の勞働組合聯合會と稱する團體であつて、本來は勞働組合の營む相互保險の中央機關である。併し戰爭中から勞働組合總會が國際的運動の必要を認めて右の會議に参加することゝなつた。

英國勞働黨が議會の立法手段に依る漸進的社會主義を取り、英國勞働組合が、事務的な團體交渉に依つて雇傭條件の改善を企圖することは一般に知られたことである。戰爭中に共產黨が成立し、勞働黨に加入を申込んで拒絶されたけれども、その黨員は個人として常に直接行動と暴力革命を主張し、絶えず勞働者の會合に出入してその絶叫を繰返して居る。けれども共產黨員の數は千を以つて數ふるに止り、總ての組合は皆眼前の問題たる時間の短縮、賃銀の引上等を主要の任務とする。

團體交渉は昔は傭主側の反對を受けたが、現今では英國の傭主にして之を拒絶するものは極めて少い。米國におけるオーブン・シヨツプの主張の如きものは英國には最早問題にならない。併し戰爭以前には鐵道會社や汽船會社で團體交渉に反對したものがあつたのであるから、此原則の完全に承認されたのは極めて新しいことである。そこで團體交渉が原則となつた以上は傭主側と勞働者側と相會する爲めに一定の規律的な機關を必要とするやうになる。最初は何か事件の起る度毎に隨時に會合するが、やがてそれが常設的協定機關即ち所謂和解局のやうなものになる。交渉の範圍も初めは地方的であつたのが、漸次全國的になる。その全國的の協定機關の發達は戰時及戰後の著しき新現象である。戰爭中屢々論議された所のホイトレイ評議會なるものもその最初の理想たる勞働者の産業管理を實現することはできないけれども、團體交渉の機關として實績を挙げつゝある。

團體交渉の題目は勞働時間其他の雇傭條件に及ぶものもあるが、多くは賃銀の問題を主として取扱ふのである。而して交渉が圓滿に進行せざるときは公平なる局外者の仲裁を請ふこともあり、又ストライキ又はロツク・アウトに訴ふることもある。故に和解局の方法は一八六〇年代の創始時代に考へられたやうにストライキを全然無用にすること

はできないけれども、避け得られるだけは之を避けんとする所の努力が試みられるのである。

和解局が決定する所の條件は其關係産業に於ける最低限である。例へば和解局は毎數箇月に標準賃銀を協定するが實際個々の職工にして技能の優れたものは標準賃銀以上を得るものが多々あるわけである。この標準賃銀の立て方に於て近年大問題となつて居るのは出來高拂にするか時間拂にするかの件である。傭主側では生産量を増加して機械其他の設備を充分に利用し、生産物一個當りの生産費を節約せんが爲めに出來高拂を主張する。之に反して労働者側では所得の最低限を確保せんが爲めに時間拂、特に日給制を主張する。こゝに出來高拂といふのはすべて労働の成績に依つて賃銀を定めることであつて、其内には單純な個數拂ピース・レートもあり、ローワン式とかハルゼー式などのプレミアム・システムもある。仕事の性質上同一の過程を幾度となく繰返すやうになつて居て、しかも其度數の多い程成績も多くあがる場合には出來高拂も日給制も結果において大なる差はない。それは木綿工業、製鐵工業等の場合である。炭坑でも特に炭層の貧弱なるものにぶつからない限り困難な問題は起らない。併し機械製造の如きは必ずしも同一型の機械を無數に繰返して作るものでない。その場合に傭主側が目分量で一日の成績を豫定する條件の下に賃銀を協力して見ても實際は全く傭主側の專斷になるから、労働者側では一日の所得について不安を感じるのである。即ち此場合には出來高拂と同時に一日の最低限を保證せしめんとする。それが傭主側から見れば出來ない品物に對して賃銀を支拂しめらるゝ場合を生ずるから容易に承諾し兼ねるのである。

以上は賃銀の定め方であるが、その内の何れの方法を用ふるにしても、永久に之を一定して置くことは勿論できない。傭主からいへば景氣の好いと悪いとに依つて之を上下しなければ計算が取れない。労働者から見れば生活費即ち物價の高いと低いとに依つて影響を受ける。そこに一定の規則を設けることができれば團體交渉の仕事は簡單になるわけであるが、それは極めて困難である。ブランシャード氏の報告に據れば英國では數年前から一種のスライデン

グ・スケールが流行して居て、現に二百七十五萬人の勞働者は此方法の下に半ば自動的に其賃銀の高低を調節することにして居る。そのスライデング・スケールは勞働省の發表する生活費の指數に基くものである。即ち生活費の指數が上れば賃銀も上げられ、生活費の指數が下れば賃銀も引下げられるのである。現に建築、鐵道、纖維工業、金屬工業等には此方法が行はれて居る。鐵道にありては生活費指數が五ポイント昇降する毎に一週の賃銀を二十仙（米貨に直して）づゝ増減するものとし、一年中四回定期に更新する協約を成立せしめた。一九二三年の夏諸所の船渠にて傭主側がスライデング・スケールに基く賃銀引下げを申出した時船渠の仲仕中に組合本部の承認を受けずして勝手にストライキを行つたものがあつた。併し組合本部は協定に従つて傭主の申出を承諾すべきことを所屬組合員に勸説してストライキを抑へた。

スライデング・スケールは勞働者の生活程度を一定せしめるものであるから、その向上を妨げるといふものもあるけれども、賃銀協定に關し紛争を避け得るの利益があるから、數年間の實驗に照らし一般に好感を以つて迎へられて居る。勞働黨も一九二三年に公式に其功績を認めた。

此に例外を爲すものは坑夫組合である。一九二一年の大ストライキの時坑夫は敗北して賃銀協定の新原則を承認したが、此新原則は坑夫側の利潤の多少に應じて賃銀を昇降せしむる所の別種のスライデング・スケールである。それは炭坑の總收入中から先づ一定の標準賃銀と、諸費用とを引去り、更に標準賃銀總額の一割七分を標準利益として坑主に與へ、然る後尙殘餘あるときはその殘餘の八割三分を坑夫に支拂ふのである。故に勞働者は最低賃銀を保證されて居るが其以上に受取る分は炭坑の利益の多少に依つて定まるのであつて、生活費とは關係がない。パンが大に高くなつて居ても石炭が安ければ賃銀は安いのである。一八七〇年代に英國の炭坑に流行した所のスライデング・スケールは石炭の價格に比例して賃銀を昇降せしむる約束であつて、その時には最低賃銀の條件がなかつた故に石炭の暴落

に際して坑夫は非常な苦境に陥り、終に協定を破棄したのである。現行の法は昔のスライディング・スケールに比して勝るけれども、労働者の所得を商品の價格と同一原則に依らしむることは英國労働組合の主義に反する。

労働時間に關する工場法の規定は女子及少年労働者に適用さるゝものゝみであるけれども、有力なる労働組合が有力なる傭主組合と協定した所の労働時間は全く法律と同一の權威を以つて行はれて居る。その協定時間は戦後大抵八時間労働即ち一週四十八時間の原則に従ふことゝなつたことは著しき事實である。坑夫は七時間労働の協定に成效し、現に一週三十九時間を平均としてゐる。建築業にては一週四十四時間と定められた。

七

コール氏は労働者教育事業の異常なる進歩を近年の著大なる事實の内に數へる。オクスフォードに有名なラスキン・コレツヂの設立されたのは一八九九年のことであり、労働者教育協會の組織されたのは一九〇三年のことである。併し労働組合が自ら此等の教育事業に参加したのは新しい事であつて、主として大戦争後に屬する。

労働者教育協會は過去二十四年の間に大なる發達を遂げ、現に全国各地に頗る多くの學級を開き、その學生の數は三萬に達する。協會の會員は從來教育團體及篤志の個人であつたが、今では多くの労働組合が之に参加し、労働組合總會も加入して居る。又労働組合の支部にして協會の地方支部に加入せるものが多くある。協會は又中央政府及地方自治體から補助金を受けて居る。高等教育の爲めには諸大學と共同して委員會を設けて居る。又協會は特殊の労働組合の爲めに學級を組織する所の委員會を設けたが、現在この委員會に出資を爲し居る組合は六七個あつて、其内には鐵道書記組合、郵便局員組合、鐵鋼製造業組合がある。

ラスキン・コレツヂは英國の普通の大學と同じく寄宿制度を取り修學年限の間學生は全く其職業を離れて専心勉學

するのである。従つて學生は全部給費生であつて、中には勞働者教育協會又は勞働組合から給費を受けるものもある。ラスキン・コレツヂは一九一〇年以來勞働組合及協同組合の管理する所となつた。是はコレツヂに取り重大なる組織變更であつたが、その事の起る動機は學校の前管理者が學校長を免職したるに對して學生のストライキを惹起したることであつた。然るにその時ストライキを起した學生の一部は去つてロンドンに別個の「勞働大學」を起し、非常に苦心した結果二三の勞働組合の援助を得て其事業を續けて居るのみならず、各地方に支部を設くるに至つた。此大學はマルクス主義を標榜し自ら宣傳機關を以つて任じ居る。勿論政府から補助金を受くことはできない。

かくの如くにして現今英國には純粹の教育機關たる勞働者教育協會と宣傳機關たる勞働大學とが對立して後者は前者に挑戦して居る。併しコール氏は其兩者の對立を無意味なものと觀察するらしい。兎に角英國の勞働者教育は既に其實績を擧げ、夜學に依つて歴史、經濟學、社會問題等の智識を得た人々が勞働者の輿論を指導しつゝある。(一九二五年五月三十一日稿)

戰時經濟の輪廓

一

本年七月八日蘆溝橋事件に端を發した日支間の紛争は、一時は「北支事變」として局地的に解決し得られさうに見えたが、事實は豫期に反して約一ヶ月間に急速に展開して兩國間の全面的衝突となつてしまつた。形式上は「支那事變」として取扱はれながら實は日本國民の歴史に一新時代を畫すべき大規模の戦争が始まつたのである。爾來今日まで百數十日の間、我忠勇なる軍隊は海に、陸に、空に、あらゆる危難を冒して敵軍を掃蕩し、北には既に廣大なる四省の地域を占據し、南には幾多の堅牢なる陣地を奪つて上海を完全に孤立せしむることゝなつた。その進軍の迅速にして勝利の確實なるを見ては、今更ながら皇軍の威力を讚嘆せざるものはない。獨り我國民が讚嘆感謝するばかりでなく、諸外國人をして敬服せしめたことは明かである。しかしながら支那には所謂長期抗戰の途なきにあらず、又第三國の動きもあることなれば、前途は決して簡單でない。本文が印刷されるまでに如何なる形勢の變化が來るかさへ豫想は出來ない。國民はその形勢の變化に對して飽くまで沈着慎重に行動するの外はない。

申すまでもなく、近代の戦争は軍隊の武力のみによつて勝敗を決するのではなく、全國民の財力、智力、精神力を動員し、戦争といふ唯一絶對の目的に集中することによつて始めて必勝を期し得るのである。今回の事變において既述

の如く戦局の展開如何に拘らず、相當長期に亙つて大軍を派遣しておく必要ありとすれば、經濟財政上の問題は尙更
 非常な重要性をもつこととなる。七十二議會は二十億の軍事費を通過したが、次の議會には更に同額或は同額以上が
 要求されるであらう。概算して二十億は昭和十一年の一年間における公債、社債、株式の發行高に相當するから、我
 國民は來るべき一年に平常の三人力又は四人力を出さなければならぬこととなる。これは決して容易なことではな
 い。

如何にしてこれを爲すかといへば、勿論魔術のあらう筈はない。第一に平時他の目的に用ひられてゐる力を軍事目
 的に轉用すること、第二に平時には利用されてない力を持出して有効に働かせることである。つまり所謂統制經濟の
 方法によつて全國民のもてる力を戦争の遂行といふ一目的に向はしめ、しかもその力を合理的に無駄のないやうに
 使ふことである。但し統制經濟は、平時でも、戦時でも、中々の難事であつて種々の手違ひを生じ易いのであるが、
 戦時においては、もし國民全般に盡忠報國の精神が旺盛になつてゐれば、平時に行ひ得ざるやうなことも實現され
 であらう。これは歐洲大戰の當時交戦諸國において見られたところであるから、世界無比の愛國心を有する我日本國
 民には當然出來なければならぬ。

二

戦時經濟の問題は、要するに戦争に必要な力を作ることである。戦争に必要な力は第一に直接間接戦争に従事す
 る多數の人である。第二にはこれ等の人を集めて、武装せしめて、戦地へ送るための資金である。第三には武装及給
 養に必要な物資である。歐洲戦争の當時英國軍隊の首脳たりしキチナー元帥が戦争に必要なものは三つのエム即ち
 men, money, materials であるといつたのは頗る要領を得た言と思ふ。

暫く人の問題を後に廻すこととして金と物の問題を考へて見る。金は物を買ふために集めるのであり、又金さへあれば物は何でも買ひ得られるから、この二つの問題を區別する必要はなさうに考へられるけれども、實はさうでない。金があつても戦争に必要な物が充分の數量だけ買へるとは限らない。不換紙幣を用ふる限り、政府が金を作ることは寧ろ容易であるけれども、金だけあつて物が足らなければ、徒らに物價を高くするばかりである。徒らに物價を昂騰させることは即ち悪性インフレーションであつて戦時經濟上これ程恐るべきことはない。我國では六年前滿洲事變直後に忽ち十億の赤字公債が現はれた時、その結果がインフレになりはせぬかといふ問題について危殆を感じるものが少くなかつた。然るにその後眞のインフレは起らずして經濟界は好景氣になつたから、人々は赤字公債を恐れずして却つて歓迎するやうな氣持になつた。しかし過去六年間の事情と現在の事情とは決して同一ではないのであつて、支那事變がなくともインフレに對する警戒を一層嚴にすべき時期が來たと論ずるものもあつた。それ故戦時經濟の進行に際してインフレーションに陥らないやうにすることは當局者の最大の苦心が存するところである。

如何にして金を作るかといふことは如何にしてインフレーションなしに金を作るかといふことである。政府が軍事資金を作る手段は租税と公債と紙幣の三つであるが、それ等を如何に組合せるかが問題である。租税は國民一般の所得として分散した金を集めて來るのであるから、これならばインフレも起らず、後世に負債を遺すこともないけれども、昔から租税のみで大規模の戦争を賄ひ得たためしはない。幾分の増税をすると同時に巨額の公債を發行するのは經濟界を攪亂せざるために必要の措置である。歐洲戦争の時最も堅實と稱せられた英國の財政方針でさへ巨額の公債を發行する毎にその利子に相當するだけの増税を行ふことであつた。しかし全然増税なしに戦争してもよいとはいはれないので、こゝに大なる問題がある。

しかし公債を募集するにも二つの行き方があつて、それが通貨及金融に及ぼす影響は非常に異なつてゐる。第一は

直ちに資本市場において公債を賣出すのであつて、これならインフレの危険はないが、金融を壓迫することは免れない。第二は政府が發行した公債を先づ中央銀行をして引受けしめ、中央銀行が後に至つて徐に市場に賣放つのであつて、近年我國の政府が實行して好成绩を收めたところの方法である。第二の方法は實質的に紙幣發行を行ふのであるが、中央銀行の公債賣出しが實現されれば一旦放出された紙幣が銀行に還流するからインフレにはならない。けれども資本市場の公債消化力が不充分であればインフレになる。それ故これは危険な財政策であるとして従來排斥されてゐたのである。實際において近年の我國では成功したのであるが、しかし前記の危険があることは否定し得ないところであつて、戒心の上にも戒心を必要とするであらう。

單なる紙幣發行は何故恐るべきかといふに、悪性インフレに陥るからである。紙幣發行によつて物價を騰貴せしめ、物價騰貴に應ずるために更に更に紙幣發行を行ふの餘儀なきに至れば、利子や恩給に衣食するものは忽ち無一文の貧者となり、銀行資金は涸渇し、投機のみ旺盛となり、半日でも現金を懐にすることが危険になる。社會經濟の根本が破壊されるのである。

公債募集の金額が巨大なる時は前記第一の方法に據ること困難であるが、第二の方法に據るもまた危険である。その困難や危険を輕少ならしむるためには資本市場を統制する必要がある。即ち戰爭の目的から見て緊切ならざる使途に向はんとする資金を公債及び軍需關係の事業資金に轉向せしめるのであつて、去る九月の七十二議會を通過した資金調整法は即ち現政府の對策である。民間において新資金を募らんとするものは政府の免許を必要とし、政府は事業の種類により急を要するものと然らざるものとを區別して大體の標準を立て置き、一口毎に許否を決定するのである。この統制事務は非常に繁雜であつて満足な運用を見ることは出来ないであらうが、しかし戰爭が長期に亙つて進行すれば必ず相當の統制を要することは前述の理由から見て避くべからざるところであらう。

かくの如く資本市場を統制して公債の消化力を培養しつつ、又軍事上の消費によつて社會に散布されるところの通貨を物價騰貴の方向に向はせないやうにするのが、戰時財政の急所であるが、それについては翻つて増税問題を考慮する必要がある。適當の時期に増税を行つて消費に向けられんとする通貨を吸収することはインフレを避けるために必要な措置である。吾人は歐洲大戰當時にロンドンの金融業者が一致して増税の必要を政府に進言した事實を回顧せねばならぬ。

三

次には物資の問題即ち戰爭に必要な物を如何にして調達するかである。戰爭の規模が比較的小なりし時代には徵發だけで事は足りたやうである。我國にも明治十五年に徵發令なるものが發布されてゐて、日清日露兩戰役の際にもこの法律が役立つたのであるが、それは要するに軍事上必要な物資は何人がこれを所有する場合にも即時取上げるこゝとが出来た。代金は相當に拂ふこととし、政府が一方的に定めるといふのである。即ち金さへ持つて行けば品物は必要なだけ徵發し得ることを豫想してゐるのである。米が入用なら米市場へ行き、馬が入用なら馬市場へ行つて買ふ。價格は幾分高くなるけれども財政上堪え得るのみならず、民間經濟にも著しき支障を生ずることはないといふ豫想を一應もつてゐるのである。

然るに戰爭が近代的の規模になると、かくの如く簡單には行かない。金を持つて行つても所要の品が市場にないかも知れぬ、といふよりは寧ろないのが普通である。例へば近代の戰爭に使ふ爆藥の分量は平時において想像することもない莫大なものであらう。それ故平時から軍需品の製造に轉換し得るやうな工場を調査しておいて一朝事あるときはその生産設備を軍需品のみに使用させるのであつて、工場の使用につき強制をなし得るやうにする。これが即

ち軍需工業動員法及資源調査法である。我國では大正時代歐洲戰爭の經驗に鑑みてこの法制を設け、それに應じて資源局を設け調査をしてゐたのである。歐洲戰爭の當時には何れの國でもこの點に關する用意は不充分であつたので、戰爭の進行中に industrial mobilization としふ用語が流通するに至つたかと記憶する。

かくの如く軍需工業動員法は以前の徵發法に比すれば進んだものであるけれども、しかしこれを以つてしても不充分な點がある。といふのは、この動員法なるものは主として生産設備を問題としてゐるので、原料の供給については別に考へなければならぬ。然るに我日本においては軍需品の原料の大部分は外國から輸入しなければならぬのであつて、例へば二十五億の軍費總額に對し輸入品が七億乃至九億を占めるといはれてゐるが、こゝに一個の頗る重大な問題を見る。蓋し軍需以外の商品を平常通り輸入しつゝ、尙その上に軍需原料たる鐵、石油、銅、錫等の礦物を盛に輸入したなら、貿易は必ず輸入超過となり、圓爲替は下落する。それは輸入品の價格暴騰を意味し、豫算の實行不可能、インフレの危險を意味する。そこで國際收支を調整して圓爲替の價格を維持することは絶對必要事と見なければならぬ。この問題は支那事變の始まる前の所謂准戰時代において既に憂慮されてゐたことであるが、愈々戰爭時代になれば軍需品の消費が莫大になるから、その影響も頗る重大である。これは戰時經濟の鳥瞰圖の上において紙幣濫發を警戒するのと同程度に重要な事項である。

然らば國際收支は如何にして調整するかといふに、輸出増進か輸入制限の外に方法はない。輸出増進は相手のあることと思ふやうに行かないかも知れない。軍需以外の輸入を制限することは政府の干渉によつて何うでも出来る。そこで政府は「輸出入品の臨時措置に關する法律」を立案して七十二議會を通過せしめた。この法律は條文僅か數箇條の簡單な外形をもつてゐるが、實は非常な權限を政府に與へたものである。即ち政府は時の必要に應じて某々品の輸入又は輸出を制限し禁止することが出来る。又輸入品を原料として使用する工業並にその製品の配給、消費にまで干

渉することが出来る。現に政府はこの法律に基いて二百六十九品目の輸入を禁止し、三品目即ち棉花、羊毛、木材の輸入量を制限し、その他毛織物にファイバーの混用を命じ、又軍需以外の銅の使用を制限することになった。

しかしながらこの法律の運用は中々困難である。第一に法律の目的は輸出が減じないやうにして輸入だけ減ぜしめることであるが、現在輸入品の多くは原料であつて、それに加工することによつて輸出が出来るやうな場合が多い。例へば日本で輸入する棉花は年々七億圓に達するが、その半分強が輸出せられ、半分弱が國內消費に充てられる。軍需品輸入のために棉花の輸入を制限しても、國內消費が減じなければ何にもならない。輸入量が減らされれば價格が高くなるから國內消費は幾分抑へられるに相違ないけれども、その同じ原因は輸出を不振ならしめることは明かである。のみならず制限法の行はるゝに乗じて當業者が不當に價格を釣上げ暴利を收めるやうな事になつてもいい。それ故輸入制限は單なる制限ではいけない。政府は民間と協議して棉花輸入組合を作り、自治統制を行はせやうとしてゐるが、色々複雑なるからくりを要するやうである。

問題は輸出を減らさないで輸入だけを減らさうといふのだから、結局輸入品に對する國民の消費を節約せしめる外はないのであるが、何でも節約しさえすればいいかといへば、さうでもなく、軍需品の供給といふ一の目的を達するために最も有效なるやうに節約の目的物と方法とを選択しなければならぬ。毛織物の製造にファイバーの混用を強制するが如く、技術的に輸入品の用途を制限してしまふのは徹底した方法である。けれども物の種類によつてそれが可能な場合と然らざる場合があるだらう。そこで一步退いて價格の騰貴によつて消費を抑へることになるが、その場合にも簡単に消費税の賦課といふ途を取ることもあり、又數量の制限を行ふこともあり得る。數量を制限すれば課税以上に適確に消費節約の総額を抑へ得るけれども、制限された商品の値上りによつて暴利を得るものが現はれる危険を伴ふ。そこでその商品の配給、加工につき數量的割當を適正ならしめるところの組織を要する。この種の問題につい

ては我國の貿易商や工業家は近年種々の理由によつて經驗を積んでゐるが、中々圓滑には行かない。そこに政府及關係業者の容易ならざる苦心があることゝ思ふ。

軍事上必要な物資の供給を故障なからしむるために、貿易の統制が行はれるのであるが、更にその根本に遡つて考へれば貿易そのものが故障なく行はるゝことは先決問題である。軍事上必要な鐵石油等の輸入が故障なく行はれ、又これ等の物資を買ふだけの輸出が故障なく行はれることは先決問題である。現在の狀態において我海軍は完全に東亞の海權を掌握してゐて、逆に敵國の貿易通路を封鎖してゐるから軍事上輸出入の障害は輕いのであつて、この狀態を維持することは絶對の必要事であること申すまでもない。たゞしこの貿易通路の維持といふ點においては不安なしとしても、第三國が貿易上探るところの政策如何によつては全く不安なしとするとは出来ない。第三國の中でも我國と貿易上の關係密接なる米、英等二三の國々の政策が特に重要な影響を及ぼすであらう。戦局の進行につれて外交問題の益々重要性を加ふる所以である。

四

以上吾人は戦時經濟の鳥瞰圖を我國現時の實情に即して考へて見たのであるが、更に眼界を廣めて他の國々が大戦争を遂行する場合に如何なる問題に直面したかを調べて見れば、そこに幾多の参考資料が見えるのである。何れの場合にも終局の問題は國民の智力、體力、財力を戦争の目的に集中せしめることであるけれども、問題は現はれ方は國情の異なるによつて千差萬別である。こゝには僅かに一九一四—一八年の歐洲における二三の經驗を筆者の記憶のまゝに書いて見る。

戦争が起れば景氣が好くなるか悪くなるかといへば概して好くなるといひ得るだらう。

戦争が破壊的な行爲である限り、何時かその悪影響が来ることは當然であるけれども、戦争の行はるゝ當時にあつては不景氣よりも寧ろ不健全な好景氣を警戒すべきだと思ふ。歐洲戦争は一九一四年八月に突發したが、當時英國では外國貿易が急激に不振に陥り輸出工業に失業を生ずる危険が多分にあつた。けれども貿易は爲替機關の立直しや戦時保険の組織によつて或程度恢復した。勿論戦争の直接の結果として海外販路の一部は消滅したけれども、その代り他の一方に幾十億といふ軍需品の製造が始まつたから、當面の結果だけから見れば恰かも新販路が出来たのと同様であつて、事業界は活況に入り、年末までには不景氣の心配は完全になくなつた。しかしながら労働者の所得が増加し、消費が盛になつたことが、又戦時經濟の一問題となつたのである。蓋し英國は日本以上に外國貿易に依存してゐる國だから、労働者の消費は外國輸入品に向けられた。その結果は現在の日本のやうに國際收支の不均衡になることを恐れたのみならず、輸入船腹の不足を心配せざるを得ないことゝなつた。巨額の軍需品を輸入するためには軍需以外の輸入を制限して船腹の餘裕を作らなければならなかつたのである。

そこで船舶管理を行つたけれども、消費膨脹の傾向をそのままにしておいて輸入を抑制すれば物價暴騰となることは當然だから、その本に遡つて消費を抑制することが必要となつた。その消費抑制策の一は當時自由貿易の傳統を誇つてゐた英國には不似合なる關稅重課であつた。それは一般の消費の目的になる少數の品目に限られてゐたけれども率は重かつたのである。他の一は所謂戦時勤儉運動であつて、専ら少額公債の發行に向けられたのである。政府としては公債によつて資金を獲得する必要に直面してゐたけれども、それだけならば大口の募集で目的を達することが出来たであらう。特に少額公債の賣出しを行つたのは政府が資金を得ることよりも、寧ろ民間の一般消費を抑へるためであつた。民衆の懐にあつて物を買ふために用ひられさうな金をかき集めて物の經濟を調整せんとしたのである。而してそれは又同時に悪性インフレーションの豫防を目ざしてゐたこと勿論である。この政策は政府ばかりの仕事でなく、民間

の各種團體の手で行はれ、國民精神總動員の形態を取つたのであつた。筆者はその頃「英國に於ける戰時勤儉論」と題する小論を『國民經濟雜誌』（二三卷五號及二三卷一號）に寄せたことがある。我國でも最近に郵便局から公債を賣出すことゝなつたが、現在の事情は當時の英國と同じくない。我國で目下最も肝要なるは一般的節約でなくして軍事上必要な品物及び輸入品の節約であつて、一般的には時局關係で特に身入りのよくなつた人々だけが節約すればよいといふ程度であるらしい。勿論節約が不必要に強行されれば世間に不必要な不景氣を生ぜしめ、却つて悪效果を來たすから勤儉節約もことによるのである。

次に我國には恐らく、その必要を感じることないであらうと思ふが、歐洲戰時經濟の一の著しき傾向はレイシヨニング rationing の流行である。或特殊の物資が缺乏したときに、その配給を自由なる流通經濟に任せておけば、地方により又階級によつて過不足を生じ、その間に暴利獲得の機會も生ずるから、各家族に對し人口に應じて品物の供給を割當てることゝなし、割當額以上はたとへ金を拂つても買入れることの出来ないやうに組織するのである。これは平時において食糧品の供給を外國に仰いでゐる國が封鎖を受けた場合などに必要となることなのであつて、その最も大規模なるものはドイツにおけるパンの切符制度であつた（拙著『戰時經濟講話』大正四年）。けれども封鎖を受けなかつた英國でもバターについてはレイシヨニングを行ふの已むなきに至つたのである。我國は幸にして米穀その他の日用食糧品につき平素自給してゐるからかゝる問題は起らないだらうが、しかし統制經濟の原理としてはこゝに示唆を受くべきものがあるだらう。それは物の節約を計るために物の供給を制限するだけでは充分目的を達せざるのみでなくして、却つて價格騰貴の悪作用を生ぜしめる。或品物の價格が騰貴すれば、その物の消費は節約されるけれども、同時に種々の好ましからざる副作用を生ずる。それ故に物資の需給を統制するには單に供給量を制限するだけでなくして、直接に消費そのものゝ節約統制を勵行するの可能性を考ふべきである。實際において既に棉花の消費につ

いて切符制度による統制が論議されることゝなつた。

五

最後に残された問題は人力の統制である。キチナー將軍の所謂三つのエムの最初のものである。我國の戦時統制經濟は歐洲戦争時代の外國のそれに比較して遙かに整備したものであつて、或は統制が行き過ぎてゐるのでないかと思はれることもあるが、たゞ人の統制については用意充分なりといひ兼ねる。戦争が現在の規模に止まれば甚だしき差支を感じないとしても、局部的には既に問題が起つてゐるのである。

人力の統制は要するに適材適所を最大規模に組織することである。而してその問題の焦點は兵士の動員と軍需工業の従業者との釣合である。軍隊は一定の動員計畫によつて豫備軍人を召集するが、その中に軍需工業の熟練者がある場合、彼等をして戦線に立たしむるか、又は工場に働かしむるかは問題である。我國の如き若き年齢層の人口が年々増加する國では職工が召集されても直ちに同年輩のものを募集し來つて補充することは容易であるが、しかし同じ作業について同じ熟練を有するものを補充することは決して容易ではない。新しき重工業の發展しつゝある國情として、この事は寧ろ至難の場合が少くないやうである。

この問題に關して歐洲戦争の際、諸外國において非常な混雜を生じた。英國の如きは徴兵制度のない國であつたから、戦争開始と共に募兵が行はれたのであるが、募兵官の活動が進歩すると軍需工場における熟練工の不足を來した。その矛盾を正すために徴章制度を設け、熟練工に對しては雇主より徴章を交付して募集を斷らせるやうにした。然るにこの徴章制度が普及するに及んで逆に募兵の不足を生じ、それが爲めに徴章の交付を制限することゝなつた。而して結局全體を統制する準備の整つた時は既に戦争の終に近かつたといふことである (Wolfe, H. Labour Supply

and Regulation. "Economic and Social History of the World War" British Series, 1923).

ナチス・ドイツは流石に統制經濟の國であつて、すべての熟練工は各自に手帳を與へられ、その手帳には過去において如何なる工場に如何なる地位において幾年間働いたかといふことが明細に誌されてゐる。それが平時には身元證明の用をなし、一朝事あるとき人員統制の資料となるのである。

我國において人員統制の問題が如何様に取扱はれてゐるか、又如何なる統制計畫が立案されつゝあるか。それはまだ明瞭でないが、しかし現に軍需工業の重要部門たる製鐵業、石炭業、機械製作業等において多數の出征者を出したために熟練者の補充は困難となり、職工争奪が起り、作業能率が低下してゐることは既に顯著なる事實であつて、到底これを放置しておくことは出來ないであらう。差向き熟練者の出征を或程度何かの方法によつて制限することになるのではないかと思はれる。

しかのみならず重工業における熟練者の不足は事變開始以前から痛感されたところであつて、所謂生産力擴充のための熟練工養成が企てられてゐたのである。故に戦時においては、尙更この種の勞働力の新しき供給は必要となるべきこと明かである。即ち消極的に現在の熟練者の出征を引留めるだけでなく、積極的に新しき勞働力を作り出すための適切なる職業教育が必要となるのである。

又現在では軍需生産の多忙を極むる結果として勞働時間は非常に延長せられ、機械の運轉速度は速められてゐるが、かゝる勞働の強化が勞働者の健康と能率に悪影響を生ぜしめない筈はない。戦時には非常の手段も止むを得ないといつても人間の精力に限度の存することを考慮せねばならぬ。現在ではこの點について雇主・勞働者共にあまりに無關心ならざるやを疑ふのである。

更にまた軍事上の動員が一層大規模に行はるゝやうな場合になれば、人員統制の問題は出征者と軍需工業従業者と

の釣合だけには止まらなくなる。全国的に、又各種の勞働力が動き出して、補充が頻繁に行はれ、平素生産的に働いてゐない力を呼出すやうになる。このやうな場合に混雑と無駄を少くすることが出来るか否かは職業紹介所の機能如何にかゝる。しかるに現在の職業紹介所がこのやうな任務を盡すに足るだけの有能な組織を具へてゐるとは考へられない。尙事變後の復員 "demobilization" の問題に想到するとき現在の職業紹介機關の不備を痛感するのである。現に職業紹介所國營の問題が議せられるに至つたが、この制度の整備は刻下焦眉の急務といはねばならぬ。

要するに我國の戦時經濟計畫において資金及物資の統制は相當に整備されてゐるけれども、人員の統制については大に爲すべきことが、尙遺されてゐるやうである。(昭和十二年十一月二十日)

本文は商科大学にて、昭和十二年の秋學期に、諸教授分擔して戦時經濟特別講義を開くに當り、筆者がなした講演「戦時經濟總論」を幾分増補したものである。